

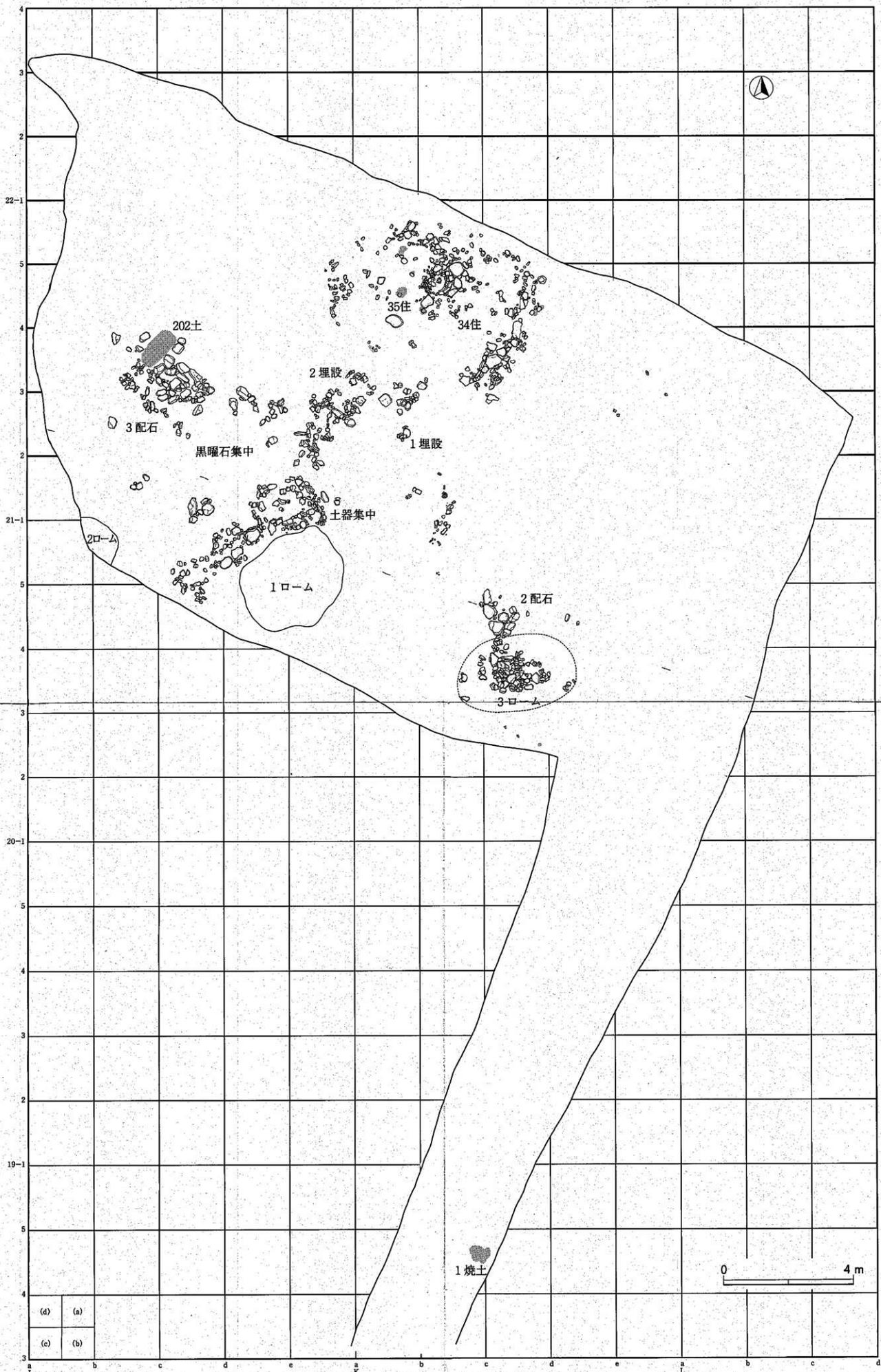
大六殿遺跡

駒形遺跡

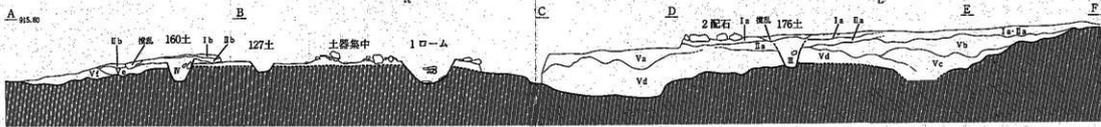
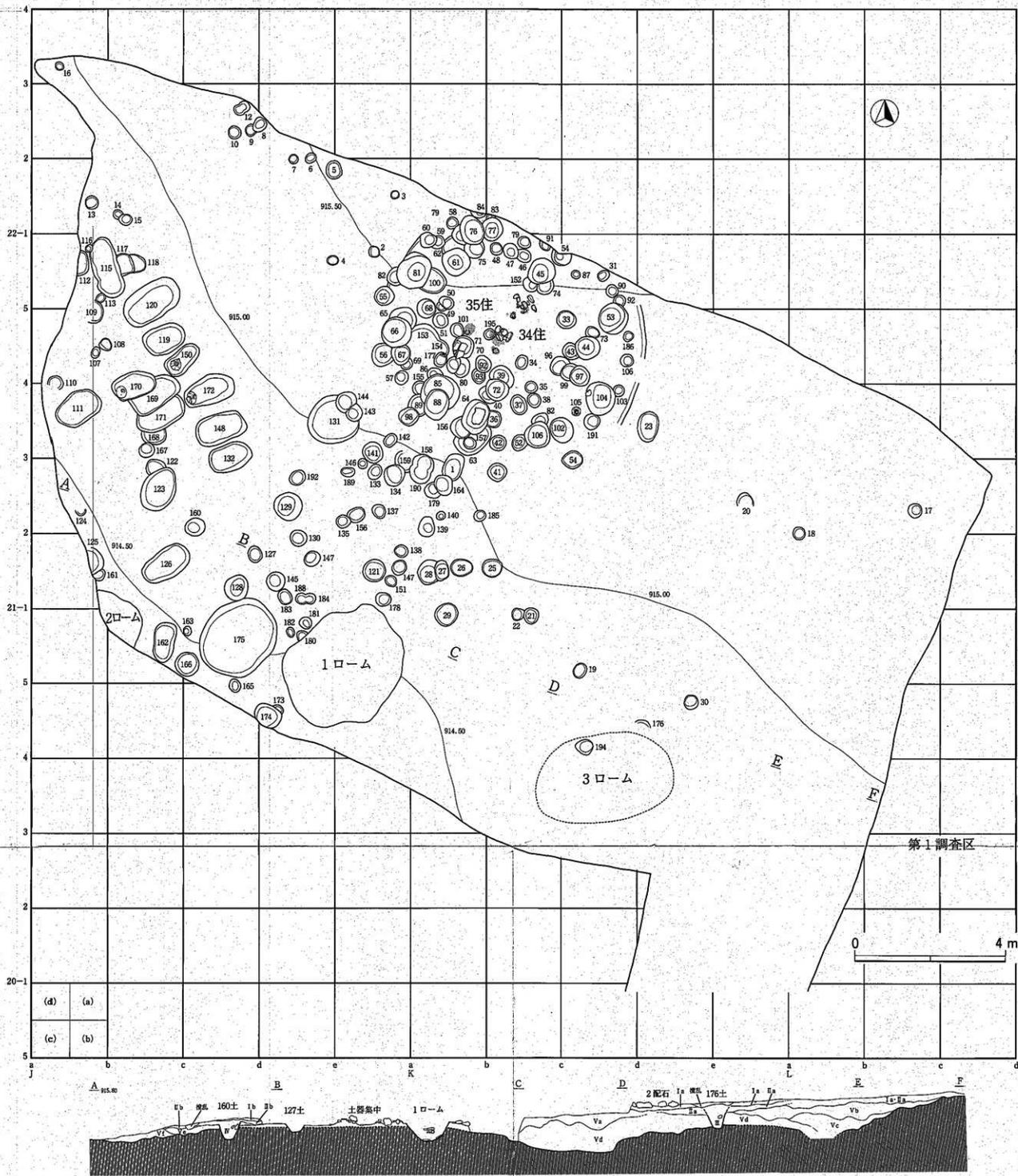
— 県営ほ場整備事業米沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2002.3

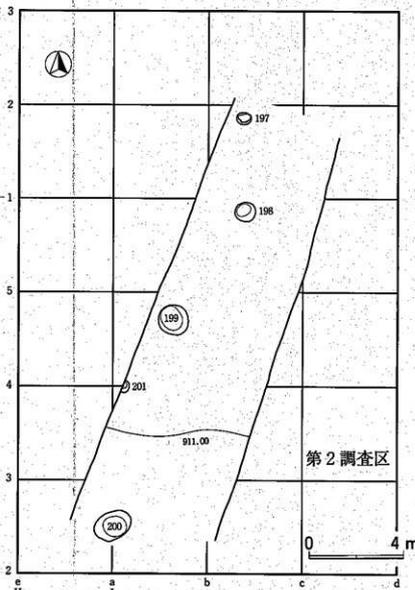
茅野市教育委員会



駒形遺跡第1調査区 上面検出遺構全体図 (1/80)



- A-F 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-1cm少 炭化物2mm少
- Ia 褐色土10V920+口-A粒子少 層2-5mm多
- Ib 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-3mm少 炭化物2mm少
- IIa 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-10cm少 炭化物2-5mm少
- IIb 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Ia-I 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- IIc 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- IV 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Va 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vb 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vc 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vd 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Ve 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vf 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vg 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- Vh 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少
- VI 褐色土10V920+黒褐色土10V920 口-A粒子少 層2mm-5mm少 炭化物2-5mm少



胸形遺跡第1・2調査区遺構全体図 (1/80)

DAIROKUDEN SITE

大六殿遺跡

KOMAGATA SITE

駒形遺跡

—— 県営ほ場整備事業米沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

2002.3

茅野市教育委員会

序 文

本州最大の黒曜石の原産地である八ヶ岳・霧ヶ峰を後方に擁する茅野市では、旧石器時代以来の人々の活動の痕跡が残り、市内には300を超える遺跡が発見されています。中でも縄文中期には縄文王国と評されるほどに繁栄し、これまでに多くの遺跡が発掘されています。

こうしたフィールドは優れた考古学研究を生み出し、縄文文化の解明に寄与してきました。日本で最初に縄文集落の姿が明らかにされた国特別史跡である尖石遺跡をはじめ、市内には上ノ段遺跡、駒形遺跡と3つの国史跡があります。

茅野市米沢の駒形遺跡は、霧ヶ峰山塊の南方直下に位置する縄文の大集落で、豊富な黒曜石の散布量から黒曜石の供給拠点と考えられてきました。平成10年には「黒曜石の集積、製作、搬出に關与していた集落跡と推定され、当時の石器製作技術や交易の実態を知る上で重要」として国史跡に指定され、保存活用されることとなりました。

本書は、平成11・12年度に県営ほ場整備事業に先立ち発掘調査された駒形遺跡の一部と大六殿遺跡の成果をまとめたものであります。今回の発掘で得られたデータは今後の駒形遺跡の保存活用に生かしていきたいと思っております。

最後になりますが、駒形遺跡の国史跡指定にご尽力ご援助頂きました地元の方々、発掘調査及び遺物整理作業等、長期間にわたりご協力頂きましたの方々をはじめ、関係者の方々に心より感謝致します。

平成14年3月

茅野市教育委員会
教育長 両角 源美

例 言

1. 本書は、平成11・12年度県営圃場整備事業米沢地区に伴う、長野県茅野市所在の駒形遺跡・大六殿遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、諏訪地方事務所の委託を受け、国庫及び県費の補助を得て、茅野市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は大六殿遺跡を平成11年9月9日から12月28日にかけて、駒形遺跡を平成12年3月1日から7月24日まで実施した。出土品の整理及び報告書の作成は、平成12・13年度に茅野市文化財課において行った。
4. 本調査において、基準点測量を入原測量（有）に、航空写真測量を（株）東京航業研究所に委託した。
5. 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵保管している。
6. 発掘調査から報告書作成までに下記の諸氏からご指導、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げる次第である。

会田進	青木正洋	白居直之	小坂英文	河西克造	亀割均	河原喜重子
小林公明	小松隆史	五味一郎	五味裕史	高見俊樹	田中慎太郎	田中総
田中基	寺内隆夫	戸沢充則	長崎元廣	西香子	林賢	原明芳
樋口誠司	平出一治	平林彰	平林とし美	廣瀬昭弘	宮坂光昭	武藤雄六
百瀬長秀	柳澤亮					

目 次

第I章 発掘調査の概要	1
第1節 事業の経緯	1
第2節 調査の経緯	2
第3節 調査の方法	2
第4節 調査の体制	3
第5節 遺構・遺物の概要	4
第II章 遺跡の環境	5
第1節 遺跡の位置	5
第2節 周辺の遺跡	6
第3節 遺跡の地理的環境	8
第4節 遺跡の歴史的環境	8
第5節 遺跡の層序	11
第III章 大六殿遺跡の遺構と遺物	12
第1節 縄文時代の住居址	13
第2節 竪穴状遺構	19
第3節 土 坑	20
第4節 屋 外 炉	35
第5節 配 石 址	35
第6節 焼 土 址	37
第7節 平安時代の住居址	43
第8節 溝 址	44
第9節 野 溜 め	44
第IV章 駒形遺跡の遺構と遺物	50
第1節 縄文時代の住居址	50
第2節 土 坑	55
第3節 埋設土器	58
第4節 配 石	58
第5節 土器集中地点	60
第6節 黒曜石集中地点	62
第7節 焼 土 址	63
第V章 ま と め	88
第1節 大六殿遺跡	88
第2節 駒形遺跡	90
第3節 結 語	92

第I章 発掘調査の概要

第1節 事業の経緯

茅野市米沢地区の県営ほ場整備事業は平成4年に始まる。事業が進行する中、平成6年度と8年度に長野県教育委員会を主体として、遺跡の詳細分布調査が米沢北大塚区で実施された。この中に位置する駒形遺跡と大六殿遺跡には、表面採集とトレンチ法による試掘調査が実施されている。かねてよりその重要性が認識されていた駒形遺跡は、この調査結果を受け平成10年1月16日に国史跡に指定された。周辺の遺跡が消滅していく中、この指定により27,919.22㎡の範囲が保存活用されることとなった。しかし、指定範囲の周辺は引き続き同事業が実施されることとなった。その為、平成10年度に事業主体者である農政部局の諏訪地方事務所と文化財保護部局である長野県教育委員会・茅野市教育委員会の三者において保護協議がもたれた。その結果、駒形遺跡の国史跡指定範囲外と大六殿遺跡の全域が平成11年度に発掘調査されることとなった。駒形遺跡の指定範囲外については、可能な限り盛土設計として遺跡の保存を図り、調査については盛土部分を試掘調査、切土範囲を発掘調査することとなった。

平成11年度に入り、両遺跡の調査は茅野市に委託され、教育委員会がこれを担当することとなった。発掘調査は農作物の刈り入れが終了する同年9月9日から実施された。本調査に先立ち大六殿遺跡の発掘範囲を確定させるための試掘調査を実施した。この結果、遺跡の調査範囲は6,000㎡となった。試掘調査終了後、直ちに表土剥ぎ作業に入ったが、黒褐色土の堆積が厚くはかどらず同工程に約2ヶ月を要した。遺構の分布は散漫なもの、時期的な調査環境の悪化に苦しみられ、大六殿遺跡の発掘を終了したのは12月28日であった。

この時点では駒形遺跡の調査には全く着手することができなかった。年を越して1・2月の発掘調査は土壌の凍結により難しく、駒形遺跡の調査に着手したのは平成12年3月1日であった。調査は、盛土部分の試掘トレンチ掘削と、本調査となる切土部分の表土剥ぎ作業を同時に進行していった。試掘トレンチ3本100㎡を掘削した結果、国史跡の指定範囲から外れた検沢川河岸へと広がる部分にも遺跡が広がっていることが確認された。また、本調査箇所となる切土設計部分の600㎡の遺構密度は高く、年度内の終了が不可能となった。この為、上記の三者による保護協議が改めて実施され、平成12年度への継続調査が認められた。平成11年度の調査は3月17日で一旦打ち切られた。平成11年度に要した大六殿遺跡・駒形遺跡の調査費用総額は、19,600,000円（農政部局負担88% 17,248,000円・文化財保護部局負担12% 2,352,000円）であった。

平成12年度になり、駒形遺跡の調査が再開されたのは4月3日であった。3月の遺構検出作業で縄文時代後期前半の敷石住居址が耕作土直下で確認されたため、敷石や配石などの礫を用いた遺構は上面で検出し、土坑は下面で検出することとした。上面とした遺構検出面は検沢川に由来する礫を多量に含んだ黒色土層から黒褐色土層であり、遺構に伴う礫と地山礫の鑑別に苦慮した。また、下面での遺構検出作業も覆土と地山の色調が類似し、作業は思うように進まなかった。遺構検出作業に相当の時間を費やしたことが調査期間を長引かせ、駒形遺跡の発掘を終了したのは7月24日であった。平成12年度に要した駒形遺跡の調査費用総額は、6,200,000円（農政部局負担88% 5,456,000円・文化財保護部局負担12% 744,000円）であった。

平成13年度は両遺跡の報告書作成業務を行った。他の業務の兼ね合いから本格的に作業を開始したのは平成14年1月からである。平成13年度に要した費用総額は、1,000,000円（農政部局負担88% 880,000円・文化財保護部局負担12% 120,000円）である。

第2節 発掘の経緯

(1) 大六殿遺跡

- 平成11年9月9日 本日より調査開始。調査範囲確定の為、重機（1台）を用いてトレンチ法による試掘を実施する。4トレンチを設置する。
- 平成11年9月10日 昨日に続いて試掘調査を続行、6トレンチを実施する。この結果に基づき調査範囲を6,000㎡と確定する。
- 平成11年9月13日 重機による調査範囲の表土剥ぎ作業を開始。
- 平成11年9月20日 表土剥ぎ作業と併せ遺構検出作業を開始する。
- 平成11年10月4日 重機を一台追加導入し、2台体制で表土剥ぎ作業を開始する。
- 平成11年10月9日 遺構の発掘調査を開始。
- 平成11年11月3日 重機による表土剥ぎ作業終了。
- 平成11年11月5日 基準杭設置。
- 平成11年12月17日 ヘリコプターによる航空写真測量の実施。
- 平成11年12月21日 ヘリコプターによる景観写真撮影の実施。
- 平成11年12月28日 発掘機材を搬出し大六殿遺跡の発掘調査を終了とする。

(2) 駒形遺跡

- 平成12年3月1日 本日より調査開始。重機を用いて切土部分の表土剥ぎ作業と盛土部分の試掘を実施する。
- 平成12年3月15日 ラジコンヘリコプターによる航空写真測量の実施。
- 平成12年3月17日 平成11年度の調査を終了。
- 平成12年4月3日 平成12年度の調査を開始。
- 平成12年4月6日 遺構の検出作業を再開。
- 平成12年5月11日 重機を搬入し本調査区の一部を掘削する。
- 平成12年6月20日 ヘリコプターによる航空写真測量の実施。
- 平成12年7月11日 国史跡の境界に沿う農道と第1調査区北側水田の表土剥ぎに伴う立ち会いを実施する。
- 平成12年7月24日 発掘機材を搬出し駒形遺跡の発掘調査を終了とする。

第3節 調査の方法

(1) グリッド設定

駒形・大六殿遺跡全体を網羅するグリッド計画を設定し、遺構、遺物の記録、遺物取上げの基準とした。グリッドの設定は国家座標第Ⅱ系を用い、 $X=3,930.000$ $Y=27,900.000$ を基準軸として、10m四方の大グリッドの中に2m四方の小グリッドを配置した。大グリッドの名称は南から北に向かって1・2・3～、西から東に向かってA・B・C～A2・B2・C2とした。小グリッドの名称は南から北に向かって1・2・3・4・5、西から東に向かってa・b・c・d・eとした（例A1a1 第4図参照）。なお、駒形遺跡では遺物の取り上げに際し、小グリッドを1m四方に4分割している。名称は北東を(a)とし、時計回りに(b)・(c)・(d)とした（例A1a1(a)）。

(2) 試掘トレンチ・表土除去

試掘トレンチ掘削作業および本調査での表土除去作業はバックホーを用いて実施した。

第4節 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会文化財課が実施した。組織は下記のとおりである。

(1) 調査組織（平成11～13年度）

- ①調査主体者 両角源美（平成11～13年度 教育長）
- ②事務局 宮坂泰文（平成11～12年度 教育次長）
伊藤修平（平成13年度 教育部長）
- ③文化財課 矢嶋秀一（平成11～13年度 文化財課長）
轟剣幸雄（平成11～12年度 文化財係長・平成13年度 尖石縄文考古館長）
守矢昌文（平成11～12年度 文化財課職員・平成13年度 文化財係長）
小林深志（平成11～13年度 文化財課職員）
大谷勝己（平成11～13年度 文化財課職員）
功刀司（平成11～13年度 文化財課職員）
小池岳史（平成11～13年度 文化財課職員）
百瀬一郎（平成11～13年度 文化財課職員）
小林健治（平成11～13年度 文化財課職員）
柳川英司（平成11～13年度 文化財課職員）
大月三千代（平成11～12年度 文化財課職員）
金井美代子（平成13年度 文化財課職員）
- ④調査担当 小池岳史（平成12年度駒形遺跡発掘調査・平成13年度駒形遺跡整理報告担当）
小林健治（平成11年度大六殿・駒形遺跡発掘調査・平成13年度大六殿遺跡整理報告担当）
- ⑤発掘調査・整理作業参加者
- | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 補助員 | 牛山矩子 | 太田友子 | 原敏江 | 堀内渾 | 矢崎つな子 |
| 作業員 | 牛山和男 | 牛山才司 | 牛山晴雄 | 太田義明 | 小野教 |
| | 金子清春 | 木戸克子 | 小池泰幸 | 小飼満智子 | 小平長茂 |
| | 小平義一 | 小松要 | 五味計佐雄 | 酒井みさを | 大勝弘子 |
| | 大丸多栄子 | 立岩貴江子 | 田中進 | 花岡照友 | 樋口豊 |
| | 福田幸宗 | 宮坂勇 | 宮下加代子 | 三輪辰秋 | 柳沢侃 |

(2) 執筆分担

本報告に係わる文責は下記のとおりである。

第Ⅰ章……小池岳史・小林健治

第Ⅱ章……小池岳史・小林健治

第Ⅲ章……小林健治

第Ⅳ章……小池岳史

第Ⅴ章……小池岳史・小林健治

第5節 遺構・遺物の概要

(1) 大穴遺跡

①遺構

縄文時代に属する遺構は、住居址8軒・竪穴状遺構3基・土坑158基・配石1・焼土址が検出されている。縄文住居址8軒の時期別内訳は早期前半が1軒(8号)、前期末葉が3軒(1・4・5号)、後期前葉が4軒(7・9・11・12号)である。竪穴状遺構としたものは比較的規模の大きい竪穴であるが、「住居」とする根拠をみいだせなかったものである。当初、57号土坑・3号住居址・10号住居址として番号を付したものをそれぞれ、1・2・3号竪穴状遺構と呼称を変更した。時期的内訳は縄文前期末葉が1基(2号)、中期初頭が1基(1号)、不詳が1基(3号)である。土坑は159番まで番号を付している。このうち上記の57号土坑が欠番となるため、総数は158となる。調査状況から土坑のほとんどは縄文時代に属するものとみている。配石は後期前半に属するもので、台地を横切る谷状の地形部に位置する。焼土址は5基検出されたうち、2基が縄文時代後期前葉に属するものとみられる他は、時期不明である。また、この時代に属するものかはっきりしないが、屋外炉が1基ある。

平安時代に属するものは、住居址2軒である。その他、時代の特定ができない溝址が2条ある。溝址の時期は不明であるが、縄文と推定される土坑を切り、近現代とみられる野溜め1基に切られている。溝址としたが、人造のものかはっきりしない。

②遺物

縄文時代の土器は、縄文早期前半・前期前半・前期末葉・中期初頭・後期前葉のものが出土している。量的に前期末葉・後期前葉のものが多く、遺構と同様な傾向を示している。9号住居址からは小型土製品も1点出土している。石器は丸石・台石・石皿・磨石・凹石・敲石・定角式磨製石斧・打製石斧・横刃型石器・スクレイパー・石匙・石鏃・石錐・ピエス・エスキューの他、剥片・石核・原石などが出土している。石製品には47号土坑から出土した袂状耳飾りが1点ある。平安時代の遺物には、土師器・灰輪陶器・須恵器・磁石がある。その他、わずかに中世陶器片も出土している。

(2) 駒形遺跡

①遺構

各遺構の概要および記述は第IV章に譲るとし、ここでは本調査と平行して実施した埋土範囲の試掘調査と、国史跡の境界に沿う農道と第1調査区北側水田の表土剥ぎに伴う工事立ち会いの概況を記す。埋土範囲の試掘は3本のトレンチで実施した。1・2トレンチでは土坑数基、3トレンチでは住居址1軒と土坑数基が確認された。農道と水田の立ち会いは表土剥ぎに併せて実施した。農道では第1調査区脇から北方約140mの間に住居址状の落ち込み数箇所が確認された。第1調査区脇から南方約60mは現道に盛土するため立ち会っていない。水田にはトレンチを1本入れて、表土の厚さと遺構の有無を確認した。遺構は確認されなかった。

②遺物

縄文時代の土器は後期前葉から中葉が大半である。早期・前期・中期の土器も数点ずつ出土している。石器は凹石・磨石・敲石・磨製石斧・打製石斧・石匙・石鏃・石錐・調整加工のある石片などがある。なお黒曜石製の石器を含む黒曜石の総重量は8694.8gである。石製品は垂飾が1点あり、滑石製とみられる。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

駒形遺跡（遺跡番号34）・大六殿遺跡（遺跡番号33）は、茅野市米沢字駒形5130・口香地外に位置する。経緯度は東経138度11分、北緯36度2分である。ここは霧ヶ峰山塊の南端にあたり、ゆるやかに傾斜する扇状台地に、両遺跡は連続して立地している。茅野駅から北東方面へ6kmの位置にあり、茅野市米沢北大塩の集落に隣接する。駒形遺跡と大六殿遺跡の両遺跡は同一台地上に展開しており、そこに地形的な境界があるわけではないが、上方の範囲が大六殿遺跡・下方の範囲が駒形遺跡として登録されている。



第1図 大六殿・駒形遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/50,000)

26上の平・27丸山・28よせの台・29芝ノ木・30一ノ瀬・31鳥の窟・32大六殿上・33大六殿・34駒形・35大清水・36上の山・37向林・38三軒屋・39大桜・40八幡坂・41中ノ平・42丸山・43蛇石・44棚沼・212尼崎前・213田部石・214榎原田城跡・215榎原田・216李久保・241牛ノ見・242間久保・243経御前・244桂入・287平十郎久保・288小久保・309葛瀬沢・310大田苅・311出の脇・312買地

第2節 周辺の遺跡

(1) 霧ヶ峰南麓の遺跡概要は下表のとおりである。

第1表 霧ヶ峰南麓の遺跡

遺跡番号	遺跡名	時代・時期													備 考		
		旧石器	縄 文					弥 生			古墳	奈良	平安	中世			
			早期	前期	中期	後期	晩期	不明	前期	中期						後期	
26	上の平	●			●												1994年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
27	丸山				●	●											
28	よせの台			●	●	●	●										1976年発掘調査(原因一工場建設)
30	一ノ瀬・芝ノ木	●	●	●	●	●	●								●		1994～1998年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
31	鳥の窪				●	●										●	
32	大六殿上															●	
33	大六殿			●	●		●									●	1999年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
34	駒形	●	●	●	●	●	●									●	2000年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
35	大清水					●											
36	上の山				●												
37	向林			●	●												1998年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
38	三軒屋				●												
39	大塚			●	●	●	●			●					●		1999～2000年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
40	八幡坂			●	●	●	●									●	1997～1998年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
41	中ノ平					●	●										
42	丸山			●	●	●											1973年発掘調査(原因一会社厚生施設建設)
43	蛇石								●								
44	棚畑	●	●	●	●	●	●									●	1986年発掘調査(原因一米沢工業団地造成)
212	尼御前				●												
213	田部石				●												
214	壇原田城跡															●	
215	壇原田								●								
216	李久保								●								
241	牛ノ見								●								
242	間久保																不明
243	姫御前																不明
244	桂入																不明
287	平十郎久保			●													
288	小久保								●							●	
309	高瀬沢								●								
310	大田苺			●	●	●										●	1999年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
311	出ノ脇								●								
312	買地			●	●	●											1999年発掘調査(原因一県営ほ場整備事業)
	合計	4	10	15	17	9	3	7		1					8	4	

(2) 発掘された器ヶ峰南麓の遺跡の概要は下表のとおりである。

第2表 発掘された器ヶ峰南麓の遺跡の概要①

遺跡番号 遺跡名 種別	調査 面積 (㎡)	調査期間	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	報告書名
26 上の平 うえのだいら 集落址	6,342	1994.5.24～ 1994.12.22	旧石器 縄文	縄文住居52 -前期1 -中期45 -不明6 土坑269 ピット群 地下式穴7	彫器・割片 中期後半土器 黒曜石製石器 打製石斧	・旧石器時代の散布地 ・縄文時代中期の集落址	『上の平遺跡』 茅野市教育委員会 1995年
28 よせの台 よせのだい 集落址	460	1976.6.12～ 1976.7.19	縄文	住居址13 -前期4 -中期9 小竪穴22	縄文早期・前期・ 中期後半・後期初 頭土器 縄文石器・鉄片耳 飾り		『よせの台遺跡』 茅野市教育委員会 1978年
29・30 芝ノ木・ 一ノ瀬 しばのき いちのせ 集落址	20,081	1996.6.4～ 1997.1.31 1997.4.21～ 1998.1.30	旧石器 縄文	住居址98 方形柱穴列22 石箱墓44 土坑773 住居址13	槍先形尖頭器 ナイフ形石器 早期前半～ 後期初頭土器片 土俵・土製耳飾 土鏡・1/16 灰胎陶器 鉄製環状 象付銅片	・縄文時代早期前半から 後期初頭まで継続する拠 点的な集落で、黒曜石製 石器が多量に出土しており、 黒曜石製石器製作遺 跡であったと考えられる。	『一ノ瀬・芝ノ木 遺跡』 茅野市教育委員会 2001年
37 向林 わかいばやし 集落址	5,000	1998.6.15～ 1998.10.30	縄文	住居址11 -早期10 -前期1 土坑60	早期形型土器片 1/16・石鏡 割片・砕片・特殊 磨石 前期踏碇C土器片 石鏡・割片・磨石 打製石斧 須恵器杯・須恵器 横板・土師器 壺	・縄文時代早期、前期末 の集落址 ・平安時代の集落址	『向林遺跡』 茅野市教育委員会 1999年
39 大塚 おおざくら (集落址)	1,900	2000.7.23～ 2001.1.13 2001.6.26～ 2001.9.6	縄文	住居址28 土坑2228 埋設土器9 礎土壁6 列石・配石 黒曜石集積1 住居址6 礎土1	縄文中期後半～ 後期中業土器 雲葉型垂飾 青長岩垂飾 琥珀型垂飾 土俵 土師器壺・坏 須恵器壺・坏 鉄製紡錘車	・縄文時代中期から後期 中業の拠点的な集落址 ・平安時代の集落址	『大塚遺跡』 茅野市教育委員会 2001年
40 八幡坂 はちまんざか 集落址	3,500	1997.7.7～ 1998.1.14	縄文 中世	住居址22 土坑236 掘立柱遺物址 方形竪穴16 地下式穴13 土坑55	縄文土器 石器 灰胎陶器 鉄胎陶器 内蓋土器 土師質土器 石臼 小金銅仏		『八幡坂遺跡』 茅野市教育委員会 1998年
42 丸山 まるやま 集落址	3,000	1973.11.16～ 1973.12.11	縄文	住居址3 -前期2 -中期1 住居址1(不明) 小竪穴10	縄文前期・中期土 器 石器		『丸山遺跡』 茅野市教育委員会 1974年
44 棚畑 たなばたけ 集落址	9,000	1986.4.9～ 1986.11.1	旧石器 縄文	住居址149 -前期3 -中期146 竪穴状遺構2 方形柱穴列14 土坑643 ピット群 無石遺構7 敷石遺構1 住居址9 掘立柱遺物址3 土坑1 掘立柱遺物址3 柱穴列1 土坑8	尖頭器・割片 縄文土器 縄文石器 土製品 土鏡 (国宝「土偶」1) 平安土器 土製品・鉄製品 石製品 陶磁器 鉄貨	・縄文中期の集落を主と する遺跡 ・中期の集落跡は住居跡 が環状に配列する ・環状集落の中央広場より 国宝「土偶」(縄文の ビーナス)が出土	『棚畑』 茅野市教育委員会 1990年

第2表 発掘された霧ヶ峰南麓の遺跡の概要②

遺跡番号 遺跡名 種別	調査面積 (㎡)	調査期間	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	報告書名
310 大田町 だいたがり 集落址	5,200	1999.6.22～ 1999.10.15	縄文 平安	住居址12 —前期9 —中期2 —後期1 土坑182 竪穴住居址5	有形尖頭器 土器・石鏃・打製 石斧・磨製石斧 石匙・挾杖耳飾 土師器杯・斐 須磨器杯・風 灰袴陶器碗	・縄文時代前期終末を主 体とする集落址 ・平安時代の集落址	『大田町遺跡』 茅野市教育委員会 2001年
312 買地 かいち 集落址	939	1999.5.20～ 1999.6.30	縄文	住居址6 —早期5 —中期1 土坑5	早期末土器片 スリベル・石鏃 剥片・砕片 中期中葉土器片 中期後半土器片	・縄文時代早期末の集落 址	『買地遺跡』 茅野市教育委員会 2000年

第3節 遺跡の地理的環境

霧ヶ峰山塊の南麓は940m付近が末端となり、これより下方は南下する河川により形成された扇状地で、傾斜は急激に緩くなる。扇状地は僅かに傾斜しながら広がり、南方に流れる上川の沖積地に連する。上川を挟んで対岸は、八ヶ岳山麓の台地であり、地形的な境界となっている。霧ヶ峰の支峰である朝倉山の端から永明寺山の端にかけて約3.6kmにわたる範囲が霧ヶ峰南麓に該当し、この間に東から南へと流れを変える上川に挟まれて、形状は弧状に湾曲している。この一帯は霧ヶ峰より流れる藤沢川・前島川、検沢川、横河川により三つの大きな扇状地に区分される。日照りが良く地味肥沃で、塩沢・北大塩・鉢物師屋・埴原田の各集落がある。

胸形・大六殿遺跡の立地する扇状地は、霧ヶ峰跡場湿原「池のくろみ」を水源とする検沢川に形成されたものである。胸形・大六殿遺跡はこの左岸に位置する。遺跡は扇状地開口部の標高930m付近から900m付近まで遺跡が広がる。遺跡の東側を霧ヶ峰の山脚が延び、西側を検沢川が流れ、地形的な区画を形成している。

胸形遺跡から南へ100m程下ると北大塩大清水水源がある。この水源は霧ヶ峰を水源とする豊富な水量を誇る湧水で、茅野市の上水道最大の水源である。

第4節 遺跡の歴史的環境

霧ヶ峰南麓は、豊富な水や動植物などの自然環境に恵まれる他、この一帯の扇状地を形成する河川の谷筋や尾根筋に沿って北上すれば、霧ヶ峰の黒曜石原産地に辿り着くという立地を背景に、縄文時代を中心として多くの遺跡が分布している。石器原材料となる黒曜石の原産地を背後にかかえるという条件が、遺跡の性格に大きな影響を与えることはいうまでもなく、一帯の遺跡群は黒曜石の交易上に極めて高い役割を担っていると考えられている。

地理的環境の中で前述したとおり、霧ヶ峰南麓はそこを下る河川によって大きく三つの扇状地に区分される。それぞれの扇状地にはこの地方を代表する縄文の大遺跡が分布する。藤沢川・前島川の扇状地には一ノ瀬・芝ノ木遺跡が、検沢川の扇状地には胸形遺跡が、横河川の扇状地には大桜遺跡が立地する。遺跡はこの扇状地と一段高い丘陵や崖線地にも点在する。北の朝倉山先端に立地する上の平遺跡、南の永明寺山裾に立地する棚畑遺跡などの大遺跡が立地する。棚畑遺跡は国宝「土偶（縄文のビーナス）」の出土した遺跡で全国にその名を知られる。これらの拠点の遺跡を含め、一帯には大小34の遺跡が登録されている。

次に胸形遺跡の歴史を概観する。大正から昭和の初めにかけ、地元在住の医師である田実文朗氏は考古資

料の収集に打ち込み、駒形遺跡からも多くの遺物を採集している。大正9年には『諏訪史』第一巻の執筆を任された東京帝国大学の鳥居龍藏氏が駒形遺跡を訪れ、田実氏のコレクションを実現している。この資料は『諏訪史』第一巻の編纂にも貢献するところが大きかった。現在は諏訪市美術館に保管されている。

最初の発掘は、昭和36年に諏訪実業高校地歴部により実施されている。尖石考古館の宮坂英次氏の指導を得て、縄文前期初頭の住居址(1号住居址)を発掘すると共に、縄文中期後半の住居址(2号住居址)と後期の配石遺構を発見した。当地において縄文前期初頭の住居址の発見は昭和27年の神ノ木遺跡以来のことであり、この時期の住居址としては、県下で最も早く発見された住居の一つである。その後の発掘は、再び諏訪実業高校地歴部により昭和41年に実施された。2条のトレンチを設定し、3軒の住居址(3・4・5号住居址)を発見した。3号・4号の2軒の住居址からは縄文中期後半の土器が出土している。5号住居址は4号住居址との重複が確認されている。この後、記録に残る発掘調査は28年後の平成6年に長野県教育委員会を主体に実施された詳細分布調査となるが、この間には米沢考古学クラブによる霧ヶ峰産黒曜石交易路を探る研究が実施されている。

地元研究者によりなる米沢考古学クラブは、昭和48年「古道」をまとめ、霧ヶ峰産黒曜石原産地の搬出ルートを探る調査結果を報告している。同クラブは霧ヶ峰南麓の扇状地を形成する河川の沢筋を現地踏査し、霧ヶ峰産黒曜石の茅野市側遺跡群への黒曜石搬出ルートを幾筋か想定している。駒形遺跡に至るルートは、霧ヶ峰台上の湿原「池のくろみ」から南方への伸びる尾根筋「大久保一池のクルマ線」を通り、検沢川の谷筋を抜ける「検沢線」が推定されている。

茅野市米沢地区の県営ほ場整備事業は平成4年に始まる。同事業の進展と共に、周辺の遺跡が発掘され、多くの知見を与える一方で、発掘調査の終了と共に遺跡が消滅していく中、米沢北大塩地区の遺跡の範囲と性格を把握する為に、平成6年度と8年度の2カ年にわたり長野県教育委員会を主体として詳細分布調査が実施された。平成6年には、この地区の表面採集調査を実施すると共に駒形遺跡・大六殿遺跡の両遺跡に19トレンチを発掘し、縄文前期初頭から後期前葉にかけての住居址28軒(6～33号住居址)と後期の配石址と共に大量の黒曜石を検出している。平成8年には駒形遺跡の南斜面部に9トレンチが発掘されるが、少量の遺物のみしか検出されなかった。この調査により、駒形遺跡の分布、時期・内容が詳細に分析され、「黒曜石製石器の製作及び交易に深く関わった遺跡であることが確認」された。

これらの調査結果を受け、文化庁によりその重要性が審議されていた駒形遺跡は、平成10年1月16日をもって国の「史跡」に指定された(平成10年1月16日 官報 第2300号登載 文部省告示第12号)。指定の通知書には「八ヶ岳西南麓に位置する縄文中期を中心とした大規模な拠点集落跡である。縄文時代の石器石材として珍重された黒曜石の原産地として名高い霧ヶ峰から、尾根・谷筋を南に下った最初の平場に所在する。多量の黒曜石の継ぎ原石、作りかけなどが発見された。黒曜石の集積、製作、搬出に関与していた集落跡と推定され、当時の石器製作技術や交易の実態を知る上で重要な遺跡であるので、史跡に指定して保存を図るものである」と説明されている。指定を受けた地域は63筆、7道路、面積は27,919.22㎡である。

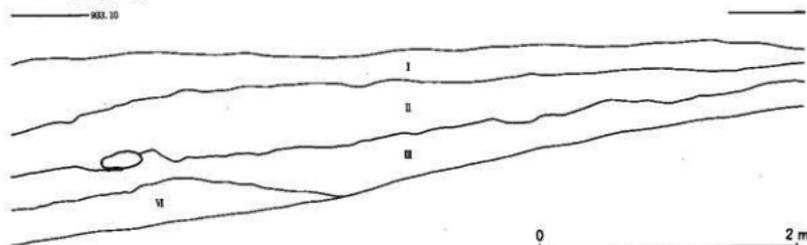
この指定範囲の周辺は、ほ場整備事業の対象地として計画され、大六殿遺跡および駒形遺跡の一部は第1章に記した経過を経て、平成11年・12年度の発掘調査を迎えることとなる。

第5節 遺跡の層序

(1) 大六殿遺跡の層序 (第3図)

大六殿遺跡の層序は調査区北側 (W44グリッド) の壁面で確認したものを示した。

- ① I層 黒褐色土 (10YR 2/2) 耕作土で非常に固い。白色・赤褐色の粒子を多く含む。
- ② II層 黒褐色土 (10YR 2/2) 白色・赤褐色粒子 (1mm以下) を疎らに含む。炭化物 (2mm以下) を僅かに含む。
- ③ III層 暗褐色土 (10YR 3/4) 白色・赤褐色粒子 (1mm以下) を僅かに含む。炭化物 (2mm以下) を僅かに含む。
- ④ IV層 暗褐色土 (10YR 3/4) 白色・赤褐色粒子 (1mm以下) を僅かに含む。III層よりやや土色がくすんでいいる。



第3図 大六殿遺跡の層序 (1/40)

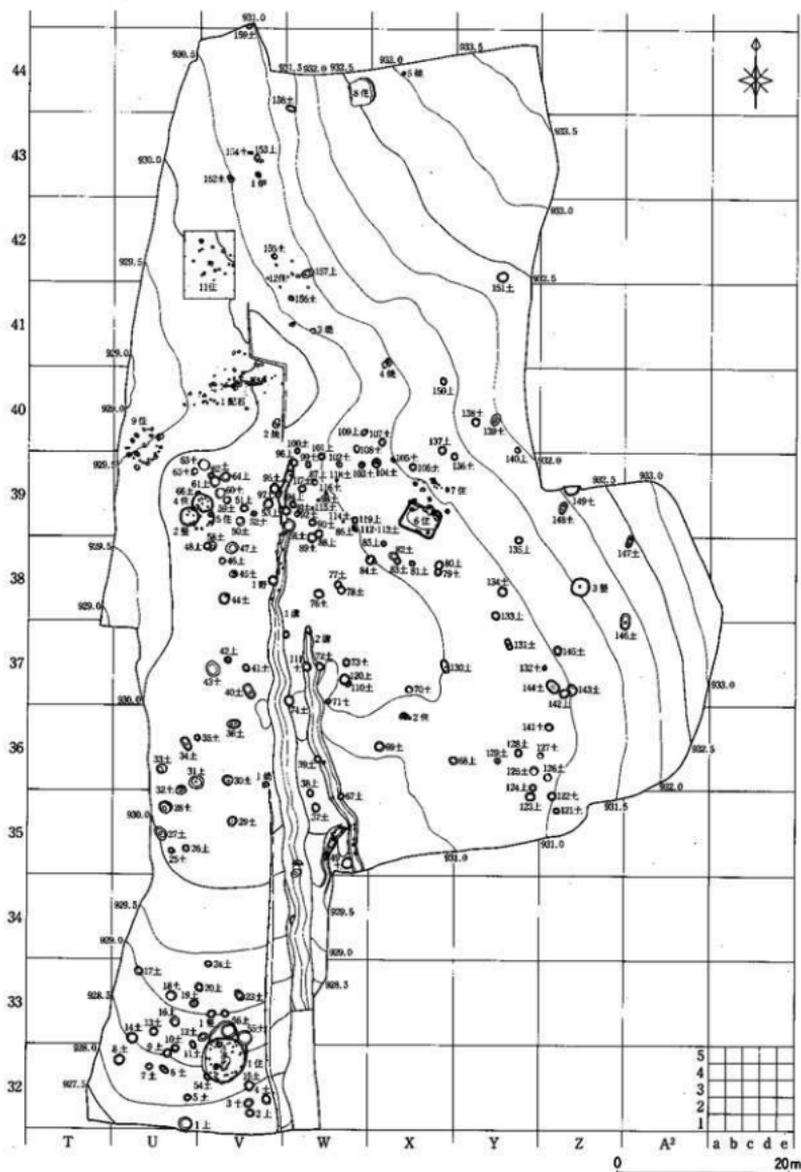
(2) 駒形跡の層序 (付図)

駒形遺跡の層序は第1調査区の南東から北西に設定したサブトレンチの断面で確認したものを示した。

調査区は松沢川左岸に形成された扇状地の西縁辺に当たり、第2図の等高線から読み取れるとおり南西方向への緩斜面となる。第1調査区の北東約60m付近で松沢川は北西へ向きを変えるが、すぐに流れの向きを南西方向に戻す。ちょうど第1調査区は扇状地の幅が西へ広がり始めた地点に位置している。

各調査地点では松沢川の沖積作用を受けた痕跡が確認されている。第1調査区の最終的な遺構検出面となった明黄褐色土層 (土層断面図の縦線網掛け) は砂質土層とも言え、大小の礫を多量に含む。その状態からみてロームの再堆積層と考えられる。その面を覆うV層群は松沢川起源の土石流の堆積層と考えられ、V a・V d～V f層には30cm大までの礫が多量に含まれている。V aとV d層が重なりあう地点では砂利が確認され、北西から南西へ土砂が流れた痕跡 (埋没旧河道) が捉えられた。縄文時代後期前葉から中葉の遺構はV層群の堆積後、現在と同様の南西方向への緩斜面となった後に構築されていると考えられる。なお、第3トレンチには砂とシルトの堆積層があり、36号住居址の覆土を切ることが確認されている。

第三章 大六殿遺跡の遺構と遺物



第4図 大六殿遺跡全体図 (1/600)

第1節 縄文時代の住居址

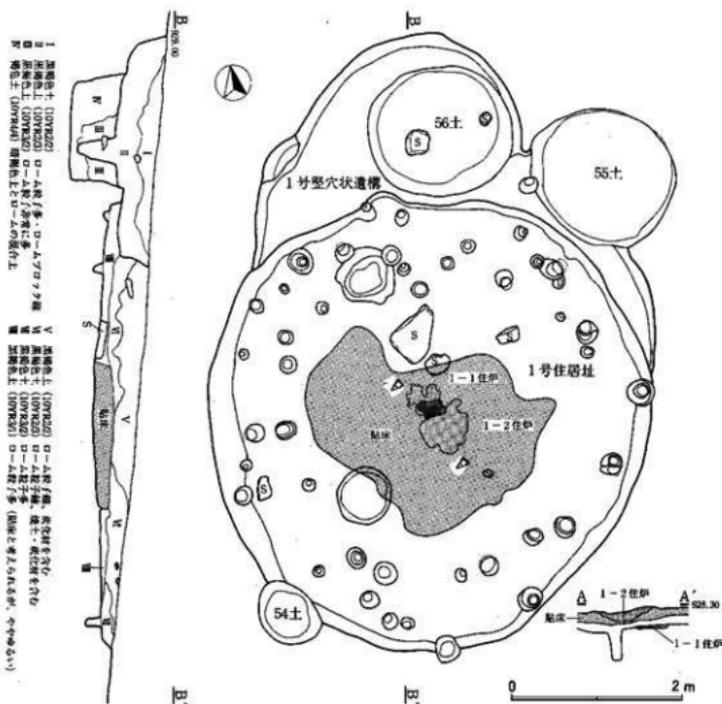
縄文時代の住居址は8軒検出されている。時期は早期前半が1軒、前期末が3軒、後期前半が4軒である。

(1) 1号住居址 (第5図)

遺構 V32グリッドに位置する。54・55・56号土坑・1号竪穴状遺構と重複する。55土を切り、1号竪穴状遺構に切られる。54・56号土坑との新旧関係は不明である。1号住居址は一回の建て替えが想定されるため、古い方からそれぞれ1-1号住居址・1-2号住居址として報告する。

1-1号住居址の平面形は円形を呈し、規模は5.0×4.6mを測る。長軸方向はN4Eを示す。壁の検出高は36cmである。柱穴と考えられるピットが壁に沿って環状に配列する。1-2号住居址のもの二組あると考えられるが、ピットの組合せは難しい。炉は地床炉で、ほぼ中央に位置する。炉に近接して盤状の礫が出土している。

1-2号住居址は1-1号住居址上に貼床を施して構築されたものである。ローム土を用いた貼床の中心に地床炉が検出されている。壁は1-1号の西壁から北壁にかけて一段高く広がる部分が本址の壁と考えられるが、その他は検出できなかった。壁の検出高は10cmである。平面形・規模等は不明であるが、炉・柱穴な



第5図 1号住居址・1号竪穴状遺構 (1/60)

ど住居構造が1-1号住居址と類似することから、これと同等と考えられる。貼床よりやや高い位置、第2層中には焼土ブロックの広がり認められた。

遺物 土器は早期前半・前期後半・前期末葉・中期初頭に属する土器が出土している。主体となる土器は前期末葉と中期初頭のものである。本址に伴うと考えられるものは前期末葉のものである。本址を切る1号壑穴状遺構から中期初頭の半完形土器2固体が出土しており、本址出土として取り上げた同時期のものは1号壑穴状遺構に伴うものかもしれない。

石器は磨石4・凹石2・敲石1・打製石斧4・石匙1・石鏃4・石鏃未成品4・石鏃1・ピエス・エスキーユ7の他、剥片等が出土している。黒曜石の出土重量は1,601.5gと他の住居と比較して圧倒的に多い。

時期 縄文前期末葉と考えられる。

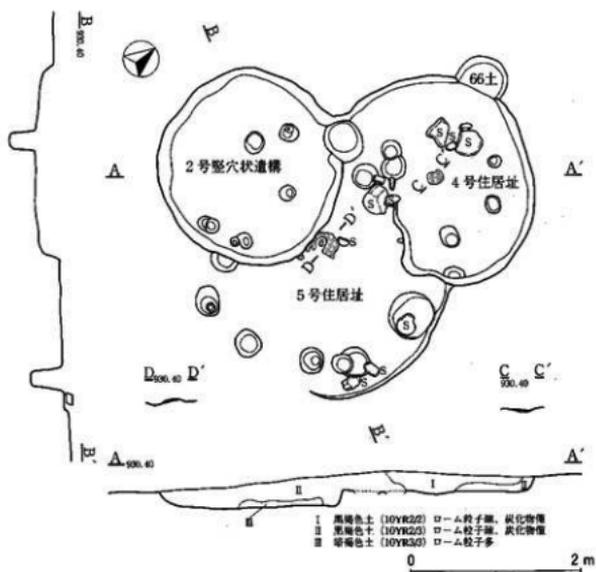
(2) 4号住居址 (第6図)

遺構 V39グリッドに位置する。5号住居址に切られ、2号壑穴状遺構と66号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形は楕円形と考えられ、規模は2.4×2.0m程度と推定される。壁の残存高は16cmである。本址の主柱穴になると考えられるピットはない。炉は地床炉で、中央に位置する。

遺物 遺構が重複するため遺物の帰属は難しいが、土器は前期末葉の破片が出土している。石器は石皿1・磨石2・石鏃1の他、剥片等が出土している。石皿と磨石は床面に残されていた。

時期 縄文前期末葉と考えられる。



第6図 4号住居址・5号住居址・2号壑穴状遺構 (1/60)

(3) 5号住居址 (第6図)

遺構 V39グリッドに位置する。2号壑穴状遺構と4号住居址と重複する。5号住居址の炉址が2号壑穴状遺構の上および、4号住居址にかかる部分には貼床が検出されたことから、本址の方が新しい。

平面形は円形と考えられ、規模は3.2×3.2m程度と推定される。壁は東部に僅かに検出されたのみである。柱穴と考えられるピットが炉を中心に環状に配列する。炉は地床炉で、中央に位置する。

遺物 遺物は2号壑穴状遺構と4号住居址との混在が否めないが、土器は前期末葉の破片が出土している。

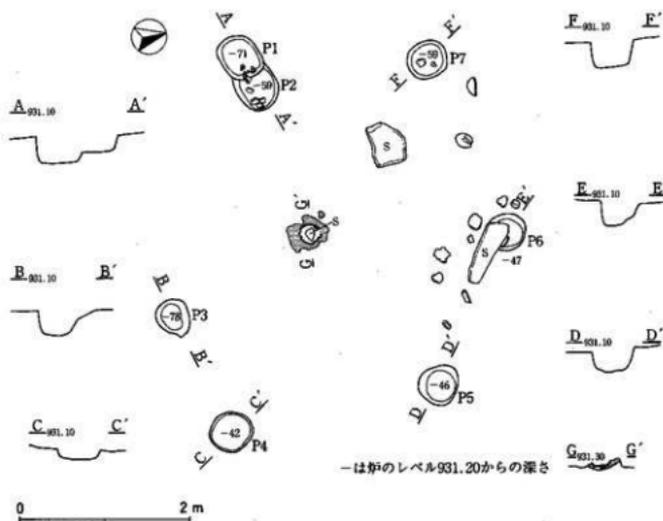
このうち、47号土坑出土の土器片と接合するものがあつた。石器は台石1・磨石2・ピエス・エスキューユ1・剥片1が出土している。

時期 縄文前期末葉と考えられる。

(4) 7号住居址 (第7・28図)

遺構 X39グリッドに位置する。平安時代の6号住居址に切られる。

縄文時代の敷石住居址で、掘り込みが浅く床面が黒褐色土中にある。この為、住居平面形は検出できず、床面では僅かに残存する敷石と炉しか検出できなかった。炉は埋燬炉である。底部と胴部上位を欠く鉢が埋められ、その中に平石が据えられていた。床面を削平していき、ローム面で検出したピットが7箇所あり、柱穴とみられる。



第7図 7号住居址 (1/60)

遺物 土器は後期前葉の炉体土器(第28図1)が一部残る他、前期前半・前期末葉・中期初頭・後期前葉の土器が出土している。後期前葉の中には注口土器(第28図2)が1点ある。石器は磨石3・凹石1・敷石1・定角式磨製石斧6・石鎌1・ピエス・エスキューユ3の他、剥片等が出土している。

時期 縄文後期前葉とみられる。

(5) 8号住居址 (第8図)

遺構 W44グリッドに位置する。重複関係はない。

検出されたのは、東壁と固い床面部分のみである。この部分の規模は3.2×3.0m床面は固く光沢があり凸凹しており、地形の傾斜と同様に東から西に傾く。西側にピットが一つ検出されたが、住居の覆土と異なり、

この遺構に伴うものではないとみられる。炉・柱穴などの施設はないが、縄文早期前半の押型文土器が出土したことから、該期の住居と判断した。

遺物 遺物は僅かである。土器は3片出土した。1点は早期前半押型文土器・2点は無文である。石器は黒曜石の剥片等が3点出土している。

時期 縄文早期前半とみられる。

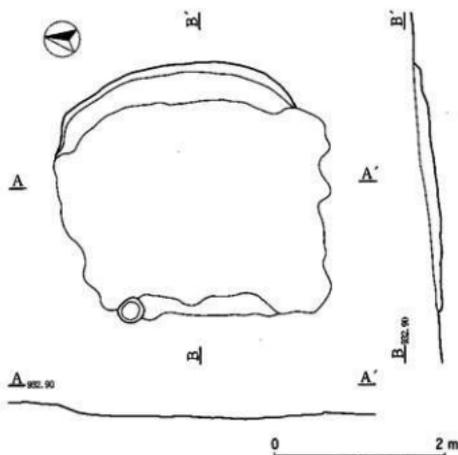
(6) 9号住居址 (第9・28図)

遺構 U40グリッドに位置する。

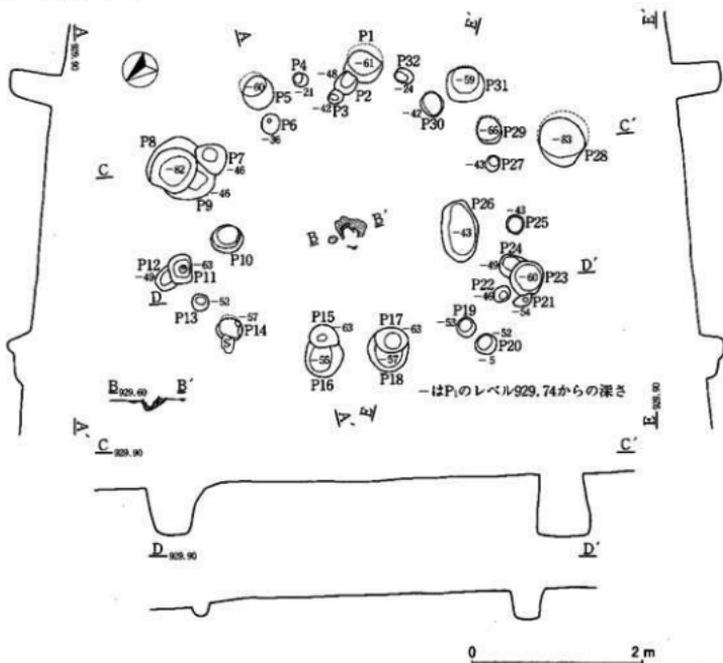
重複関係はない。

ピットと炉が検出されている。検出されたピットは32本で、北東-南西に長い楕円形状に配列している。

配列の規模は4.9×3.9m程である。出入口部と予想されるP15-P18間からP1を軸方向とするとN130Eである。炉は埋塞炉で、無文の深鉢の胴下半部が埋められている。位置は軸線上の中心部よりやや北西にあり、出入口部側に近い。



第8図 8号住居址 (1/60)



第9図 9号住居址 (1/60)

遺物 遺物は主にピットから出土している。土器は後期前葉のものが出土している。炉体土器(第28図9)の他、P26からは完形で小型の鉢(第28図10)が出土した。またP18からは小型の土製品が出土している。石器は横刃型石器1・ピエス・エスキュー2の他は剥片等である。

時期 縄文後期前葉とみられる。

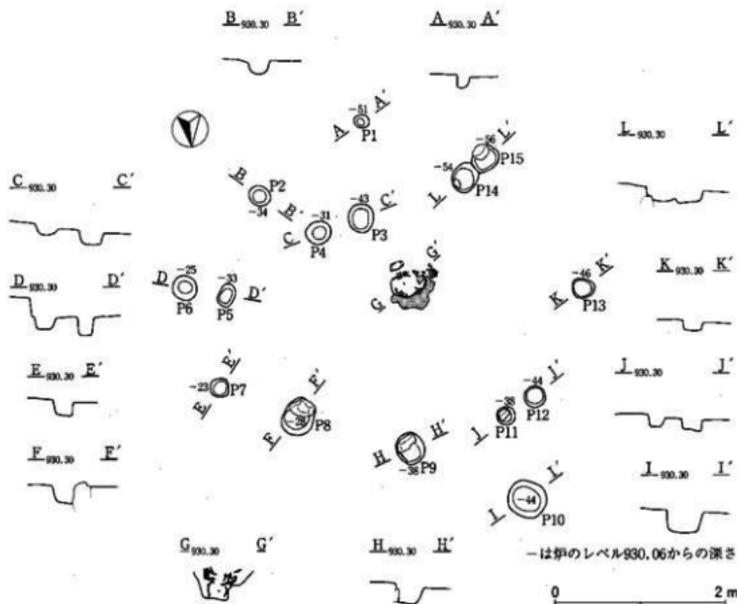
(7) 11号住居址 (第10・29・30図)

遺構 V42グリッドに位置する。重複関係はない。

炉とピットが検出されている。炉は埋室炉である。少なくとも7個体分の土器を用いて構築されている。構造は下部に1(第29図)の鉢を逆位に埋設し、その上部に2の深鉢を正位に設置している。この2の中に3・4の土器の深鉢が2個体入り、更にこの内に5(第30図)の鉢が正位に入る。これらの上部の土器と混じって別個体の6・7の土器片が出土している。炉周辺の焼けは薄く、焼土の粒子が観察される程度である。ピットは炉の埋設レベルでは検出できず、この周辺を掘り下げたところ15個が検出されたが、いずれも明瞭なものではない。やや外れた位置にあるP10を除くと配列の規模は5.0×4.0m程で、形状は東-西に長い楕円である。

遺物 土器は炉体土器(第29・30図1~7)のみであるが7個体分ある。後期前葉のものである。石器はP15から出土した丸石1の他に、剥片石器2が出土したのみである。

時期 縄文後期前葉とみられる。



第10図 11号住居址 (1/60)

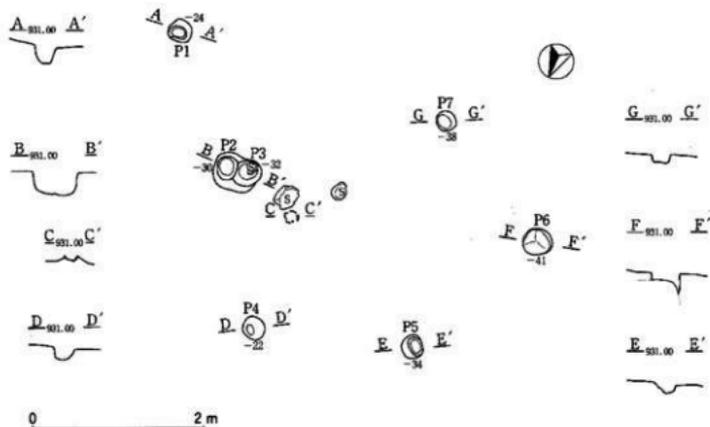
(8) 12号住居址 (第11・30図)

遺構 W42グリッドに位置する。重複関係はない。

炉とピットが検出されている。炉としたものは、深鉢の胴下半部が埋設されていたものだが、周囲から焼跡は観察されなかった。ピットは周辺から7個が検出されたが、いずれも明瞭なものではない。

遺物 土器は後期前葉の炉体土器 (第30図8) がある。石器はピエス・エスキーユ1の他、剥片等あわせて3点出土したのみである。

時期 縄文後期前葉とみられる。



第11図 12号住居址 (1/60)

第2節 竪穴状遺構

竪穴状遺構としたものは3基ある。比較的規模の大きい竪穴であるが、「住居」とするだけの根拠をみいだせなかったものである。いずれも縄文時代の遺構である。

(1) 1号竪穴状遺構 (第5図)

遺構 V33グリッドに位置する。1号住居址と56号土坑と重複しこれを切る。平面形は円形で、規模は口径2.7×2.6m・底径2.4×2.4mと推定される。本址の中央部から56号土坑を掘り込むピットの存在が土層断面で確認されている。ピットの深さは44cmである。

遺物 土器は中期初頭の半完形土器が2固体出土している。この他に前期末葉、後期の土器片が出土している。前期末葉のものは重複する1号住居址のものか。石器は剥片等が出土しているのみである。

時期 縄文中期初頭と考えられる。

(2) 2号竪穴状遺構 (第6図)

遺構 U39グリッドに位置する。5号住居址に切られ、4号住居址と重複するが新旧関係は不明である。平面形は円形で、規模は口径2.2×2.2m・底径2.0×1.9mである。本址に伴うと確定できるピットはなく、炉などの施設もない。

遺物 土器は破片が3点出土しているが、本址に帰属するものと断定できない。時期のわかるものは前期末葉である。石器は両極石器と剥片が1点ずつ出土している。

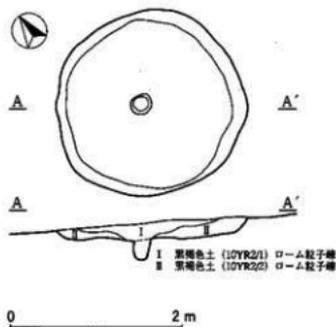
時期 時期決定資料に欠けるが、縄文前期末葉としておきたい。

(3) 3号竪穴状遺構 (第12図)

遺構 Z38グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は口径2.2×2.1m・底径1.9×1.9mである。中央に深さ26cmのピットがある。

遺物 土器は縄文土器片が1点出土している。石器は剥片1・裂片1が出土している。

時期 縄文時代と考えられるが、時期不詳である。



第12図 3号竪穴状遺構 (1/60)

第3節 土 坑

土坑は159番まで番号を付している。このうち、57号土坑を第1号堅穴状遺構と変更したため、その総数は158となる。第3表土坑一覧表・第4表大穴遺跡石器組成表・第13～24図・第31～32図を参照されたい。

第3表 土坑一覧表①

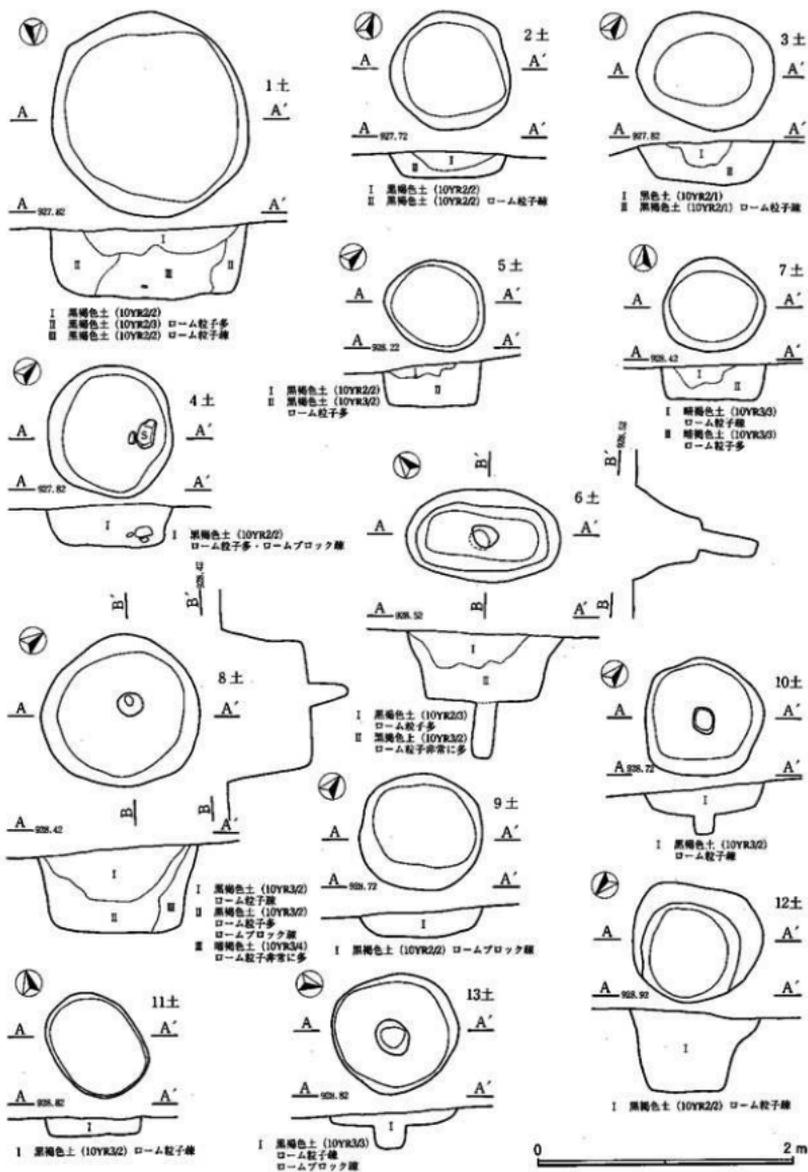
遺構番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備 考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
1土	U32	円形	158	150	142	135	59	縄文土器	
2土	V32	円形	95	94	84	74	21		
3土	V32	円形	106	94	76	57	35		
4土	V32	円形	105	101	90	83	34		礫出土
5土	U32	円形	80	71	67	62	42		
6土	U32	楕円形	122	73	87	32	58		陥し穴
7土	U32	円形	79	75	68	55	29		
8土	U32	円形	124	117	101	93	73		坑底ビット
9土	U32	円形	96	93	78	64	25		
10土	U32	円形	93	93	77	76	30		坑底ビット
11土	U32	楕円形	87	68	81	62	15		
12土	V33	円形	103	91	58	67	66	縄文後期前葉土器	
13土	U33	円形	99	95	89	83	34		坑底ビット
14土	U33	円形	126	122	104	98	48		
15土	V32	円形	115	104	103	90	23		
16土	U33	円形	104	104	95	94	53		
17土	U33	円形	92	90	82	58	31		
18土	U33	円形	120	114	94	89	47		
19土	U33	円形	97	92	90	86	50		坑底ビット
20土	V33	円形	98	87	94	83	17		
21土	V33	円形	98	91	83	81	40		礫出土
22土	V33	円形	91	83	75	69	45	縄文前期末葉土器	礫出土
23土	V33	楕円形	140	90	108	60	50		陥し穴
24土	V33	円形	77	73	73	67	28		坑底ビット
25土	U35	円形	66	63	53	50	11		
26土	U35	円形	77	75	64	64	8		
27土	U35	楕円形	163	124	120	57	98		陥し穴
28土	U35	円形	144	140	138	129	49	縄文前期末葉土器	
29土	V35	円形	118	106	81	77	53	縄文前期前半土器	坑底ビット、礫出土
30土	V36	円形	125	118	105	104	45		坑底ビット
31土	U36	円形	164	157	145	139	85	縄文早期後半・前期前半土器	坑底ビット
32土	U35	円形	124	114	90	86	88		
33土	U36	円形	117	114	103	99	69		
34土	U36	楕円形	165	92	143	57	51	縄文土器	陥し穴
35土	U36	円形	75	72	62	62	10		
36土	V36	楕円形	149	100	124	68	60		陥し穴
37土	W35	円形	106	97	101	94	28	縄文土器	礫出土
38土	W35	円形	88	76	73	61	10		
39土	W36	円形	85	81	75	68	47		2号溝と重複
40土	V37	楕丸長方形	171	99	148	62	55	縄文土器	陥し穴、礫出土
41土	V37	円形	88	77	72	61	27		礫出土
42土	V37	円形	84	76	69	63	25		
43土	V37	円形	171	143	155	123	57	縄文後期前葉土器	
44土	V38	円形	126	107	124	106	43	縄文土器	袋状の坑底ビット
45土	V38	円形	79	78	69	66	22		袋状の坑底ビット
46土	V38	円形	73	66	70	65	55	縄文前期末葉土器	礫多数出土
47土	V38	円形	143	126	77	74	69	縄文前期末葉土器・耳飾り	5号・47土→土器接合 (縄文前期末葉)
48土	V38	円形	94	81	77	65	32	縄文前期末葉土器	58土と重複、礫出土
49土	W35	円形	127	117	120	118	36		礫出土

第3表 土坑一覧表②

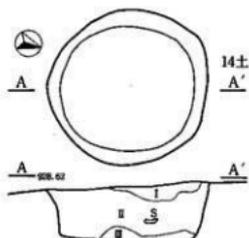
遺構 番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
50土	V39	円形	100	90	92	83	25	縄文土器	礫出土
51土	V39	円形	86	82	73	65	17	縄文前期末葉土器	51土・60土・91土→縄文土器接合
52土	V39	円形	57	57	43	39	15		
53土	V39	円形	114	110	82	78	93		
54土	V32	円形	79	66	54	51			1住と重複
55土	V33	円形	170	156	155	150	52	縄文土器	1住に切られる
56土	V33	円形	167	158	144	126			1壘に切られる、礫出土
58土	V38	円形	107	100	84	83	23	縄文前期末葉土器	48土と重複
59土	V39	円形	86	82	74	73	26	縄文後期前葉土器	
60土	V39	円形	116	115	102	101	49	縄文前期末葉土器	51土・60土・91土→縄文土器接合
61土	V39	円形	125	113	110	103	16	縄文前期末葉土器	62土と重複
62土	V39	円形	76	70	59	45	46		61土と重複
63土	V39	円形	126	122	125	121	64	縄文前期末葉土器	
64土	V39	円形	118	113	97	92	52		
65土	U39	円形	78	76	62	58	21	縄文前期末葉土器	
66土	U39	(円形)	57		46			縄文土器	4住と重複
67土	W35	円形	90	87	80	78	31		2号溝と重複
68土	X36	円形	95	91	67	61	35	縄文前期末葉土器	礫出土
69土	X36	円形	109	106	87	81	37		
70土	X37	円形	83	70	69	57	29		
71土	W37	楕円形	69	55	60	43	28		
72土	W37	円形	100	88	80	72	49	縄文前期末葉土器	
73土	W37	円形	88	84	79	74	36	縄文前期後半・前期末葉土器	
74土	W37	円形	125	116	123	107	58	縄文前期末葉土器	
75土	W37	円形	82	75	70	60	17		
76土	W38	円形	118	102	102	80	26		
77土	W38	円形	82	79	64	64	28	縄文前期末葉土器	78土と重複、礫出土
78土	W38	円形	91	90	81	70	31	縄文前期末葉土器	77土と重複、礫出土
79土	X38	円形	91	83	80	69	24		80土と重複
80土	X38	円形	100	98	89	89	16		79土と重複
81土	X38	円形	70	66	52	52	23		
82土	X38	円形	99	98	76	69	94	縄文前期末葉土器	83土と重複・中場が8cm傾りこまれている
83土	X38	円形	81	80	61	60	34	縄文前期末葉土器	82土と重複、礫出土、黒曜石出土状況注意
84土	X38	円形	107	100	102	85	57	縄文前期末葉土器	袋状の坑底ビット
85土	X38	円形	66	65	53	52	28	縄文前期末葉土器	
86土	W39	楕円形	74	44	64	34	16		112土・113土と重複
87土	W39	円形	65	63	53	50	18	縄文前期末葉土器	
88土	W39	円形	98	91	82	81	32	縄文土器	89土と重複
89土	W38	円形	122	108	109	95	12		88土と重複
90土	W39	円形	86	80	70	69	29	縄文前期末葉土器	115土と重複
91土	W39	円形	133	131	100	96	55	縄文前期末葉土器	1号溝と重複、51土・60土・91土→縄文土器接合
92土	W39	円形	72	60	60	47	12	縄文前期末葉土器	
93土	W39	円形	100	94	85	77	30	縄文土器	1号溝と重複
94土	W39	円形	75	65	62	50	19	縄文前期末葉土器	
95土	V39	円形	107	98	83	81	40	縄文前期末葉土器	
96土	W39	円形	85	82	68	65	50	縄文前期末葉土器	
97土	V39	不整形	80	72	41	39	29	縄文土器	1号溝と重複
98土	W39	円形	37	36	28	21	43		
99土	W39	円形	68	60	56	51	13		
100土	W39	円形	63	61	54	50	23	縄文前期末葉土器	
101土	W39	円形	82	76	66	64	37	縄文前期末葉土器	礫出土
102土	W39	楕円形	62	50	51	38	19		
103土	W39	円形	80	79	55	30	22		
104土	X39	円形	106	104	85	84	39		礫出土

第3表 土坑一覧表③

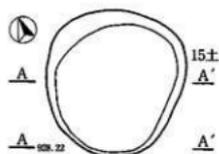
遺構番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
105土	X39	円形	52	48	20	17	41		
106土	X39	円形	89	84	72	67	36		曝出土
107土	X40	円形	88	76	63	60	24		
108土	W40	円形	86	73	72	59	26		
109土	W40	楕円形	89	79	66	57	15		
110土	W40	(円形)	84		66		25		120土と重複
111土	W37	円形	106	99	94	74	45		
112土	W39	円形	33	29	14	11	40		86土と113土と重複
113土	W39	円形	31	28	22	20	29		86土と112土と重複
114土	W39	円形	32	29	19	14	26		
115土	W39	円形	36	30	16	15	28	縄文後期前葉土器	90土と重複
116土	W39	円形	40	36	22	15	33		
117土	W39	円形	86	85	76	75	28	縄文前期末葉土器	曝出土
118土	W39	円形	29	28	26	19	33		
119土	W39	円形	73	69	59	50	13		
120土	W37	円形	122	120	113	111	79	縄文前期末葉土器	110土と重複、坑底部に礫多数集中
121土	Z35	円形	81	64	78	62	16		
122土	Z35	円形	101	99	78	76	31	縄文前期末葉土器	
123土	Y35	円形	109	108	102	101	36		曝出土
124土	Y36	円形	85	70	83	70	16		曝出土
125土	Y36	円形	103	98	92	85	28		曝出土
126土	Z36	円形	86	84	87	83	64	縄文前期末葉土器	
127土	Z36	円形	70	70	56	51	19		
128土	Y36	円形	88	83	72	69	17		
129土	Y36	円形	62	56	38	36	29	縄文前期末葉土器	
130土	X37	楕円形	160	99	131	64	61		陥し穴
131土	Y37	隅丸長方形	140	84	126	52	69		陥し穴
132土	Z37	円形	55	54	45	43	21		
133土	Y38	円形	95	80	87	76	34		
134土	Y38	円形	112	108	90	86	32	縄文前期末葉土器	
135土	Y38	円形	93	87	72	70	59		
136土	X39	円形	83	81	64	62	42		
137土	X40	円形	100	94	70	67	46		
138土	Y40	円形	95	90	77	76	37		
139土	Y40	楕円形	145	101	98	38	91		陥し穴
140土	Y40	円形	66	56	49	40	19	縄文土器	
141土	Z36	円形	95	91	83	81	37		曝出土
142土	Z37	円形	121	103	93	80	46	縄文前期末葉土器	143土と重複
143土	Z37	楕円形	134	108	117	81	46		袋状の坑底ビット・142土と重複
144土	Z37	楕円形	181	131	151	96	62	縄文中期初葉土器	陥し穴
145土	Z37	円形	109	93	76	58	47	縄文中期初葉土器	
146土	A2-38	楕円形	192	117	138	60	95		陥し穴
147土	A2-38	楕円形	146	68	99	29	103	縄文前期前半土器	陥し穴
148土	Z39	楕円形	140	84	106	50	98		陥し穴
149土	Z39	(円形)	176		156		64		半掘
150土	X40	円形	77	70	75	67	25		
151土	Y42	円形	135	116	119	105	25	縄文土器	
152土	V43	楕円形	91	69	59	35	37		覆土中から礫多く出土
153土	V43	楕円形	80	60	57	45	21		覆土中から礫多く出土
154土	V43	不整形	60	37	31	21	24	縄文土器	
155土	V42	円形	67	56	56	47	10		曝出土
156土	W41	円形	66	60	47	41	19	縄文土器	
157土	W42	楕円形	145	90	93	44	125	縄文後期前葉土器	陥し穴
158土	W44	楕円形	109	68	118	57	68	縄文土器	
159土	V45	(円形)	88		62		108		基本層序cにかかっている



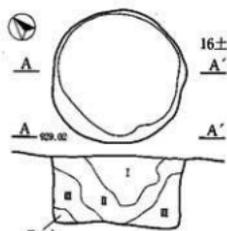
第13図 土坑① (1/40)



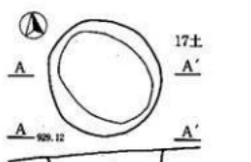
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多
- II 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒子非常に多
- III 褐色土 (10YR4/6)



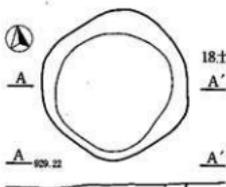
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多



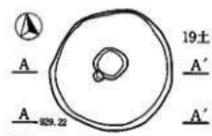
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多
- II 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子非常に多
- III 褐色土 (10YR3/4) ローム粒子、ロームブロック非常に多



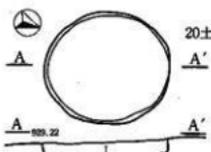
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多



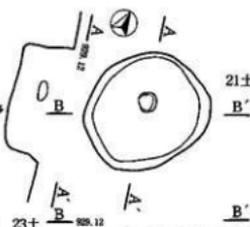
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多
- II 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック非常に多
- III 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多、ロームブロック多
- IV 褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・ロームブロック非常に多



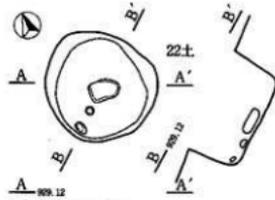
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多
- II 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多、ロームブロック多
- III 褐色土 (10YR3/3) ローム粒子非常に多、ロームブロック多



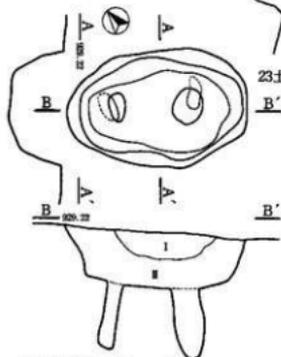
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多



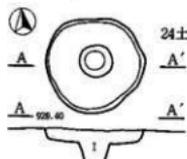
- I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多
- II 黒褐色土 (10YR2/0) ローム粒子非常に多



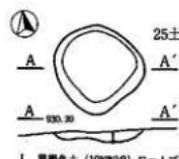
- I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多
- II 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子非常に多
- III 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多



- I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多
- II 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多、ロームブロック多



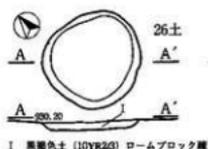
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子多



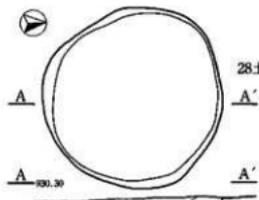
- I 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック多



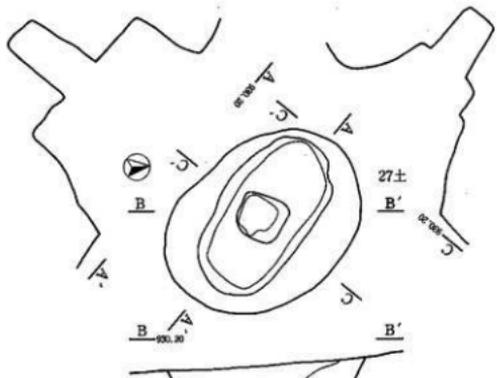
第14図 土坑② (1/40)



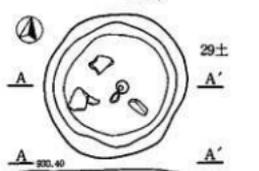
I 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック層



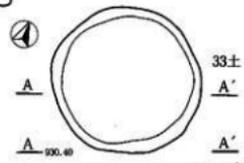
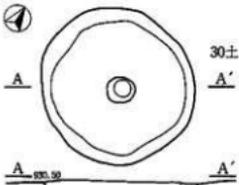
I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子層・ロームブロック多
 II 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多
 III 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・ロームブロック 非常に多



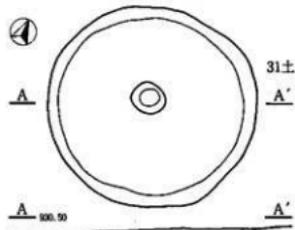
I 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック層
 II 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多
 III 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・ロームブロック非常に多



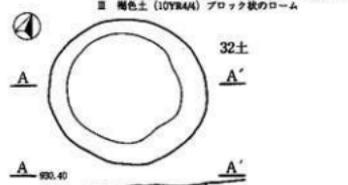
I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子層
 II 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多
 III 黒褐色土 (10YR3/4) ローム粒子非常に多
 IV 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子層
 V 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒子多



I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多、ロームブロック層
 II 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子多
 III 褐色土 (10YR4/4) ブロック状のローム



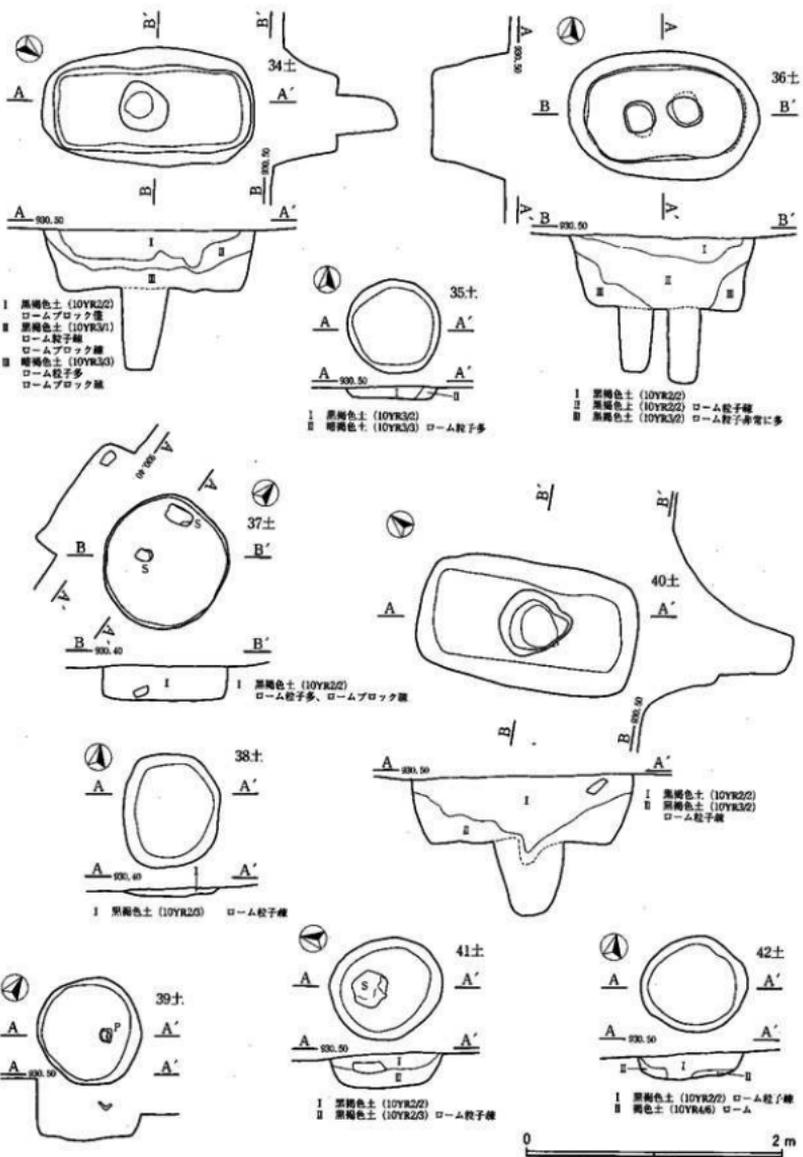
I 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子層
 II 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・ロームブロック多
 III 褐色土 (10YR2/5) ブロック状のローム



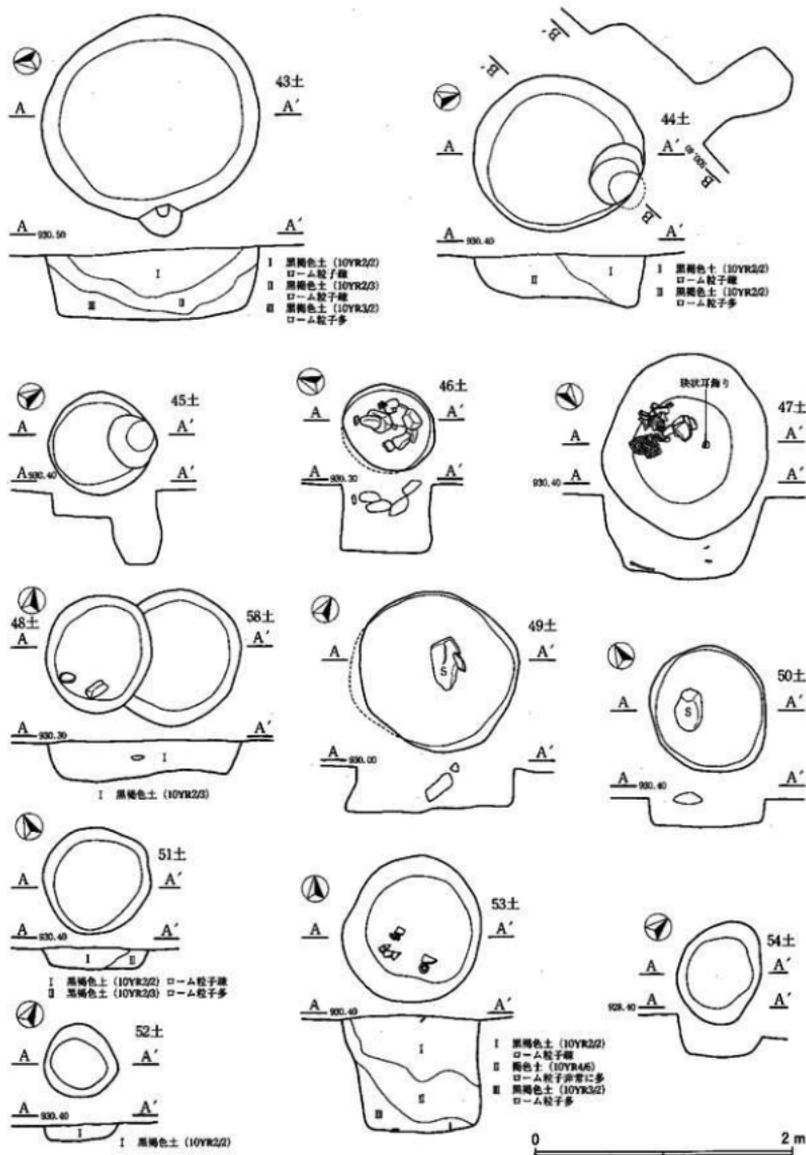
I 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック多
 II 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・ロームブロック多
 III 褐色土 (10YR4/6) ブロック状のローム



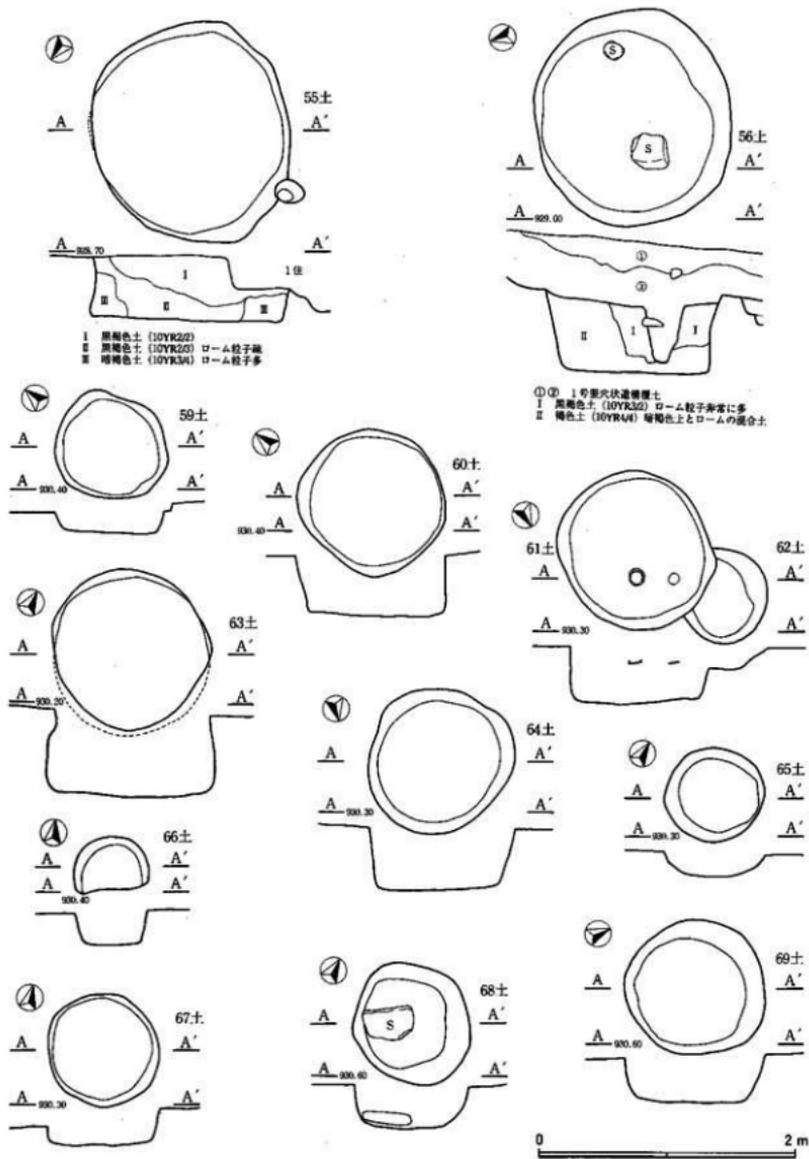
第15図 土坑③ (1/40)



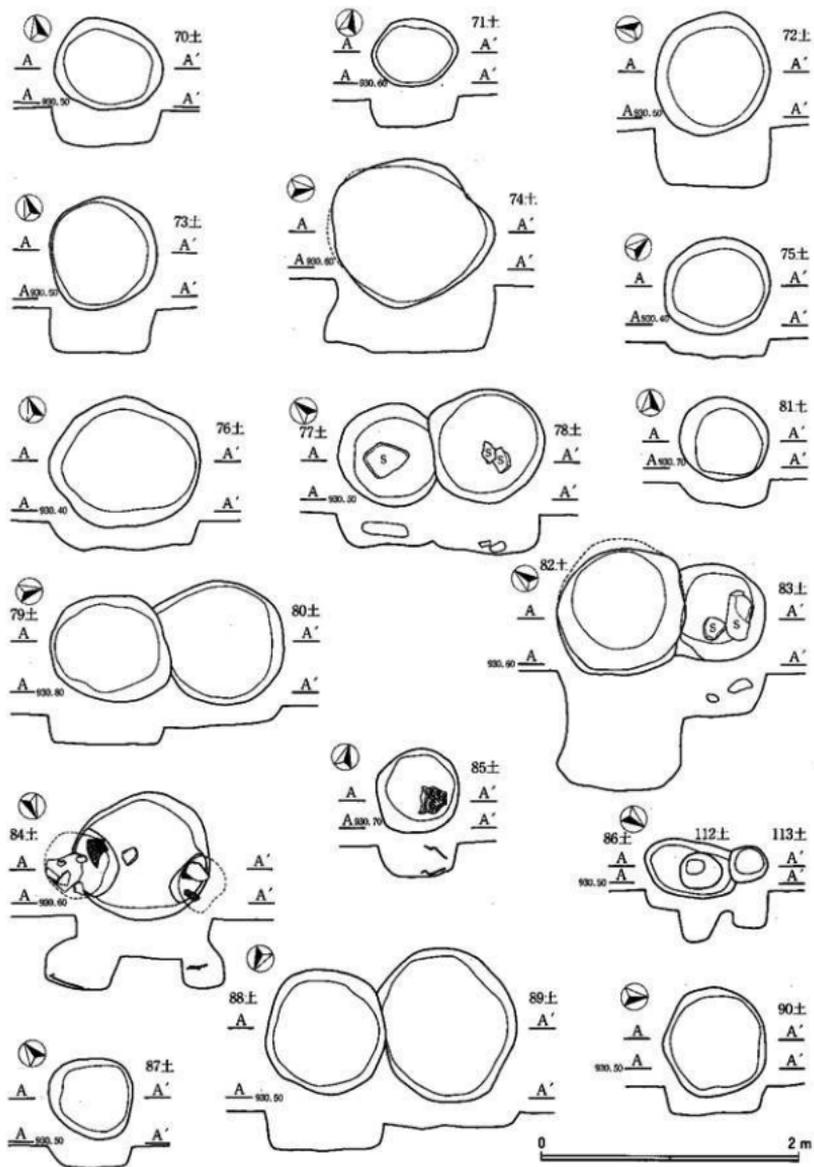
第16図 土坑④ (1/40)



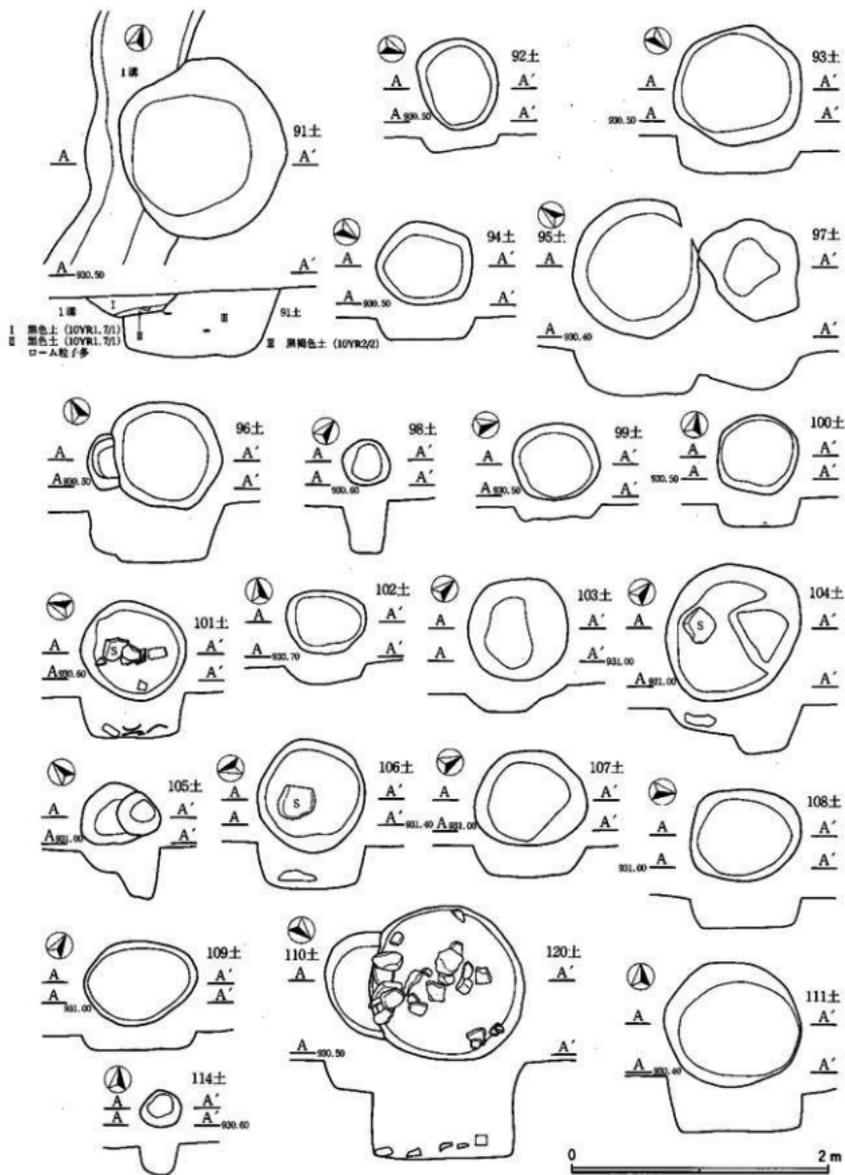
第17図 土坑⑤ (1/40)



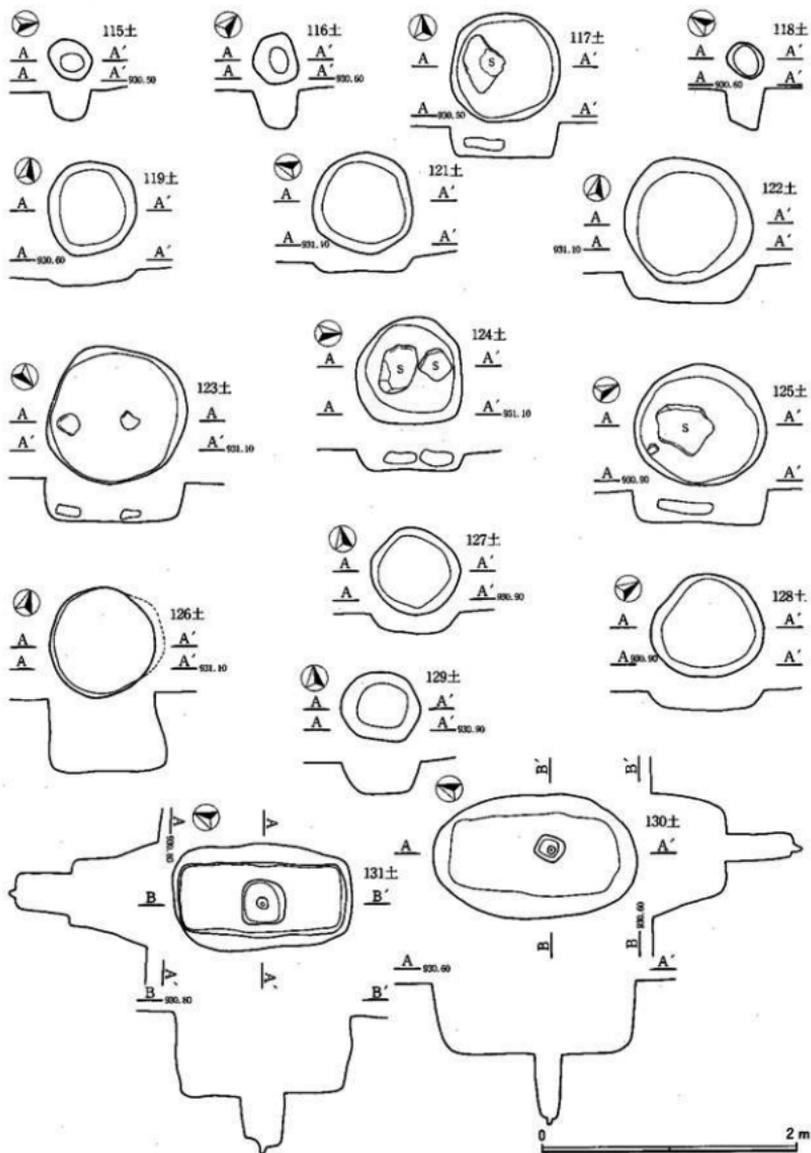
第18図 土坑⑥ (1/40)



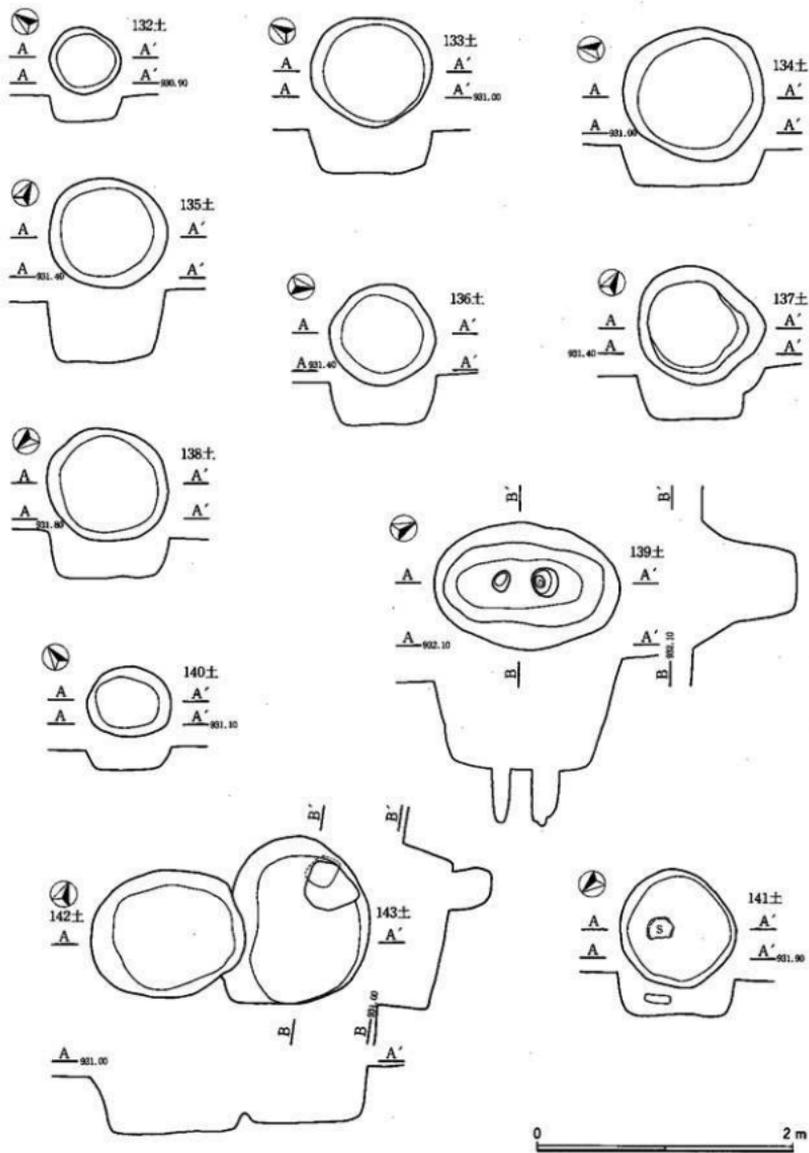
第19图 土坑⑦ (1/40)



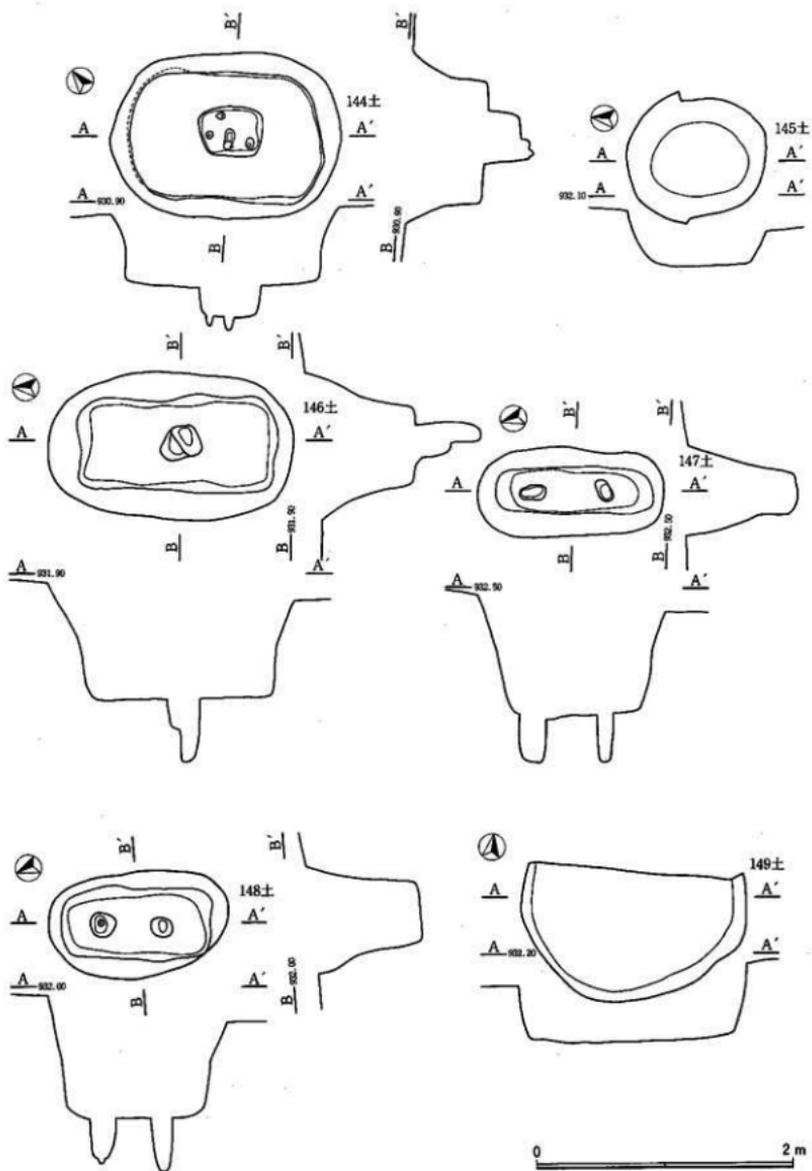
第20图 土坑⑧ (1/40)



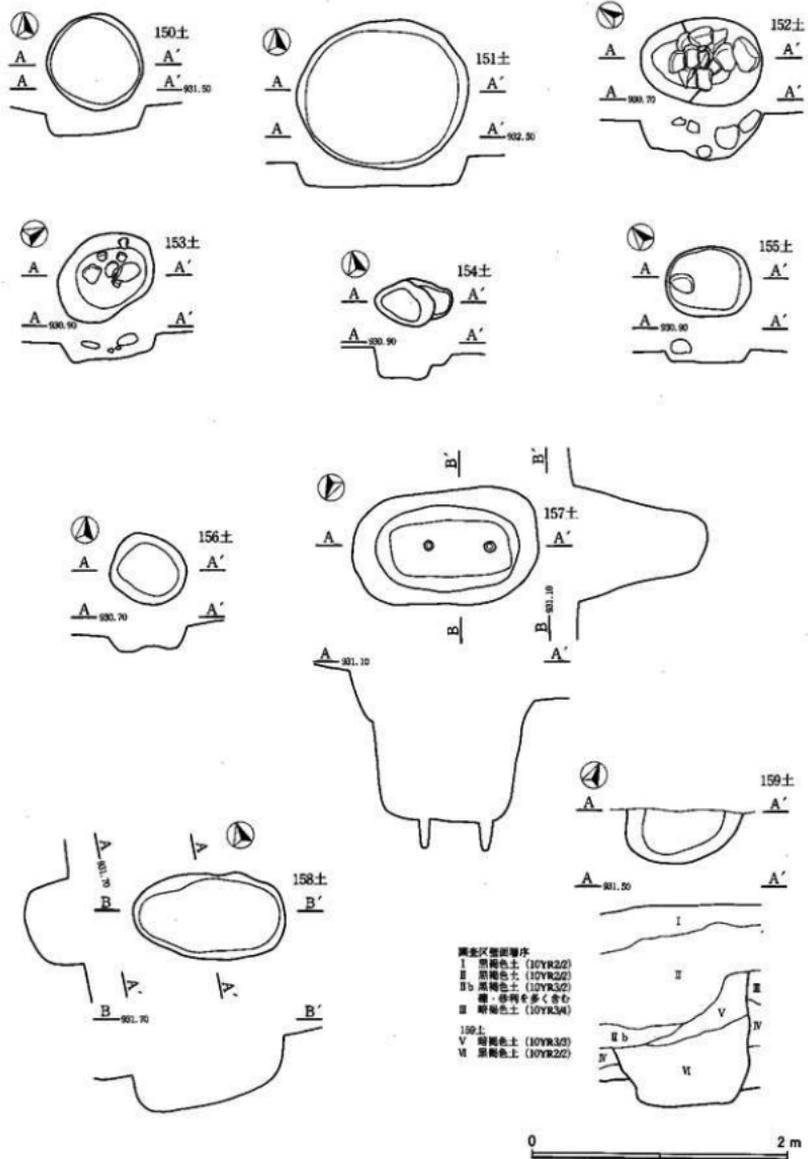
第21圖 土坑⑨ (1/40)



第22图 土坑⑩ (1/40)



第23图 土坑① (1/40)



第24图 土坑② (1/40)

第4節 屋外炉

(1) 1号屋外炉 (第25図)

V43グリッドに位置する。口径70×70cm・深さ25cm程度の堀方に、平らな礫を底部には寝かせ斜面には立てられて設置されている。この上の覆土内にも礫が充満している。黒褐色の覆土内には炭化物・炭化材が多く、焼土がまばらに観察された。本址の周辺に焼けはほとんどなく焼土が疎らに観察されたのみである。本址については住居址の炉の可能性を考えたが、柱穴など他の施設が検出されなかった為、屋外炉とした。縄文の遺構と推測するが、出土遺物はなく時期不明である。



第25図 1号屋外炉 (1/40)

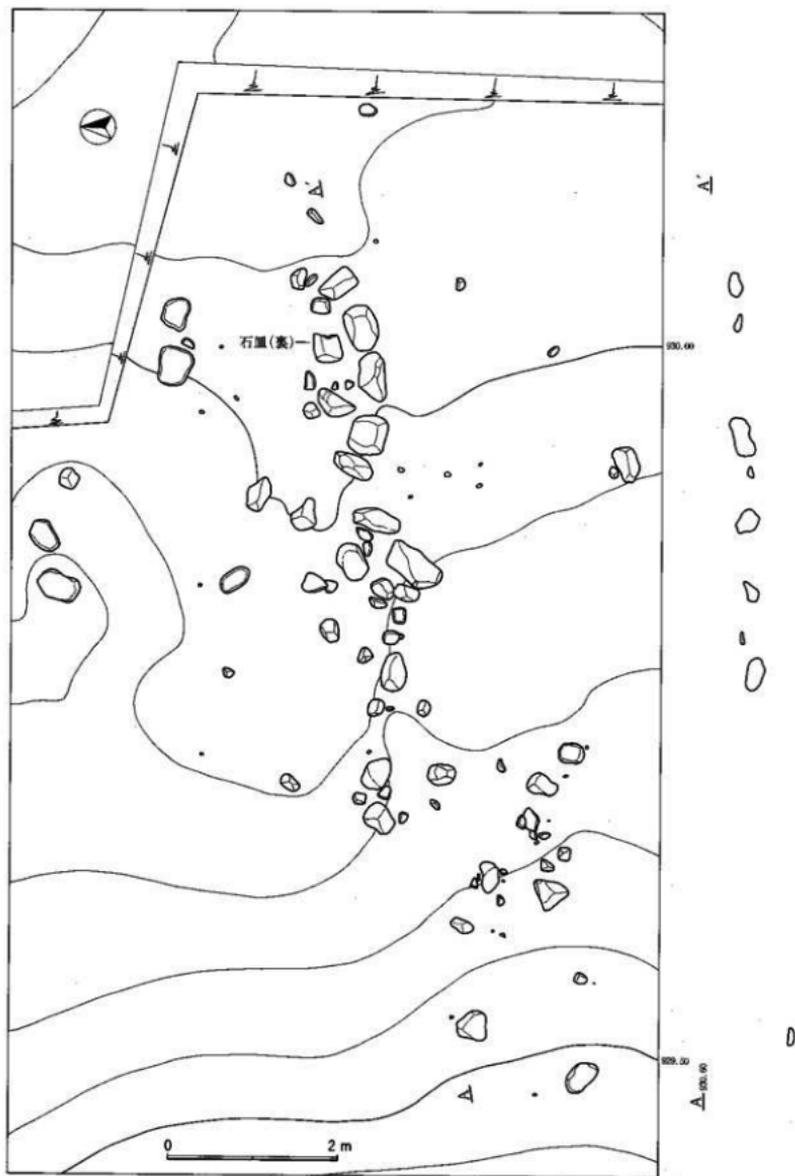
第5節 配石址

(1) 1号配石址 (第26図)

構造 V40グリッドを中心に位置する。基本層序で示したⅡ層中で検出されている。検出箇所は南北に走る台地を東西に横切る小規模な谷状の地形部である。配石は10~70cm程度の礫によって構成されている。礫はほとんど重なりあうことなく単体であり、地形の勾配にそって配置されている。

遺物 配石周辺の遺物取り上げは2m四方の小グリッド単位で実施している。周辺から出土した土器は縄文後期前葉のものが最も多く、続いて縄文前期末葉、わずかに前期前半のものが入っている。青磁も1片出土している。石器は、石皿1・石器は磨石1・打製石斧1・ビーストキヌ5の他、剥片類である。配石を構成する礫のひとつであった石皿は敲打で長方形に整えられたものである。

時期 縄文後期前葉とみられる。



第26图 1号配石址 (1/60)

第6節 焼土址

(1) 1号焼土址 (第27図)

遺構 V36グリッドに位置する。90×80cm程度の範囲に焼土粒子が拡がり、中に焼土ブロックが観察される。出土遺物等なく時期不明である。

(2) 2号焼土址 (第27図)

V40グリッドに位置し、1号配石に近く出土層位も同一である。150×76cm程度の範囲に焼土粒子が拡がり、中に焼土ブロックが観察される。周辺から出土した遺物は、縄文前期末葉・後期前葉の土器片がある。1号配石址と同様に縄文後期前葉のものと推定される。

(3) 3号焼土址 (第27図)

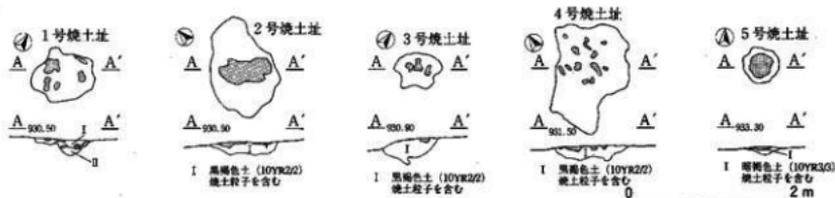
W41グリッドに位置する。56×40cm程度の範囲に焼土粒子が拡がり、中に焼土ブロックが観察される。周辺から縄文後期前葉の土器片が多く出土している。石器はビス・ヌネヌ4の他、剥片類が出土している。出土土器から縄文後期前葉のものと推定される。

(4) 4号焼土址 (第27図)

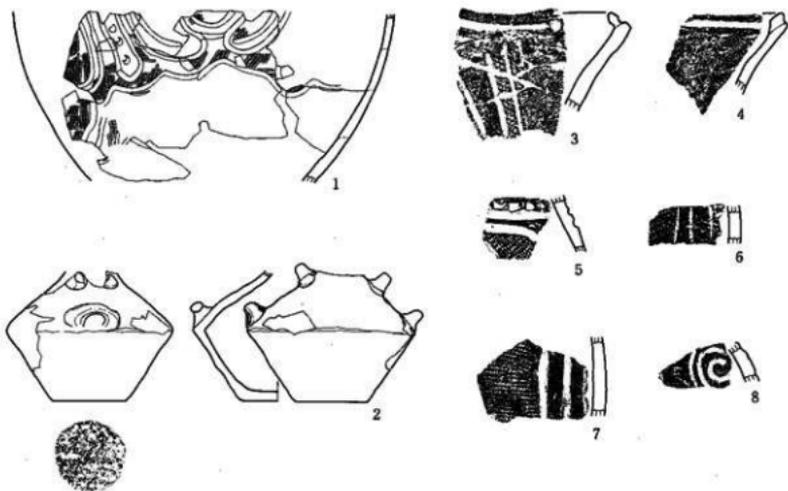
X41グリッドに位置する。120×83cm程度の範囲に焼土粒子が拡がり、中に焼土ブロックが観察される。周辺から剥片類が2出土している。時期は不明である。

(5) 5号焼土址 (第27図)

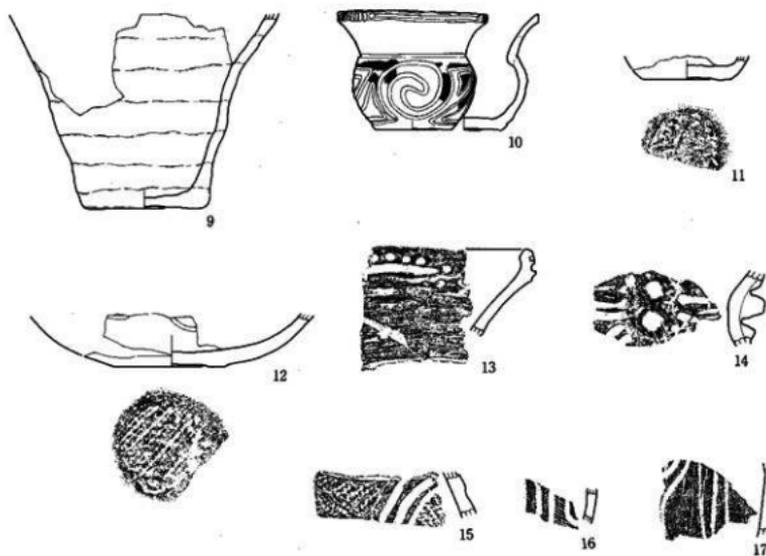
遺構 X44グリッドに位置する。42×40cm程度の範囲に焼土粒子が拡がり、中に焼土ブロックが観察される。出土遺物等なく時期不明である。



第27図 焼土址 (1/60)

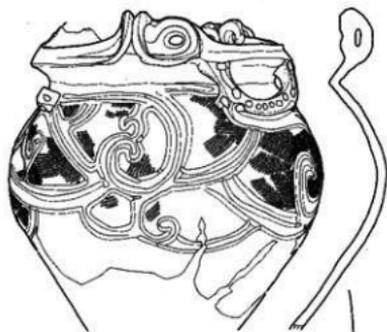


7号住居址

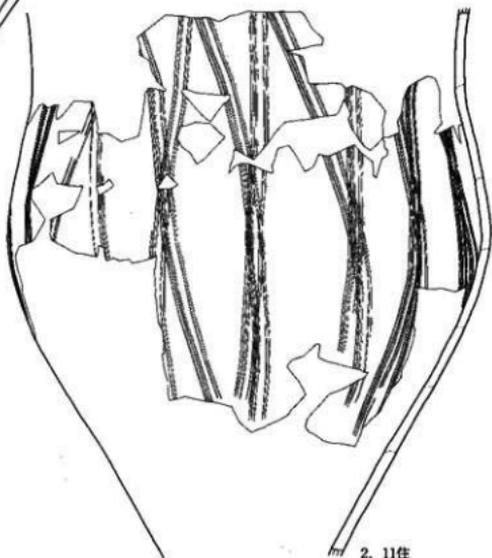


9号住居址

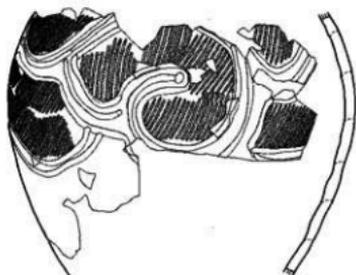
第28图 7·9号住居址出土土器 (1/4·3~8、13~17(1/3))



1. 11住



2. 11住

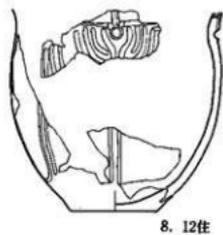
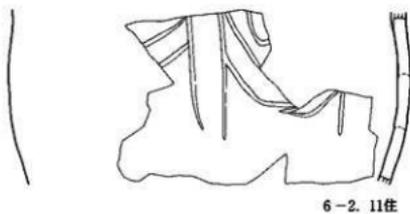
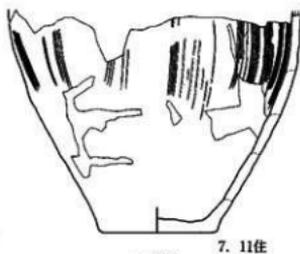
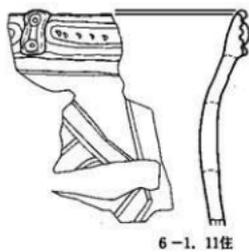
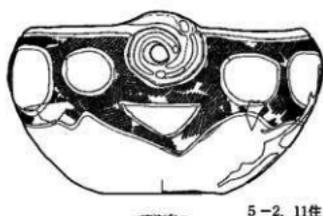
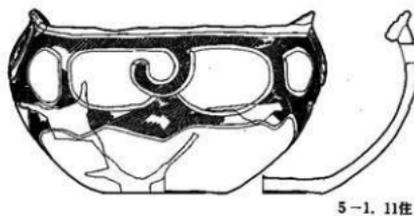


3. 11住



4. 11住

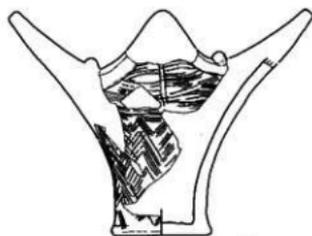
第29图 11号住居址出土土器 (1/4)



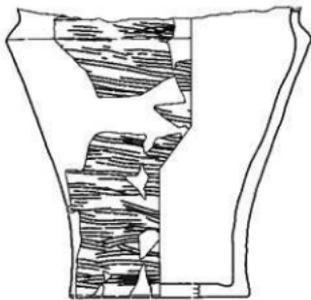
第30图 11·12号住居址出土土器 (1/4)



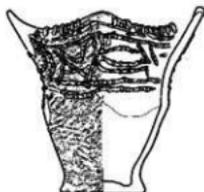
1. 39±



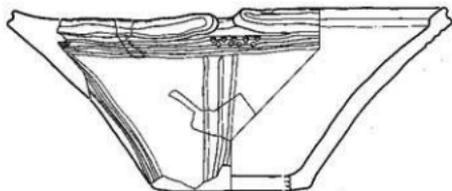
2. 47±



3. 47±+91±+100±



4. 53±

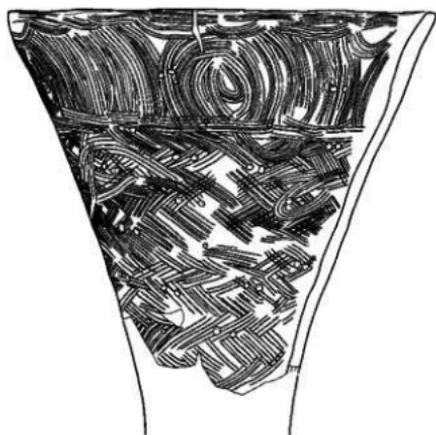


5. 57±

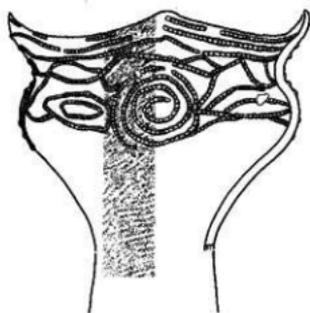


6. 57±

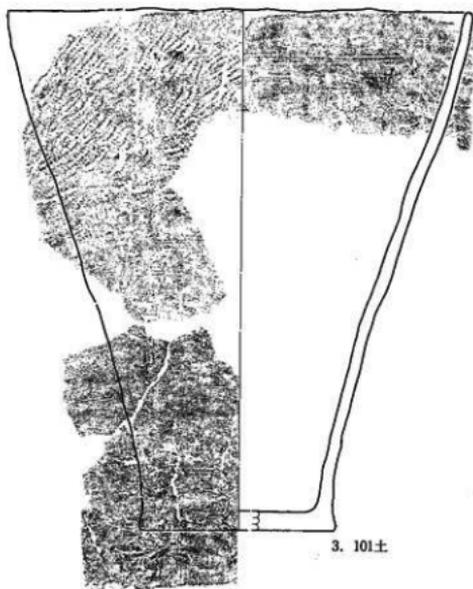
第31圖 土坑出土土器 (1/4)



1. 84土



2. 85土



3. 101土

第32回 土坑出土土器 (1/4)

第7節 平安時代の住居址

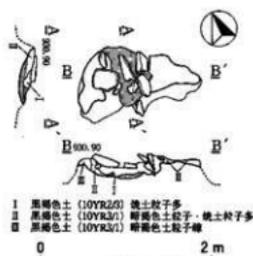
平安時代の住居址は2軒検出されている。

(1) 2号住居址 (第33図)

遺構 X36グリッド位置する。本址はカマドしか検出できなかったため、住居の構造等は不明である。

遺物 カマドの周辺から土師器坏片と灰釉陶器蓋片が出土している。

時期 11世紀前半とみられる。



第33図 2号住居址カマド (1/60)

(2) 6号住居址 (第34図)

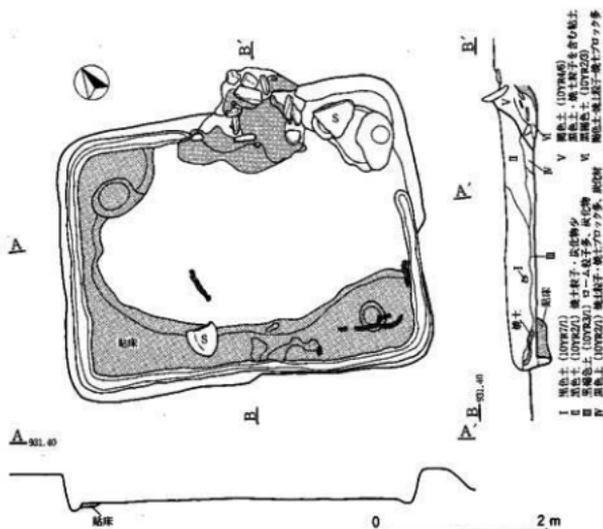
遺構 X39グリッド位置する。縄文時代住居址の7号住居址を切る。

平面形は長方形を呈し、規模は3.8×2.9mを測る。カマドの軸線方向はN22Eを示す。壁の残存高は34cmである。周溝が北東コーナーを除く壁際に掘られている。床は西壁と南壁の前に貼床が施されていた。カマドは石組を粘土で覆ったもので、北壁中央よりやや東にある。

床面より少し浮いて焼土ブロックが出土し、これとほぼ同一レベルで炭化材が出土している。

遺物 カマドの中から、土師器小型甕・土師器坏片・須恵器蓋片が出土している。住居覆土からは、本址に伴うとみられる砥石が出土している。その他は縄文後期前葉土器と黒曜石器が出土している。

時期 9世紀中頃とみられる。



第34図 6号住居址 (1/60)

第8節 溝 址

平行する2本の溝が検出されている。それぞれ1号・2号「溝址」として報告するが、これが人為的なものか自然的なものであるのか、判明しなかった。2本の溝の間には、それぞれの上部を連結する溝も一本あるが、これには番号を付していない。

(1) 1号溝址 (第36図)

構造W39グリッドを先端に南北に伸びている。緩やかに蛇行しながら南の下方向にいくにつれ、幅・深さを増していく。調査範囲中での最大幅は2.7・最大深度は1.2mである。74土・75土・91土・93土・95土・96土・97土・1号野溜めと重複する。このうち、新旧関係のはっきりしたものは、91土と1号野溜めとの関係である。本址は91土を切り、1号野溜めに切られる。91土は縄文前期末末業土器の出土から当期の所産と推定され、1号野溜めは近現代のものと考えられる。

土層から水流の痕跡となるような砂利等は検出されていない。尚、本址南側端の15m程の部分は上面検出のみで底部まで掘りきれなかった。

遺物縄文早期前半土器片・前期末業土器片・後期前業土器片、中世陶器片、凹石2・打製石斧2・石錐1・ピエス・エスキーユ3の他、剥片類が出土している。出土遺物はいずれも時期決定資料と断定できるものはなく、本遺跡包含の遺物と同様な傾向を示している。

時期時期不詳であるが、上記の重複関係から縄文前期末末業～近現代の間の生成である。

(2) 2号溝址 (第36図)

構造W37グリッドを先端に南北に伸びている。1号溝址同様に緩やかに蛇行する。検出部分が少ないためか、南方へ下ってもさほど幅・深さも規模は変化しない。最大幅が1.8・最大深度は0.3m程である。39土・49土・67土・72土・111土と重複するが新旧関係を明瞭にできたものはない。土層からは1号溝同様に水流の痕跡となるような砂利等は検出されなかった。

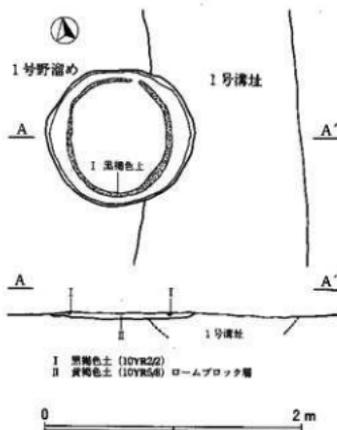
遺物縄文早期前半土器片・前期末業土器片・後期前業土器片、灰輪陶器片、凹石1・打製石斧1・横刃型石器1・石鏃未成品1・ピエス・エスキーユ6の他、剥片類が出土している。

時期1号溝同様に時期不詳である

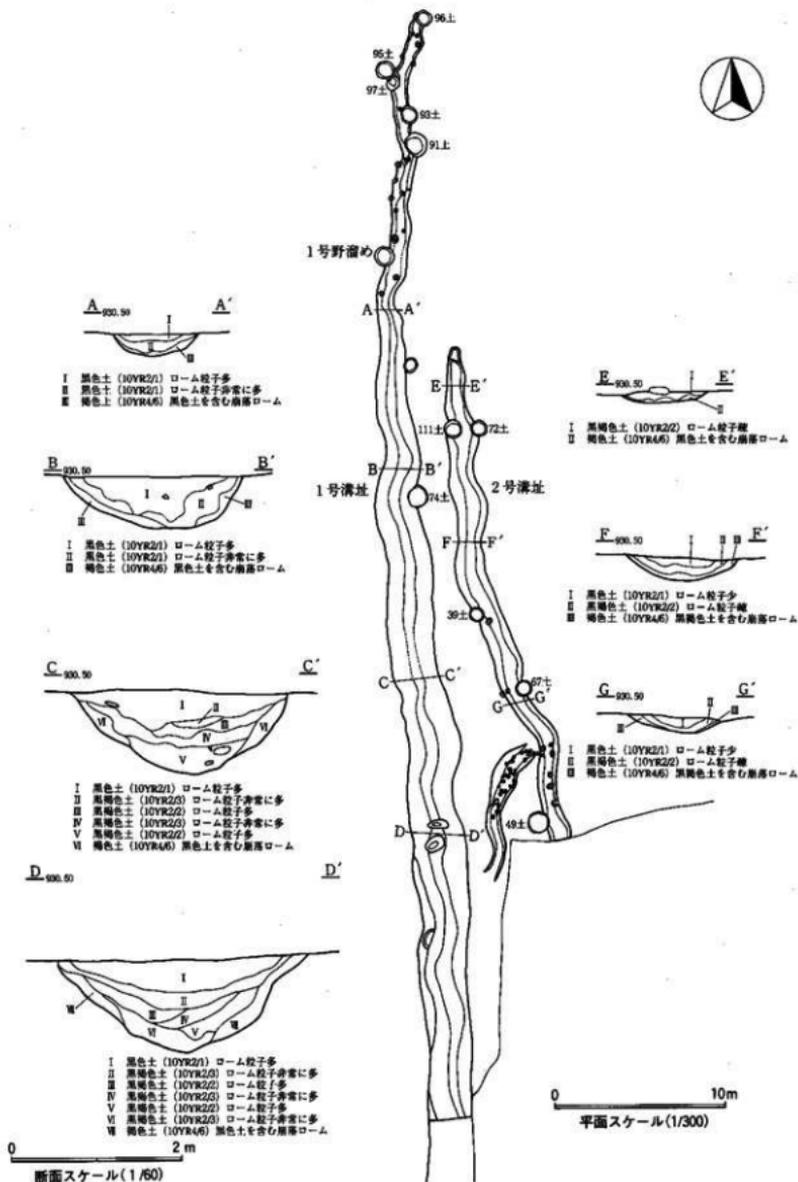
第9節 野 溜 め

(1) 1号野溜め (第35図)

V38グリッドに位置する。1号溝址と重複しこれを明瞭に切る。検出されたのは口径115×108cm・深さ5cm程度で、中に黄褐色土(10YR5/8)のロームブロックが充填されている。この内側に、黒褐色土(10YR2/2)のリング(90×80cm・幅3cm)が回る。出土遺物はないが、近現代の所産の野溜めとみられる。



第35図 1号野溜め (1/40)



第36図 1号溝址・2号溝址(平面図1/300・断面図1/60)

第IV章 駒形遺跡の遺構と遺物

第1節 縄文時代の住居址

縄文時代の住居址は34号から36号の3軒が検出された。34号住居址は敷石住居址で、35号住居址も敷石住居址の可能性が高い。時期は34号住居址が堀之内2式古段階、35号住居址が堀之内2式新段階と考えられる。36号住居址は盛土部分の試掘調査で確認されたが、土器の出土がなく時期を特定できない。

(1) 34号住居址 (第37・43・44・45図)

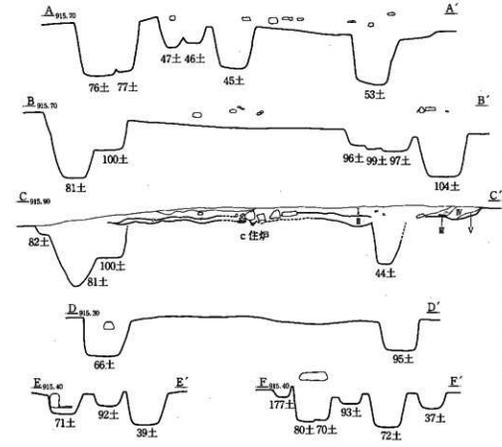
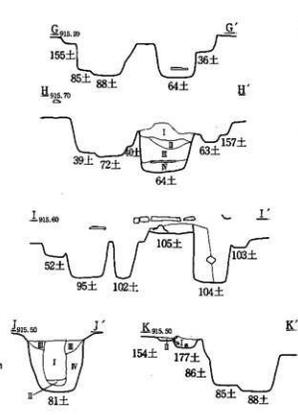
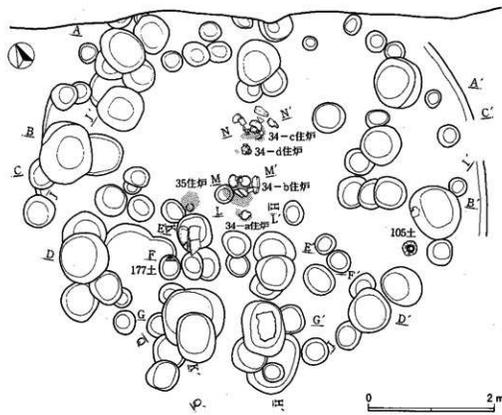
遺構 K21-b 4 グリッドを中心とする。34号住居址の廃絶後に35号住居址が構築される。

本住居址はほぼ同一の主軸線上に4基の炉が位置し、炉を中心に多くの柱穴(ピット)が同心円状に配列する。最低3回の建て替えが想定される。古い方から34-1号住居址・2号住居址…として報告すべきところであるが、完存する石囲壺型炉が最新の住居址である以外、個々の住居址に伴う柱穴と住居址の規模、最新住居址以前の2回の建て替え順番は不明である。そこで、最新の住居址を34-d号住居址とし、d号住居址の炉石および敷石下から検出された古い炉を、出入口部側からa号・b号・c号住居址の炉とする。個々の住居址の柱穴は大ピット(主柱穴)と小ピット(支柱穴)からなり、大ピットの本数は9本と7本の2組と考えられる。以下、9本を大住居址、7本を小住居址と呼称する。

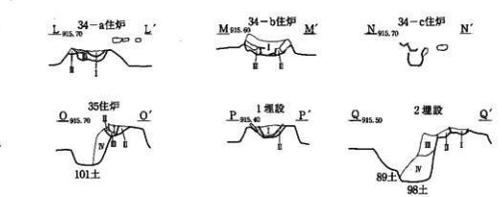
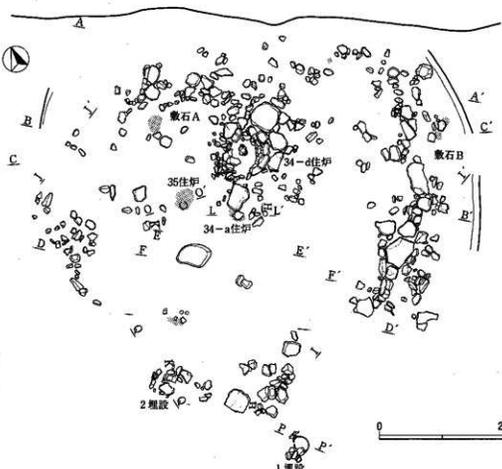
a号からd号住居址の掘り込みは北側と西側で再堆積のローム層に達し、東側と南側は北東から南西方向に流下した埋没旧河道に堆積する礫混じりの黒色土層中にある。大住居址では北壁と東壁の一部が検出された。残存高は北壁で10cm、東壁で15cmを測る。

本住居址に伴う柱穴は60基余りで、大ピットと小ピットを組み合わせた壁柱穴である。住居址の東側から南側の柱穴は黒色土層中からの掘り込みであり、北側から西側の柱穴よりレベルが低い再堆積のローム層面で検出している。そのため、小ピットには未検出のものがあると思われる。大住居址では大ピット間に2本から3本の小ピットを伴うが、小住居址では判然としない。柱穴の配列は大・小住居址ともに長軸が主軸に直交する楕円形を呈する。大住居址の大ピットを対ピット(出入口部の主柱穴)の東側から時計回りに列挙すると、P1:64号土坑、P2:88号土坑、P3:65・66・67号土坑、P4:81・100号土坑、P5:76・77号土坑、P6:54号土坑、P7:53号土坑、P8:104号土坑、P9:95・102号土坑の組み合わせと考えられる。規模は主軸が6.5mと推測され、副軸は7.2mを測る。31・90・32号土坑や186・106・103号土坑などは小ピットである。小住居址の大ピットを対ピットの東側から時計回りに列挙すると、P1:39・40・72号土坑、P2:70・71・80号土坑、P3:50・51・68号土坑、P4:61・75・78号土坑、P5:45・74・152号土坑、P6:43・44・73・96・97・99号土坑、P7:35・38・94号土坑の組み合わせと考えられる。規模は主軸4.0m、副軸5.2mを測る。46・47・48号土坑は小ピットの可能性がある。大住居址と小住居址の主軸方向はN-34°-Eを示す。

敷石はd号住居址の炉の周囲から北側(敷石A)と、大住居址の東側で大ピットを結ぶ線上(敷石B)に残存する。安山岩系の礫が主体で、平石(鉄平石)・亜円礫・亜角礫・角礫が多用される。敷石の直上が水田の床土となる部分があるため、耕作により抜き取られた敷石があると思われるが、床全面に敷設されていたかは疑問である。敷石Aの敷石はd号住居址に伴う敷石と考えられる。d号住居址の炉から続く敷石のうち、



- 34b, C-C'
- I 黒色土 (7.5Vx23) ローム粒子少, ローム塊2-3cm少, 炭化物2-3cm少, 焼土粒少
 - II 黒色土 (10Vx23) 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子多, ローム塊2mm-1cm少, 炭化物2-3cm多
 - III 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-1cm少, 焼土粒多
 - IV 灰色土 (10Vx23) 褐色土, ローム粒子少, 焼土2mm-3cm少, 炭化物2mm少
 - V 黒褐色土 (10Vx23) 褐色土, ローム粒子多, ローム塊2-5mm少, 焼土2-5mm少, 炭化物2mm少
- 64土, H-H'
- I 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子多, ローム塊2-7mm少, 焼土2-10cm多, 炭化物2mm少
 - II 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子多, ローム塊2mm-1.5cm多, 焼土2-4cm多, 炭化物2mm少
 - III 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, ローム塊2mm少, 焼土2mm-3cm多, 炭化物2mm少
 - IV 黒褐色土 (10Vx23) 褐色土, ローム粒子多, ローム塊2-2cm多, 焼土2-2cm多, 炭化物2mm少
- 104土, I-I'
- I 黒色土 (7.5Vx23) ローム粒子少, ローム塊2-5mm少, 焼土2-15cm多, 炭化物2mm-3cm多
 - II 黒色土 (7.5Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-10cm多, 炭化物2mm少
- 81土, J-J'
- I 黒色土 (7.5Vx23) 柱間, ローム粒子少, ローム塊2-5mm少, 焼土2mm-2cm少, 炭化物2mm-3cm少
 - II 黒色土 (10Vx23) ローム粒子多, ローム塊2mm-2cm多, 焼土2mm-1cm多, 炭化物2mm少
 - III 黒褐色土 (10Vx23) 褐色土, ローム粒子多, ローム塊2mm-2cm多, 焼土2mm-10cm多, 炭化物2mm少
 - IV 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子多, ローム塊2mm-1cm少, 焼土2mm-10cm多, 炭化物2mm-5mm少
- 154土, 177土, K-K'
- I 黒色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-3cm少, 炭化物2mm-3cm多
 - II 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, ローム塊2mm少, 焼土2mm-5cm多, 炭化物2mm少



- 34-a住坪, L-L'
- I 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, ローム塊2mm少, 焼土2-5mm少, 焼土粒少
 - II 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, ローム塊2mm少, 焼土2-5mm少, 焼土粒少
 - III 黒褐色土 (7.5Vx23) ローム粒子少, ローム塊2-3mm少, 焼土2mm-1cm少, 焼土粒少
- 34-b住坪, M-M'
- I 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, ローム塊2-5mm少, 焼土2mm-1cm少, 炭化物2mm少
 - II 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm少, 焼土2mm-1cm少, パリス2mm少
- 34-c住坪, N-N'
- I 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-5mm少, 炭化物2mm少
 - II 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-5mm少, 炭化物2mm少
 - III 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-5mm少, 炭化物2mm少
 - IV 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-5mm少, 炭化物2mm少
 - V 黒褐色土 (10Vx23) ローム粒子少, 焼土2mm-5mm少, 炭化物2mm少
- 2埋設, Q-Q'
- I 黒褐色土 (10Vx23)
 - II 黒色土 (7.5Vx23)
 - III ローム粒子少, 焼土2-5mm少
 - IV 焼土2mm-2cm少, 炭化物2mm少
 - V 黒褐色土 (10Vx23)
 - N ローム粒子少, ローム塊2-5mm多, 焼土2mm-1cm少

第37図 34・35号住居址 (1/60・1/40)

61・75号土坑の直上の敷石を緑石と考えれば、d号住居址は小住居となる。敷石Bは礫の敷き方からみて大住居址の緑石と考えられる。北から南に傾斜し、高低差は約20cmを測る。

b号住居址およびd号住居址の炉は石囲埋燵炉であるが、それ以外の2基の炉も同様の構造であったと考えられる。a号住居址は土器のみが遺存していた。a号とb号住居址の炉は、d号住居址の炉に接して敷かれた大形で偏平な礫の下から検出された。また、c号住居址の炉はd号住居址の炉石の下から検出された。

a号住居址の炉石は建て替え時に抜き取られたと考えられる。炉体土器は1個体で正位に埋設されている。土器の周囲が僅かに焼けている。b号住居址の炉は炉体土器が炉石より深い位置にあり、断面図ではわかりにくい段掘りされている。炉体土器は4個体分ある。第43図5を掘方底面に敷き、その上に4を正位に置いている。2と3は炉石と4の間から出土し、3の一部は4の上に遺存していた。焼土は対ビット側に残存し、最も厚いところで6cmを測る。c号住居址の炉は土器が炉石より深い位置にあり段掘りされていたと考えられるが、地山に大小の礫が多量含まれていたため検出できなかった。炉石は4個の礫を検出したに過ぎない。炉体土器は3個体分ある。第43図6が正位に埋設され、8が正位に入れ子される。7は6の脇に添えられた粗製土器である。d号住居址の炉は方形プランの石囲埋燵炉である。南側の炉石の幾つかは抜き取られている可能性がある。炉体土器は2個体分ある。第44図2の上に1を重ねて埋設されていた。ともに正位である。

第45図11の深鉢は敷石Bの下、約15cmから逆位で出土した。ほぼ完存である。口縁部から数cmで地山となり、その面が南側で僅かに立ち上がるようにみえたことから、105号土坑に伴う土器と考えた。しかし、105号土坑は大住居址の大ビットである104号土坑に切られ、切り合い関係がつかめなかった102号土坑と重複するため、平面プランは判然としない。したがって、確実に土坑から出土したとは言いつれず、古い大住居址に伴う土器の可能性もある。第45図12は177号土坑の北壁に底部に向けた横位で出土した。検出面および覆土に炭化物が多量にみられた。

住居址の覆土は5層に分層された。I層はd号住居址の炉および敷石Aを覆う層で、下端が床面となる。II層は調査時に掘方埋土とした層であるが、d号住居址以前の古い住居址の覆土で、下端がその床面となるのかもしれない。なお、敷石Aの敷石レベルと敷石Bの敷石上5～10cmに、焼土の散布が認められた。

遺物 原位置を記録できたものは炉体土器10個体、敷石B直上の土器片（第44図3・4）、105・177号土坑の2個体の深鉢で、他の土器は単に34号住居址として取り上げている。

出土した土器は深鉢と注口土器の2器種である。深鉢は胴部が球体で文様帯となり、屈曲する頸部から口縁部が直線状に開くもの（第43図1・3・5・6ほか）、胴部最大径が屈曲して底部まで無文となり、外反する胴部上半が文様帯となるもの（第43図4、第44図17・18）、底部から口縁部まで直線状かやや外反する、いわゆる「朝顔形」の深鉢と称されるもの（第44図1・12・13・22ほか）、粗製土器（第43図7）がある。第44図13と第45図3・4は朝顔形の深鉢、第44図20と第45図9は注口土器とともに同一個体である。

105号土坑の深鉢は口縁部と胴部の文様帯からみて、堀之内1式新段階から2式古段階と思われる。177号土坑の深鉢は平行沈線内に縄文が施文され帯状となる。口縁部の文様もないことから、堀之内2式と考えられる。

調査では35号住居址を認識せずに掘り下げており、新しい土器が若干混在している。第44図15は加曾利B1式古段階とみられる深鉢で35号住居址に伴う可能性がある。なお、第45図7は堀之内1式初頭の深鉢と考えられる。

34号住居址範囲内（35号住居址も含む）から出土した黒曜石は351点で重量は1069.1gを測る（第7表）。石鏃4点、石鎌6点（2点は破損品）、石錐未製品1点、石匙1点、器種不明石器1点、器種不明石器破損品

1点、器種不明石器未製品7点、器種不明石器未製品?6点、調整加工のある石片7点があり、点数は数えていないが原石・石核も出土している。

凹石・磨石などの石器も出土している(註1)。敷石として敷かれた際の中に、凹石8点、磨石1点、凹石(磨面あり)2点、凹石(磨面・敲打痕あり)1点、磨石(敲打痕あり)1点、ハンマー(緑色岩系、重さ388g)1点がある。覆土から凹石2点、凹石(磨面あり)1点、打製石斧1点、磨製石斧2点、砥石1点が出土した。また、表裏面が摩耗し線状痕が観察される礫が1点ある。長さ6.3cm、幅3.2cm、厚さ0.9cm、重さ29.8gを測る。蛇紋岩製と思われ、表裏面の約1/2にタール状の付着がある。

時期 出土した土器の主体となる時期は堀之内2式の前段階にあると思われるため、当該期の住居址と考えておく。

(2) 35号住居址 (第37・45図)

遺構 K21-a 4グリッドを中心とする。炉体土器が34号住居址の炉体土器より新しい時期と考えられるため、整理時に35号住居址とした。

本住居址の大半は34号住居址に重複すると考えられるが、住居址の掘り込みが検出されない上に、対ピットや柱穴が判然としない。住居址の規模や主軸方向など、住居址のプランは不明である。

床面は炉体土器の遺存状態と検出レベルからみて、34号住居址の最新住居址(34-d号住居址)より高い面と考えられる。したがって、礫が敷かれていたとしても耕作時に抜き取られた可能性が高く、現に敷石と考えられる礫は検出されていない。

炉は埋燵炉として検出されたが、炉体土器の時期からみて石囲埋燵炉であった可能性が高い。炉体土器は深鉢で正位に埋設される。上部は摩滅しているが、耕作によりカットされている可能性がある。焼土は土器の周囲にみられ、厚さは5cmを測る。

遺物 炉体土器は第45図13~16で、胎土からみて同一個体と考えられる。器形は朝顔形の深鉢とみられ、器壁は薄く3、4mmである。摩滅のため文様の残りは良くないが、胴部中位より上に細線帯で横帯区画された文様帯が確認される。区画内には櫛状工具で施文されたと思われる極細の平行沈線がみられる。胎土は緻密である。色調はにぶい黄橙色からにぶい橙色で、内外面とも磨かれた痕跡が所々に観察される。

時期 炉体土器からみて、堀之内2式の前段階から加曾利B1式の前段階に構築された住居址と考えられる。

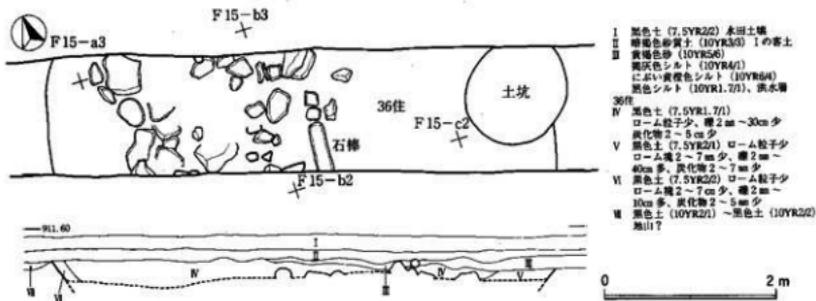
(3) 36号住居址 (第38図)

遺構 F15-a~c 2グリッドほかに位置する。3トレンチとした試掘溝で確認された住居址である。東側は大形土坑と重複し、住居址を切ることが確認された。

本住居址の平面形を円形プランと仮定するならば、直径は6m前後と推測される。中央から西側に、拳大からひと抱えほどの大きな礫が集中出土した。敷石には配置やレベルに規則性がなく、遺棄されたものと考えられる。この中には長さ約70cm、径約20cmの石棒が含まれる。

土層断面の観察では住居址の西側に水成堆積した砂層とシルト層が確認された。その範囲はちょうど拳大からひと抱えほどの大きな礫と一致するが、礫を覆う土とは明らかに異なっている。

遺物 検出面から土器は出土せず、黒曜石のみ出土した。黒曜石は22点で30.1gを測る(第7表)。器種不明石器未製品?が1点、調整加工のある石片?が2点ある。



第38図 第36号住居址 (1/60)

時期 不明である。

第2節 土 坑

土坑番号は住居址の柱穴（ピット）にも付している。これは各住居址に伴う柱穴を調査時に特定することができないと判断されたためである。ここでは人為的な「穴」のすべてを土坑として扱っている。

土坑は現場において202番まで番号を付したが、欠番が2基あるため総数は200基である。なお、試掘調査で確認した土坑は、確実に土坑となる保証がないために番号を付していない。

(1) 1号土坑 (第39図)

遺構 K21-a 2グリッド、1号埋設土器と2号埋設土器との間に位置する。164号土坑と重複するが新旧関係は不明である。遺構検出面から滑石製とみられる垂飾が出土したため、墓坑とみて調査を進めたが、覆土の含有物や堆積状態は墓坑と思われない状態である。また、平面形状は楕円形を呈するものの、墓坑群を形成する各土坑より小ぶりであり、深さも浅く、掘方は柱穴状といえる。

遺物 底面上約20cmから滑石製の垂飾が出土した。土器は12点出土した。型式判定できる土器は3点ある。幅広く深い沈線（数条）間に縄文が施文される深鉢の胴部破片である。黒曜石は出土していない。

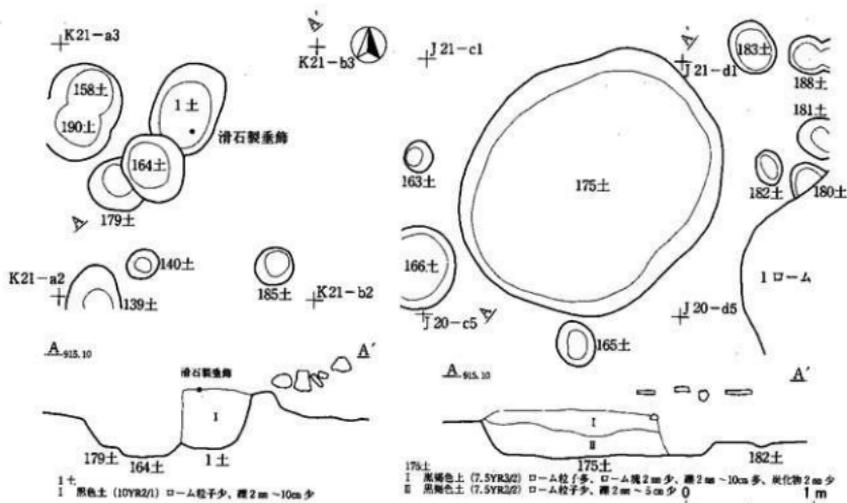
時期 出土した土器からみて、堀之内1式新段階から2式中段階までに構築された土坑と考えられる。

(2) 第175号土坑 (第39図)

遺構 J20-c 5グリッド、1号ロームマウンドの西に位置する。検出された土坑中、最も平面規模が大きな土坑である。土坑の北壁と東壁は、土器集中地点周囲の礫から南に続く大ぶりな板状礫と接する。この板状礫を切るものなのか、それとも伴うものなのかの判断は難しい。

覆土 は2層に分層された。上層（I層）は下層（II層）と異なり、拳大ほどの礫が多量に包含される。当時の地表面には拳大ほどの自然礫に至る所があったと推測されるが、下層のように礫の含有が少ない土坑もあるため、上層は埋め戻された可能性がある。

遺物 土器片が9点出土した。数点に縄文または条縄文がみられるが、型式判定はできない。黒曜石片が3点出土している。



第39図 土坑 (1/40)

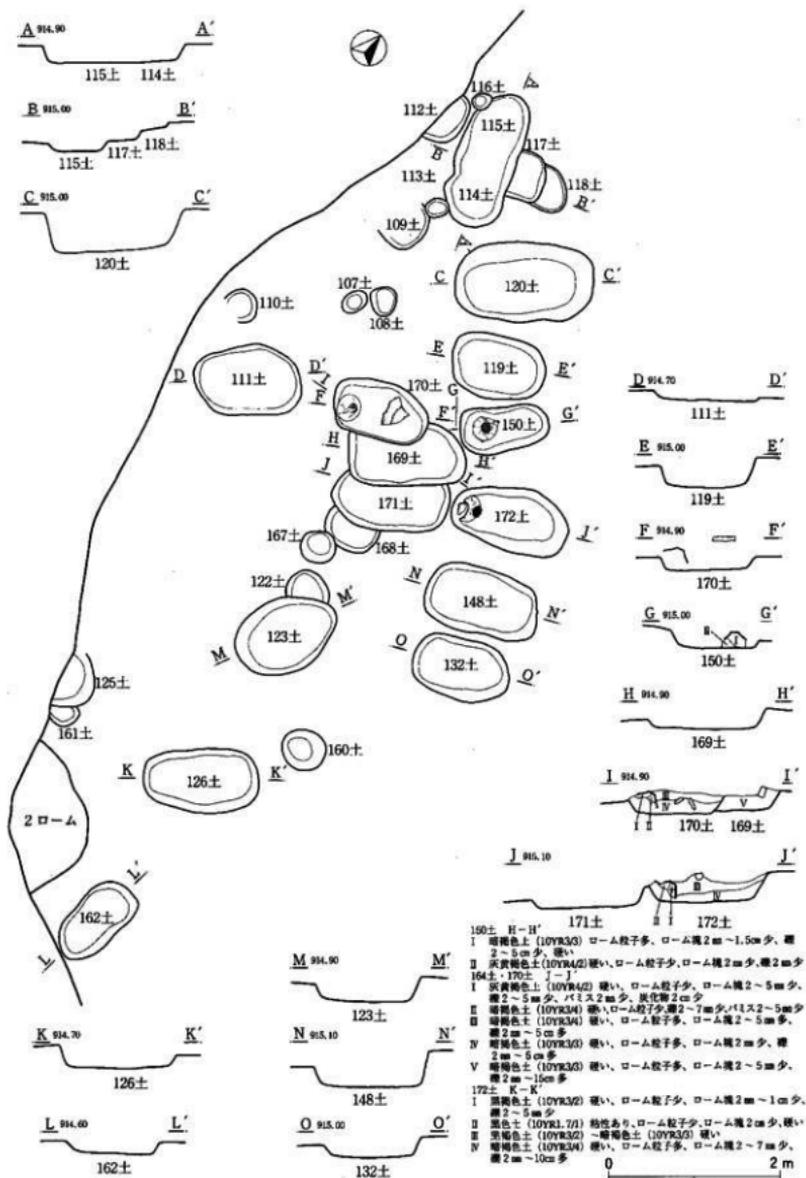
時期 後期前葉から中葉の土坑とみられるが、時期は特定できない。

(3) 墓坑群 (第40・46・47・48図)

遺構 第1調査区の西側、約60m²の範囲から、墓坑とみられる20基余りの土坑が検出された。ここでは「墓坑群」として報告する。

墓坑の長軸方向は等高線に沿って直交か平行している。また、墓坑の多くは重複することなく、検出面において数cmから数10cmの間隔で長軸方向を揃えて配列するものもある。各墓坑の位置関係からみて、墓坑群はさほど時間差なく構築されたことが考えられる。

遺物 3基の墓坑にはいわゆる「甕被葬」がみられる。土器はいずれもほぼ完形の浅鉢で、墓坑の西側に伏せられている。150号土坑の浅鉢は3単位把手付きの浅鉢である(第46図1)。内面文は先細の工具による平行沈線を3単位の把手と円孔に沿わせて施文される。内外面ともに篋状工具で良く磨かれている。磨きの方向は横である。外面に黒色物質が付着している。170号土坑の浅鉢は口縁端部が内折する平縁の浅鉢である(第47図1)。口唇と口唇内面直下には同一の篋状工具で刻文と刺突文が施文される。その下には同一の篋状工具で区切文を伴う横位平行沈線をめぐらし、1本おきに櫛状工具?による平行沈線を沈線下側に施文する。内外面ともに篋状とみられる工具で良く磨かれている。磨きの方向は外面が横から斜めで、内面が横と思われる。172号土坑の浅鉢は3単位把手付きの浅鉢である(第48図1)。口唇部に1条の沈線がめぐる。内面文は幅狭で深い2条の沈線間に、櫛状工具による極細の平行沈線と2個1単位の円形刺突文が施文される。内外面ともに篋状工具で良く磨かれている。磨きの方向は外面が斜めで、内面が横である。外面に黒色物質が付着している。150号土坑では黒曜石が3点出土し1点は石鏃、170号土坑では黒曜石が6点出土し1点は石鏃、172号土坑では黒曜石12点が出土している。



第40回 葛坑群 (1/60)

時期 150号土坑と172号土坑の浅鉢は堀之内2式の新段階、170号土坑の浅鉢は加曾利B1式 of 古段階に位置づけられると思われる。敷基の墓坑は加曾利B2式の構築とみられる3号配石の直下に位置するが、配石の平面形状と範囲からみて墓坑との相関関係が考えにくい。したがって、墓坑群は堀之内2式の新段階から加曾利B1式 of 古段階に形成されたと考えられる。

第3節 埋設土器

(1) 1号埋設土器 (第37・46図)

遺構 K21-a 2グリッドに位置する。

検出面(土器の周囲)に微量の焼土が認められたため、炉の可能性もある。住居址の炉であれば、土器の時期からみて主体部に敷石を伴い、支柱穴が規則的に配列する敷石住居址の可能性が高い。周辺の礫と柱穴状の土坑に敷石住居址と思える根拠が見出せないため、埋設土器として報告する。

検出面に拳大ほどの歪円礫と板状の角礫がある。板状の角礫は土器に伴う礫(炉石の一部)とも思えるが、他の礫は設置されたものとは考えにくい。

遺物 土器は胴部中位から上半を欠く深鉢で、正位に埋設される(第46図2)。器形は胴部の張りが弱く器高のある深鉢とみられる。沈線は幅広で浅い。残存部に縄文は確認できない。欠損部付近の内外面は器面が特に荒れている。

時期 土器の器形と文様からみて、堀之内1式 of 新段階から2式 of 古段階と思われる。

(2) 2号埋設土器 (第37・47図)

遺構 K21-a 3グリッドに位置する。

土器の北に接する角礫と歪角礫などを炉石とみることも可能であるが、焼土が全く見当たらないため埋設土器とした。埋設状態は正位である。

遺物 土器は口縁部の上側と胴部中位以下を欠く深鉢である(第47図2)。頸部のくびれが弱く、口縁に比べて胴部が短い器形と考えられる。口縁部の内面に器面の荒れた部分がある。接合しないが、検出面から出土した口縁部上側の破片は、胎土からみて同一個体と判断される。内面に幅が狭く深めの沈線が2条、口唇に対し平行に施文される。

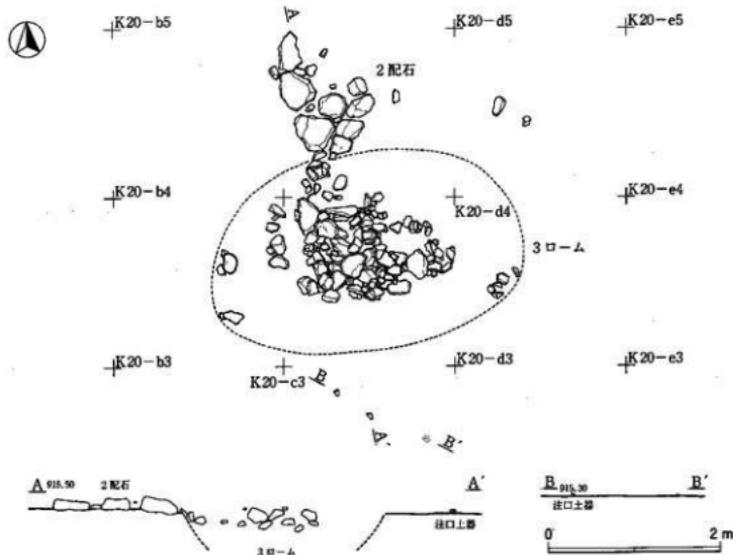
時期 土器の器形と文様からみて、堀之内2式 of 中段階から新段階と考えられる。

第4節 配石

平成6年の試掘調査時に1号とした配石があり、2号から番号を付している。

当遺跡は松沢川の沖積作用を受けた地形に立地するため、遺構検出面には大小、多量の自然礫がある。他の場所から持ち込まれた平石(鉄平石)は自然礫との識別が容易であるが、敷石住居址以外の場所では稀な存在である。そのために、縄文人が持ち込んだ礫、または動かし据えた礫の識別には難渋した。今回、配石とした遺構は2基である。

大ききの似通った大ぶりの礫を、上面レベルがほぼ同じ高さになるように一定範囲に据え、下位に土坑を伴わないものを配石とした。



第41図 2号配石・3号ロームマウンド (1/60)

(1) 2号配石 (第41・51図)

遺構 K20-c 4グリッドに位置する。

本来、配石はc 3グリッド(南側)に延びていたと考えられるが、3号ロームマウンドに切られ、据えられた礫がロームマウンド内に落ち込んでいる。配石の半分以上はロームマウンドに壊されているとみられる。礫は20~50cmほどの亜角礫と亜円礫である。

遺物 配石の検出面および礫間と、ロームマウンド内から14点の土器片が出土した。その中の1点を図化し、9点を拓本で示した(第51図1~10)。1~4は深鉢(鉢)と注口土器で堀之内2式の新段階、5・6は深鉢で加曾利B 1式と考えられる。7~10は鉢で加曾利B 2式と思われ、同一個体と考えられる。2条の沈線による横帯文は間隔が空き、下段は弧線となる。8~10には対弧文と考えられる文様の一部がある。内外面ともに寛状工具で良く磨かれている。

配石とロームマウンドの接点から打製石斧の破損品が1点出土した。

時期 出土した土器の最も新しい時期は加曾利B 2式である。この時期を配石の構築時期と考えたい。

(2) 3号配石 (第42・51図)

遺構 J21-c 2グリッドを中心とする。

配石の北西脇には黒曜石の微細な剥片・破片が集中出土した202号土坑が接し、東側から南側では黒曜石の原石が集中出土している。それらの遺構は位置関係と出土層位からみて、同時に存在したものと考えられる。

礫は20~60cmほどの亜角礫と亜円礫で、板状や柱状のものもある。どこまでを配石の範囲とするかで平面

形状は異なるが、厚みがある直角礫を中心に方形または円形に石を据えているようにみえる。

遺物 3号配石と黒曜石集中地点から230点余りの土器片が出土した。3号配石と黒曜石集中地点は堀之内2式の新段階から加曾利B1式の前段階に形成された基壇群と重複するため、これらに伴う古い土器が混在している。5点を図化、18点を拓本で示した(第51図11~33)。11は鉢の口縁部で、加曾利B1式から2式とみられる。12は深鉢の胴部下半から底部で、配石の中心付近確認面から出土した。胴部への立ち上がりからみて、加曾利B2式に下る可能性もある。色調は黒色から黒褐色で、内外面ともに良く磨かれている。13と14は3単位の把手が付く深鉢の口縁部で、配石の隙間から出土した。加曾利B2式である。内外面ともに篋状工具で良く磨かれている。15は体部が張る鉢で、加曾利B2式である。屈曲部の文様帯は低い隆帯の両脇に沈線が施文され、隆帯上に刻文が施文される。色調は外面が暗褐色から黒色、内面が褐色から黒褐色である。内外ともに篋状工具による横方向の磨きが丁寧に施される。16の深鉢は堀之内2式の新段階、17~22の深鉢・鉢・注口土器は加曾利B1式、23~26の深鉢(鉢)は加曾利B1式から2式と考えられる。27~29は深鉢で加曾利B2式と考えられる。30と31は体部が張る鉢の口縁部で、加曾利B2式である。ともに内外面が篋状工具で良く磨かれている。方向は横である。32と33は口唇部に押圧または刺突が連続する粗製土器である。

配石の一部とみる礫の中に凹石1点と、凹石(磨面・敲打痕あり)1点がある。

時期 出土した土器の最も新しい時期は加曾利B2式である。これを配石の構築時期と考えておきたい。

第5節 土器集中地点

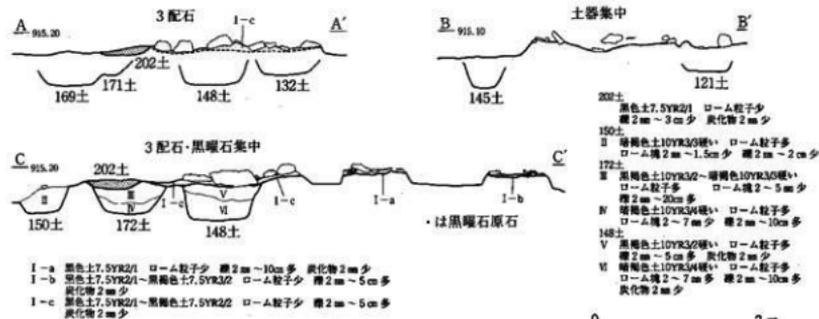
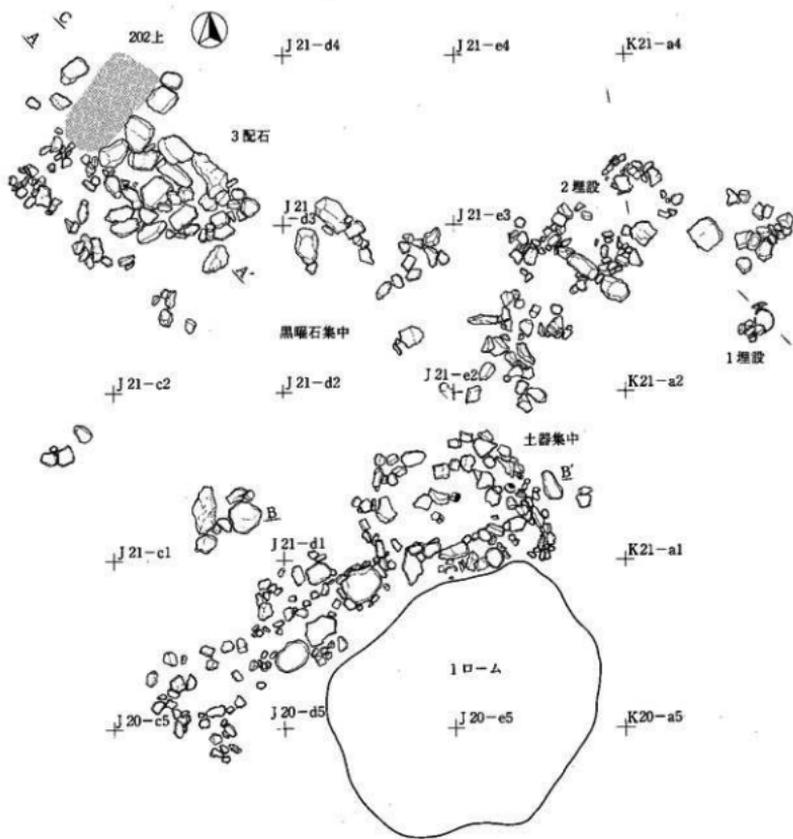
(1) 土器集中地点(第42・49・50図)

遺構 J21-d1・e1グリッドを中心とする。南側は1号ローマウンドに切れ、多量の土器がローマウンド内に落ち込んでいる。

礫の検出面から完形・半完形を含む多量の土器が集中出土した。その状態から土器集中地点と呼称した。土器の周囲に平石や大小の直角礫と亜円礫が楕円形にめぐるが、自然礫との識別に特に苦慮した場所であり、この形に礫が据えられていた保証はない。また、ローマウンド内に多量の土器が落ち込むため、遺構は南へ続いていたと考えられる。

遺物 ローマウンド出土の土器を含めた総重量は11.96kgに及ぶ。その中の50点を第49・50図に示した。図上での器形復元を含め図化できた土器は14個体である(第49図1・3、4~9、11~14、第50図35・36)。器種は深鉢・鉢・注口土器がある。深鉢には精製土器と粗製土器がある。精製土器は「石神類型」とされる深鉢(1)、朝顔形?の深鉢(2・3:同一個体)、3単位の波状口縁をもつ深鉢(4・5)などである。粗製土器は13・14などで、13は口唇端部内側に指頭状の窪みが連続し、口縁部内面に沈線1条がめぐる。鉢は9・10・11で、8は注口土器の可能性もある。9・10は同一個体である。8の文様は先細の工具が施文原体となる。注口土器は6と7である。拓本の中には浅鉢(第50図15~17)と、口縁部が内湾し体部が張る鉢(第50図23・24)がある。

時期 器形復元された土器はおおむね堀之内2式の新段階から加曾利B1式の前段階の所産と思われる。拓本の中に加曾利B2式の深鉢(21)と鉢(22~25)などが含まれるが、型式判定可能な文様がある土器の主体は、器形復元された土器と同様に堀之内2式の新段階から加曾利B1式の前段階にある。この時間幅の中で遺構が形成されたと考えられる。



第42図 3号配石、土器集中地点、黒曜石集中地点、1号ロームマウンド (1/60)

第6節 黒曜石集中地点

(1) 黒曜石集中地点 (第42・51図・第6表)

遺構 J21-d 2グリッドを中心とする。

3号配石から土器集中地点周辺の約20㎡から、黒曜石の原石・石核・剥片・裂片・砕片・石鏃・石錐・石鏃未製品・石錐未製品・調整加工のある石片などが集中出土した(註2)。小グリッドで黒曜石の出土量が200gを超えるもの、また200gに近いものを含めた10グリッド(J20-c 5・d 5、J21-b 1・c 1・d 1・e 1、c 2・d 2、b 3・c 3)を黒曜石集中地点とする(第6表)。また、3号配石の北西に接する202号土坑では、黒曜石の微細な剥片(チップ)と砕片が集中出土した。黒曜石集中地点内にあり、一連の遺構と考えられるため、併せて報告する。

出土した黒曜石の中で目を引くのは、長さ3~4cm、幅2~3cm、厚さ1~2cm、重量10~20g程度を測る黒曜石塊である(註3)。3号配石付近の表土剥ぎ取り作業段階から黒曜石塊が幾つも出土し、表土下の黒色土層から開始した遺構検出作業でも同様の黒曜石塊が相次いで出土した。当初、礫の検出を優先し作業を進めていたため、黒色土層から黒褐色土層に散在する黒曜石塊は1㎡四方毎に取り上げていた。しかし、J21-d 2グリッドの(b)では1箇所から折り重なって集中出土し、(d)でもこれに近い状態で集中出土した。出土状態から何らかの遺構と考えるに至り、原位置を記録し取り上げる調査に切り替えた。原位置を記録し取り上げた数量は103点で、そのうち黒曜石塊は96点で重量は1,359.1gである(第8表)。多くは配石や地山の礫との間から出土したが、配石とみられる礫下から出土したものもある。また、出土層位は黒色土層から黒褐色土層で(第42図C-C'のI-a・b層)、土坑の検出面となった暗褐色土層との境から出土したものもある。黒曜石塊の出土レベル差はJ21-d 2グリッドの(b)および(d)の集中部で5cm以内である。

遺物 集中地点出土の黒曜石点数は6,010点で、重量は4,728.45gを測る(註4)。重量でみれば、遺跡内出土総重量8,694.8g(総点数7,461点)の約53%を占めることとなる。

原位置が記録された黒曜石塊の大半は原石と考えられる。石核は数点あり、原石とはほぼ同じ大きさである。剥離痕は縦長で、剥離回数は1~2回と少ない。202号土坑を含む黒曜石集中地点において、原位置を記録せずに取り上げた黒曜石塊と、これより小ぶりな原石・石核は184点で2158.1gを測る(第8表)。集中地点出土の石器・石器未製品・石器未製品の可能性があるものなどは49点(総点数137点)で、内訳は石鏃6点(総点数15点)、石鏃破損品8点(総点数11点)、石鏃未製品8点(総点数11点)、石錐2点(総点数8点)、石錐破損品0点(総点数3点)、石錐未製品1点(総点数2点)、石匙0点(総点数2点)、器種不明石器1点(総点数2点)、器種不明石器破損品2点(総点数5点)、器種不明石器未製品4点(総点数17点)、器種不明石器未製品?2点(総点数6点)、調整加工のある石片(剥片石器)は12点(総点数43点)、調整加工のある石片(剥片石器)?は3点(総点数12点)である。

202号土坑から出土した黒曜石片は4,986点で339.55gを測る。その内、0.5cm以下の微細な剥片・砕片は4356点57.8gを測る(註5)。微細な剥片・砕片とともに石鏃破損品4点、石鏃未製品4点、器種不明石器破損品1点、器種不明石器未製品2点、器種不明石器未製品?2点、調整加工のある石片?1点が出土している。

黒曜石集中地点では黒曜石製以外の石器も6点出土している。内訳は凹石1点、凹石(敲打痕あり)1点、凹石(磨面・敲打痕あり)1点、打製石斧1点、磨製石斧1点(土器集中地点と重複)、礫石1点がある。

時期 黒曜石集中地点から出土した最も新しい時期の土器片は加曾利B2式である。3号配石との位置関係、墓坑群および土器集中地点との重複関係からみて、加曾利B2式期の遺構と考えておきたい。

第7節 焼土址

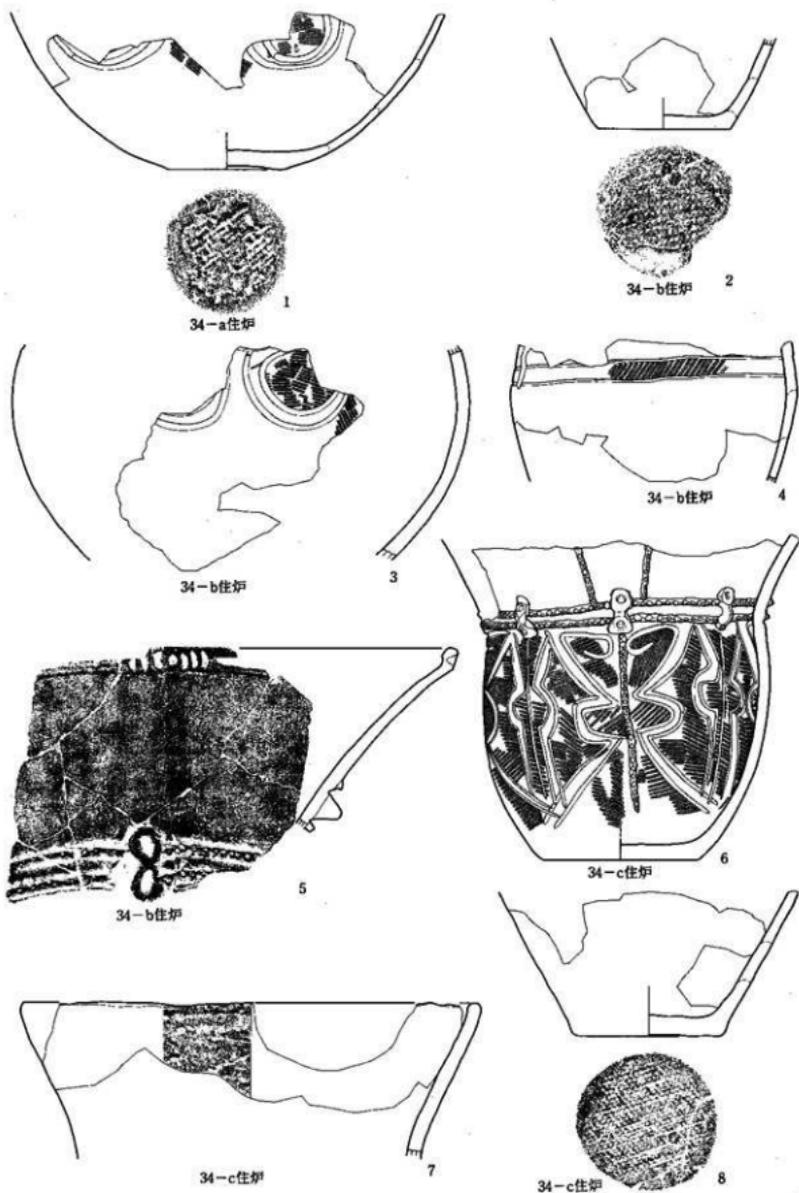
(1) 1号焼土址(付図)

遺構 K18-b4グリッドに位置する。検出面は黒色土層面である。平面形は不整形で、中心付近の焼土の厚みは約5cmである。

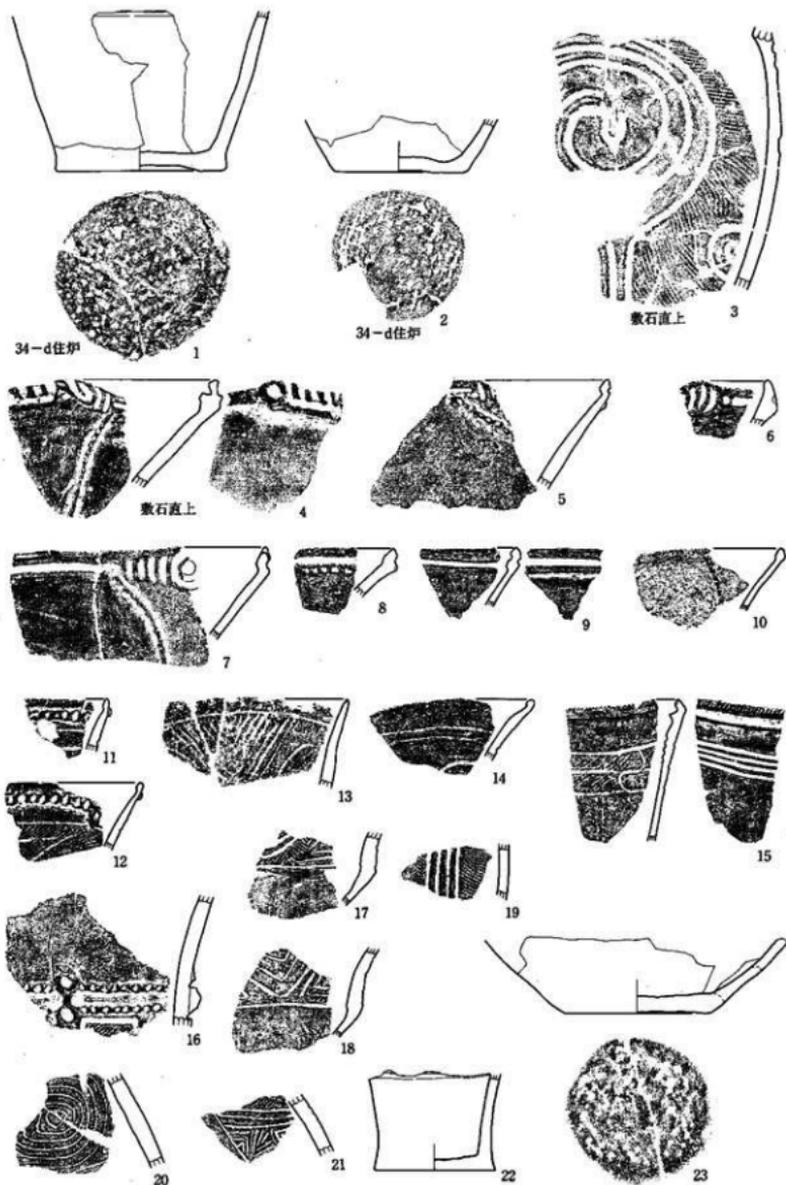
遺物 焼土址周囲の検出面から土器片が19点出土している。型式判定できる後期前葉の土器が数点あり、新しくみても堀之内1式の新段階と考えられる。

時期 堀之内1式の新段階以降の焼土址と考えられる。

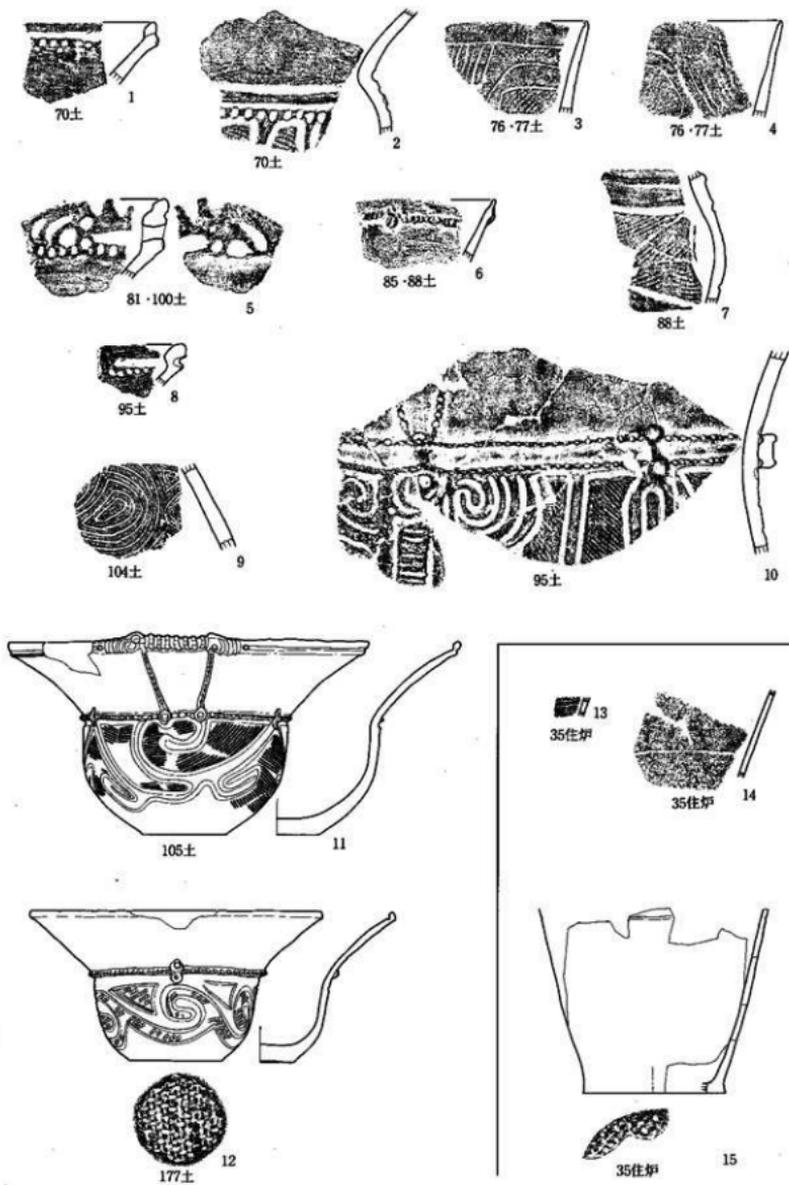
- (註1) 黒曜石以外の石器は、報告で記述した遺構と土坑(第5表・一覧表)に限り掲載した。全点に目を通しており、約7割は凹石・磨石・敲石であることを確認している。
- (註2) 報告にあたっては黒曜石全点に目を通している。定形石器(破損品含む)、定形石器の未製品、器種不明石器の未製品とその可能性があるもの、調整加工のある石片とその可能性があるもの、そして黒曜石集中地点(10箇所の小グリッド)から出土した原石・石核とその可能性があるものは分類済みであるが、石片の分類は未着手である。なお、楔形石器や両極剥離痕のある石片は一定量確認されている。
- (註3) 黒曜石塊としたものは主として原石と石核で、ここでは本文に記した法量に近いもの、またはそれ以上のものを指す。なお、第8表は黒曜石集中地点から出土した原石と石核の法量を示したものである。原石の中には①表面が摩滅または風化し、明らかに原石と言えないもの、②新しい割れ面に覆われ、人為的に割られたもののなかから自然営力で割れたものか判断に迷うものがある。原産地では②に類似する黒曜石塊が採取されることがであり、新しい割れ面に覆われていても打点が明確でない黒曜石塊は原石に分類した。また、石核は石鏃をつくれる程度の剥片が剥ぎ取られたものとした。
- (註4) この数量には集中地点に該当する土坑13基(202号土坑は除く)に伴う黒曜石も含まれている。点数62点、重量90.25gを測るが、これを差し引いたとしても黒曜石が集中出土したことに変わりはない。
- (註5) 202号土坑の微細な剥片・碎片は水洗で取り上げている。



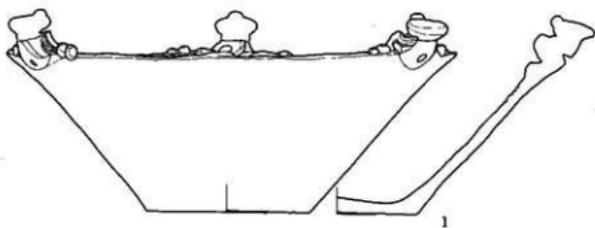
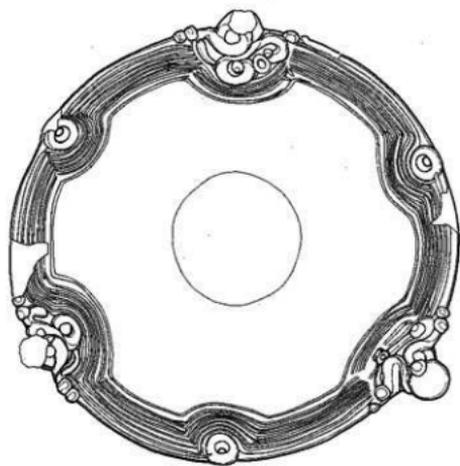
第43图 34号住居址出土土器 (1/3)



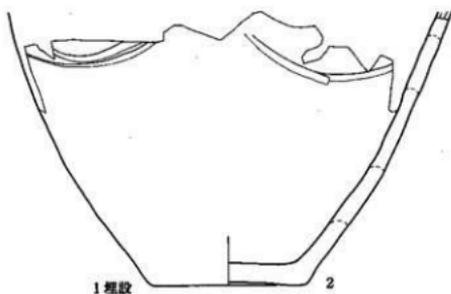
第44图 34号住居址出土土器 (1/3)



第45图 34·35号住居址出土土器 (1/3)



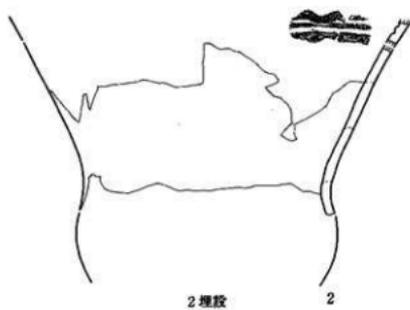
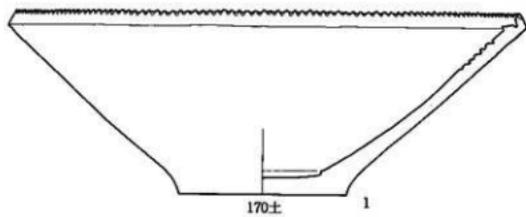
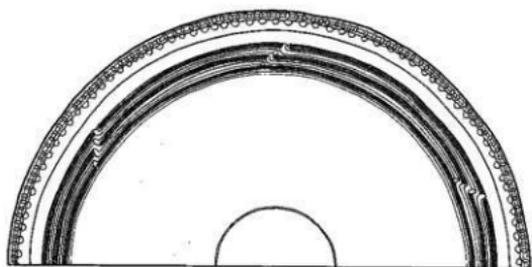
150土



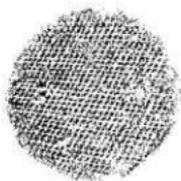
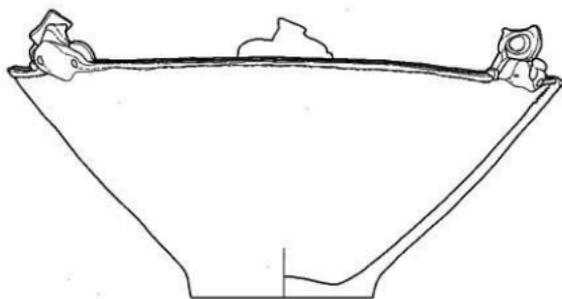
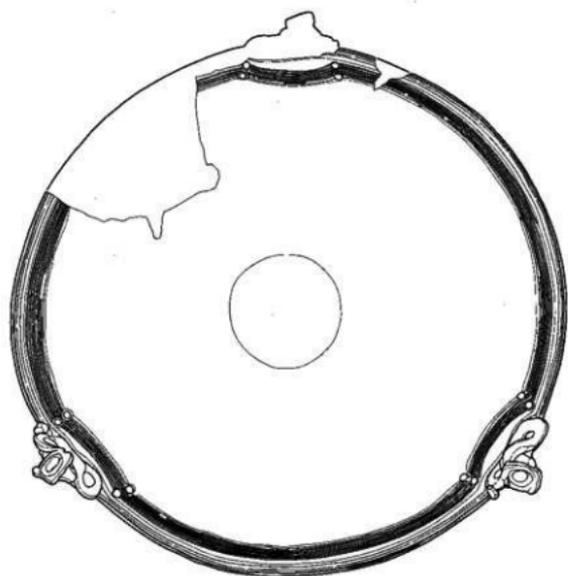
1 埋股

2

第46图 150号土坑出土土器、1号埋股土器 (1/3)

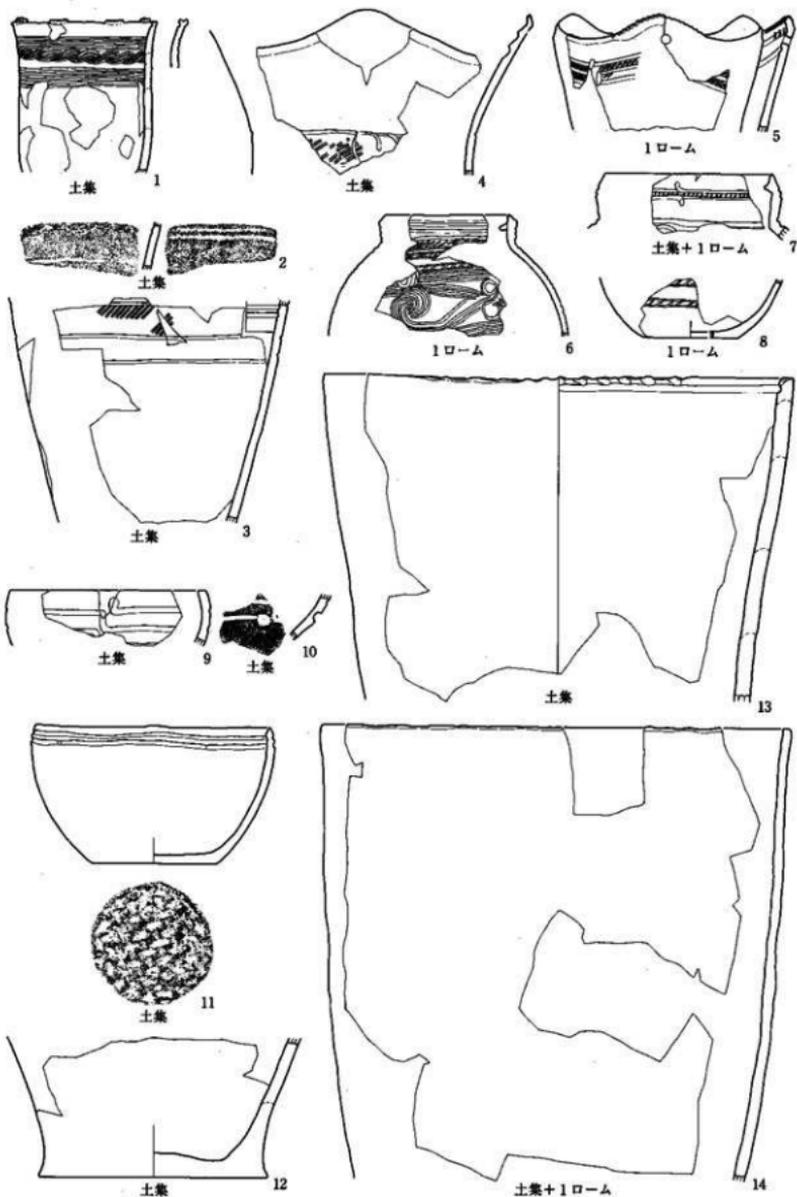


第47图 170号土坑出土土器、2号埋设土器 (1/3)

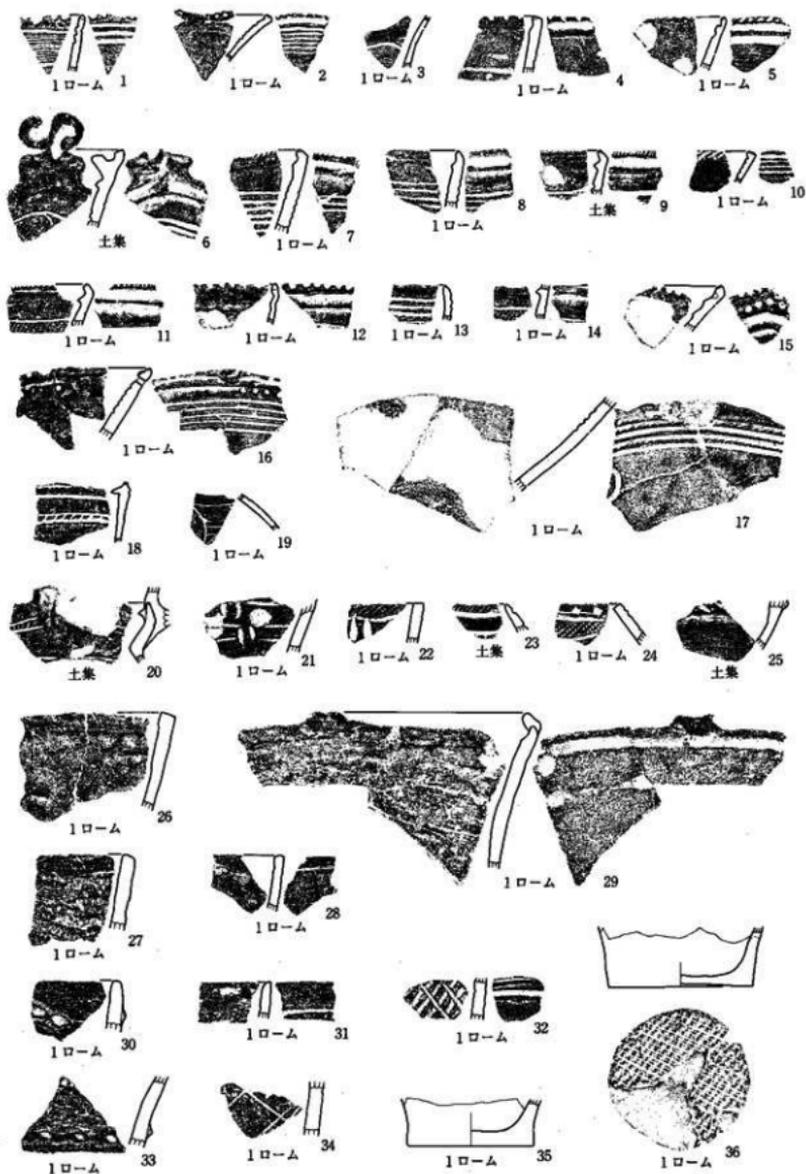


1

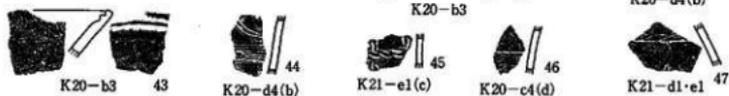
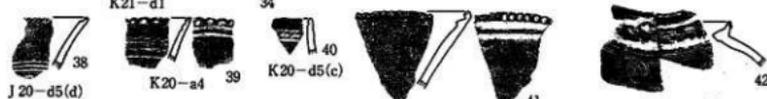
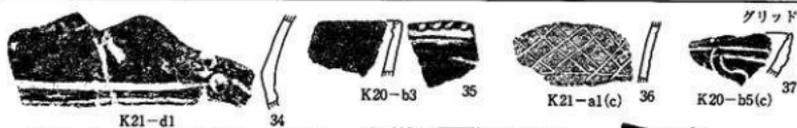
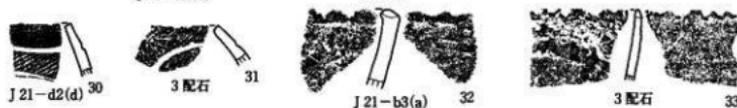
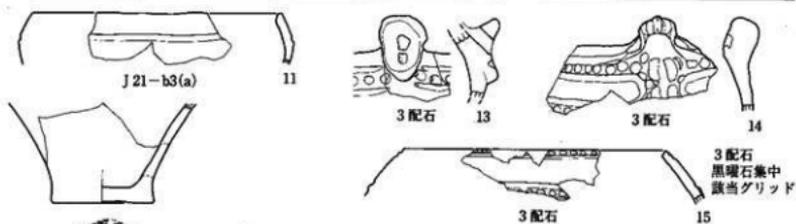
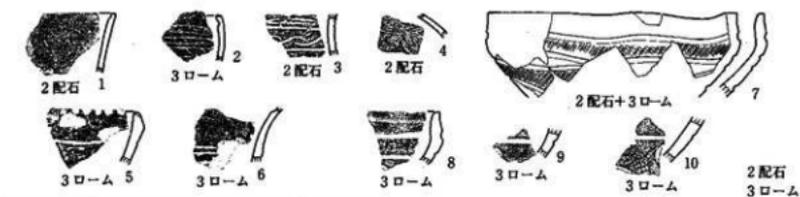
第48图 172号土坑出土土器 (1/3)



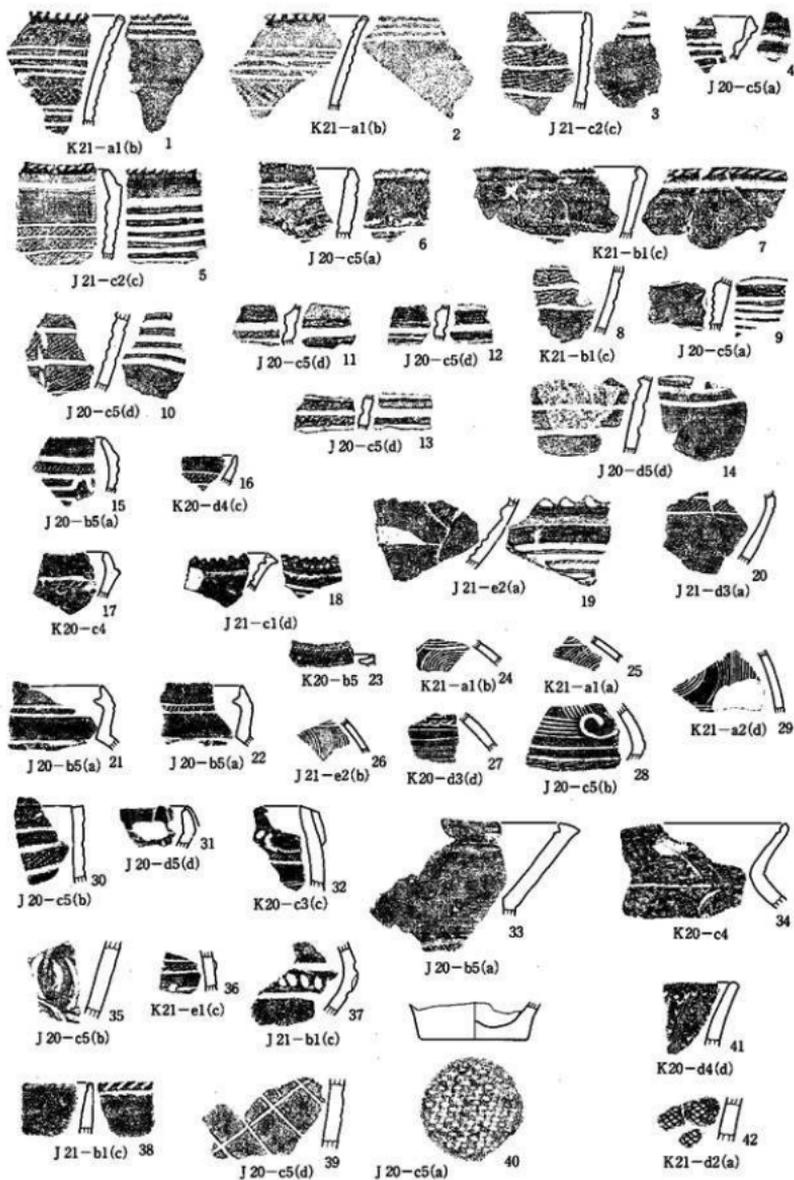
第49回 土器集中地点、1号ルームマウンド出土土器 (1/3、14は1/4)



第50図 土器集中地点、1号ローママウンド出土土器 (1/3)



第51図 2・3号配石、黒曜石集中地点、3ロームマウンドグリッド出土土器 (1/3)



第52図 グリッド出土土器 (1/3)

第5表 胸形遺跡土坑一覧表①

遺跡番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
1土	K21	楕丸長方形	78	50	70	38	42	縄文後期前葉土器、滑石製垂飾	164土と重複
2土	J21	円形	32	29	25	22	21		
3土	J22	円形	24	23	18	15	10		
4土	J21	楕円形	31	25	25	19	19		
5土	J22	楕円形	49	42	37	30	18	縄文後期土器	
6土	J22	楕円形	31	24	21	14	13		
7土	J22	円形	25	24	19	17	10		
8土	J22	楕円形	40	34	26	20	23	縄文後期前葉土器?	9土と重複
9土	J22	円形	33	31	24	24	12		8土と重複
10土	J22	円形	35	34	26	25	19		
11土	J22	楕円形	32	27	20	17	17		12土と重複
12土	J22	円形	31	30	17	16	18		11土と重複
13土	J22	円形	35	34	29	24	26		
14土	J22	円形	26	24	16	14	11		15土と重複
15土	J22	円形	34	29	20	20	40	縄文土器	14土と重複
16土	J22	円形	23	21	17	14	9		
17土	L21	円形	38	36	23	22	18		
18土	L21	円形	35	34	26	24	14		
19土	K20	楕円形	41	34	36	26	19		
20土	K21	円形	46	42	34	32	22	縄文土器、凹石 (磨面あり) 1点	
21土	K20	円形	43	40	35	28	25		22土と重複
22土	K20	円形	33	33	27	25	10	黒曜石1点 (石鏢): 0.4g	21土と重複
23土	K21	楕円形	80	54	67	42	30		
24土	K21	円形	55	49	50	39	19	縄文後期前葉土器?、黒曜石1点: 2.7g	
25土	K21	円形	54	49	46	41	32	縄文中期後半以降の土器、黒曜石1点: 23.4g	
26土	K21	楕円形	58	47	53	40	26	縄文後期前葉以降の土器、黒曜石2点: 2.4g	
27土	K21	楕円形	51	36	38	32	38	縄文土器、黒曜石2点: 1.2g、27-28土黒曜石5点: 5.8g	28土と重複
28土	K21	(円形)	70		44		29	27・28土から縄文後期前葉以降の土器、黒曜石1点: 1.6g	27土と重複
29土	K21	円形	63	56	50	48	12	縄文後期前葉土器?	
30土	K20	円形	39	38	30	27	18		
31土	K21	楕円形	32	26	22	15	58		34 (35) 住内、以下34 (35) 住内の土坑の強さは34-d住石遺跡の上面へM15.75mを基準に計測
32土	K21	円形	34	32	23	21	59		34 (35) 住内、53土と重複、90土と重複の可能性あり
33土	K21	円形	51	48	40	37	54		34 (35) 住内
34土	K21	楕円形	38	32	28	21	76		34 (35) 住内
35土	K21	円形	34	32	22	21	73		34 (35) 住内
36土	K21		45		39		84	縄文後期土器、黒曜石2点: 2g	34 (35) 住内、64・157土と重複
37土	K21	楕円形	53	44	43	30	72	縄文後期土器、黒曜石2点: 2.4g	34 (35) 住内
38土	K21	円形	39	35	27	26	64	縄文土器、黒曜石1点: 0.7g	34 (35) 住内
39土	K21	円形	66	58	40	38	94	縄文後期前葉土器?、黒曜石2点: 4g	34 (35) 住内、72土と重複
40土	K21	(円形)	48		25		88		34 (35) 住内、72土と重複
41土	K21	円形	49	47	37	34	70	縄文土器	34 (35) 住内
42土	K21	円形	43	42	30	30	76	縄文中期後半土器、黒曜石1点: 22.8g	34 (35) 住内
43土	K21	円形	46	44	32	30	69	縄文土器	34 (35) 住内、44土と重複
44土	K21	円形	64	62	42	42	85	縄文後期土器、凹石 (磨面あり) 1点	34 (35) 住内、43・73土と重複
45土	K21	円形	70	68	48	41	87	縄文後期前葉土器、黒曜石1点: 2g	34 (35) 住内、74・152土と重複
46土	K21	楕円形	43	34	24	18	49		34 (35) 住内、47土と重複
47土	K21	円形	42	38	22	20	55	縄文土器	34 (35) 住内、46土と重複
48土	K21	円形	33	32	24	22	45		34 (35) 住内
49土	K21	(円形)	29		16		42	縄文後期土器	34 (35) 住内、50土と重複
50土	K21	楕円形	40	32	23	22	45		34 (35) 住内、49土と重複
51土	K21	円形	42	41	28	20	51		34 (35) 住内
52土	K21	円形	46	40	31	28	71	縄文後期土器、黒曜石1点: 2.9g	34 (35) 住内、96土と重複
53土	K21	円形	80	76	52	50	116	縄文後期前葉土器	34 (35) 住内、32土と重複

第5表 駒形遺跡土坑一覧表②

遺構 番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備 考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
54土	K21	(円形)	51		17		92	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:5.3g	34 (35) 住内
55土	J21	円形	52	50	36	33	65		34 (35) 住内
56土	J21	円形	64	58	48	43	72	縄文後期前葉土器、黒曜石2点:2.2g	34 (35) 住内、66・67土と重複
57土	J21	円形	38	36	22	20	69		34 (35) 住内
58土	K21	円形	32	30	24	22	30		34 (35) 住内、78土と重複
59土	K21	円形	36	33	21	20	42		34 (35) 住内、60・62土と重複
60土	K21	円形	43	41	25	24	44	縄文後期土器?	34 (35) 住内、59土と重複
61土	K21	隅丸方形	69	68	39	35	101		34 (35) 住内、62・75土と重複
62土	K21						27		34 (35) 住内、59・61・75・76・78土と重複
63土	K21	円形	33	30	25	22	81		34 (35) 住内、156・157土と重複
64土	K21	隅丸長方形	90	68	72	49	125	縄文後期前葉土器?、黒曜石6点: 6.9g	34 (35) 住内、36・156・157土と重複
65土	J21	円形	70	65	45	38	102	縄文後期前葉土器、黒曜石3点:3g	34 (35) 住内、66・153土と重複
66土	J21	円形	80	78	63	57	113	縄文後期前葉土器、黒曜石3点: 13.2g	34 (35) 住内、56・65・67・153土と重複
67土	J21	円形	55	50	41	37	104	縄文後期前葉土器、黒曜石3点:3.3g	34 (35) 住内、56・66・69と重複、153土と重複の可能性あり
68土	K21	円形	52	50	36	34	65		34 (35) 住内
69土	J21	円形	32	32	20	19	67	縄文土器	34 (35) 住内、67土と重複
70土	K21	楕円形	53	41	30	26	88	縄文後期前葉土器、黒曜石3点: 10.5g	34 (35) 住内、71・80土と重複
71土	K21	円形	60	56	44	44	75	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:0.5g	34 (35) 住内、70・80・101土と重複
72土	K21	円形	62	62	42	40	99	縄文中期後半以降の土器、黒曜石2 点(1点は石匙):1.2g	34 (35) 住内、39・40土と重複
73土	K21	楕円形	38	26	29	22	75	縄文後期前葉土器?	34 (35) 住内、44土と重複
74土	K21	(円形)	49		35	29	66	74・152土から縄文土器、85・152土 から黒曜石1点:3g	34 (35) 住内、45・152土と重複
75土	K21	円形	54	50	35	31	78	74・76土から縄文後期前葉土器	34 (35) 住内、61・62・76・78土と重複
76土	K21	楕円形	79	62	58	46	102	縄文土器	34 (35) 住内、75・78土と重複 62・84土と重複の可能性あり
77土	K21	円形	62	57	41	33	94	76・77土から縄文後期前葉土器	34 (35) 住内、76・83土と重複
78土	K21	(円形)	54		28		63		34 (35) 住内、58・62・75・76土と重複
79土	K21	楕円形	37	31	24	22	36		34 (35) 住内
80土	K21	円形	50	44	26	23	90		34 (35) 住内、70・71土と重複
81土	K21	円形	99	88	51	44	119	縄文後期前葉土器、黒曜石2点: 32.3g、81・100土黒曜石1点:3.1g	34 (35) 住内、82・100土と重複
82土	J21	(円形)	47		28		39		34 (35) 住内、81土と重複
83土	K22	(円形)	24		12		47		34 (35) 住内、77土と重複
84土	K22		42		18		47	縄文土器、黒曜石1点:0.05g	34 (35) 住内、76土と重複する可能性あり
85土	K21	円形	102	100	76	74	112	縄文後期前葉土器、黒曜石11点: 27.3g、85・88土から黒曜石20点: 59.4g	34 (35) 住内、86・88・89・155土と重複
86土	K21	(円形)	38		20		69		34 (35) 住内、85土と重複
87土	K21	円形	23	22	14	12	42		34 (35) 住内
88土	K21	楕円形	80	63	62	50	122	縄文後期前葉土器	34 (35) 住内、85・96土と重複
89土	K21	(楕円形)	55		44		78	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:9.6g	34 (35) 住内、85・88・96・155土と重複
90土	K21	円形	34	32	21	20	55		34 (35) 住内、32土と重複の可能性あり
91土	K21		29		15		38	縄文後期前葉土器	34 (35) 住内
92土	K21	円形	49	42	30	25	64		34 (35) 住内、93土と重複
93土	K21	円形	40	34	30	26	62		34 (35) 住内、92土と重複
94土	K21	(円形)	46		27		82	縄文中期後半土器、黒曜石1点:11g	34 (35) 住内、96土と重複
95土	K21	円形	72	67	54	50	106	縄文後期前葉土器、黒曜石7点: 22.4g	34 (35) 住内、52・94土と重複
96土	K21	円形	54	50	36	32	66	縄文土器	34 (35) 住内、99土と重複
97土	K21	円形	52	50	40	36	77	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:4.9g	34 (35) 住内、99土と重複
98土	J21	円形	50	48	42	31	90	縄文後期前葉土器?	34 (35) 住内、89土と重複
99土	K21	(円形)	50		34		71		34 (35) 住内、96・97土と重複
100土	K21	円形	74	68	60	59	75	縄文後期前葉土器、黒曜石3点:7.4g	34 (35) 住内、81土と重複
101土	K21	円形	40	36	29	21	46		34 (35) 住内、71土と重複

第5表 胸形遺跡土坑一覧表③

遺構番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
102土	K21	円形	68	60	44	37	108	縄文後期前葉土器?	34 (35) 住内
103土	K21	円形	30	30	21	18	60		34 (35) 住内、104土と重複
104土	K21	円形	88	78	62	46	116	縄文後期前葉土器、黒曜石2点:1.7g	34 (35) 住内、103土と重複、191土と重複する可能性あり
105土	K21						16	縄文土器、黒曜石1点:15.3g	34 (35) 住内
106土	K21	円形	34	34	23	20	64		34 (35) 住内
107土	J21		32	22	18	16	13		
108土	J21	円形	34	30	28	19	18		
109土	J21			60		48	9		113土と重複
110土	J21	(円形)	40		30		11		
111土	J21	隅丸長方形	122	82	111	69	12	縄文土器、黒曜石3点:5g	長軸方向N-55°-E
112土	J21		68		56		10		長軸方向N-82°-W?
113土	J21	楕円形	27	21	21	14	11		109・115土と重複
114土	J21		70		53		21	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:0.5g	
115土	J21	(隅丸長方形)		69		57	21		長軸方向N-16°-W、113・116・117土と重複
116土	J21	楕円形	22	18	13	12	16		115土と重複
117土	J21	(隅丸長方形)	58		50		19	縄文後期前葉土器、黒曜石12点:23.7g	長軸方向N-76°-E、115・118土と重複
118土	J21	(楕円形)	50		42		5	縄文土器	長軸方向N-90°-E、117土と重複
119土	J21	隅丸長方形	112	74	94	58	27	縄文土器、黒曜石2点:2.6g	長軸方向N-67°-E
120土	J21	隅丸長方形	162	94	130	63	57	縄文土器、黒曜石7点:3.6g	長軸方向N-54°-E
121土	J21	円形	60	59	49	47	8	縄文後期前葉土器?、黒曜石5点(1点は石鏃、1点は石鏃):4.8g	
122土	J21	(円形)	52		35		12		123土と重複
123土	J21	楕円形	124	103	88	70	29		長軸方向N-2°-W、122土と重複
124土	J21		20		20		12		
125土	J21			73		55	19		長軸方向N-51°-E?、161土と重複
126土	J21	楕円形	136	75	120	56	27	縄文後期土器	長軸方向N-27°-E
127土	J21	楕円形	44	37	31	29	11	縄文土器	
128土	J21	楕円形	70	62	48	34	40	縄文土器、黒曜石2点:1.4g、凹石(磨面あり)1点	175土と重複する可能性あり
129土	J21	円形	75	73	50	42	34	縄文後期前葉土器、黒曜石2点:4.4g	
130土	J21	円形	45	45	30	28	25	黒曜石4点:2.2g	
131土	J21	円形	136	128	130	100	21	縄文中期後半土器、黒曜石8点:15.4g	143・144土と重複
132土	J21	隅丸長方形	116	72	98	52	26		長軸方向N-68°-E
133土	J21	楕円形	44	36	32	22	20	縄文土器	
134土	J21	円形	57	53	47	36	27	縄文後期前葉土器?	159土と重複
135土	J21	円形	38	34	24	22	37	縄文土器、黒曜石1点:2.1g	136土と重複
136土	J21	(楕円形)		38	38	26	20	縄文土器	135土と重複
137土	J21	楕円形	40	33	27	24	33	縄文土器	
138土	J21	円形	34	32	26	23	15		
139土	K21	楕円形	55	43	24	24	40		
140土	K21	楕円形	26	22	12	12	17		
141土	J21	円形	55	53	37	37	25	縄文土器	
142土	J21	楕円形	38	30	28	18	20		
143土	J21	円形	47	44	26	26	35		131・144土と重複
144土	J21	円形	56	56	38	34	35	縄文土器	131・143土と重複
145土	J21	円形	52	50	31	29	32	縄文土器、黒曜石3点:0.8g	
146土	J21	円形	27	24	15	14	10		
147土	J21	円形	41	37	30	28	24	縄文土器	
148土	J21	隅丸長方形	132	68	118	63	44	縄文後期前葉土器、黒曜石5点:11.1g	長軸方向N-74°-E
149土	J21	楕円形	46	38	31	25	27	縄文後期土器?	
150土	J21	隅丸長方形	104	51	92	34	17	縄文後期前葉土器黒曜石3点(1点は石鏃):3g	長軸方向N-44°-E
151土	J21	円形	32	29	26	20	11		
152土	K21	円形	41	40	20	19	60	縄文土器	34 (35) 住内、45・74土と重複
153土	K21						49		34 (35) 住内、65・66・154土と重複、67土と重複する可能性あり
154土	K21						49		34 (35) 住内、153・177土と重複
155土	K21	(円形)	40		27		69		34 (35) 住内、85・89土と重複

第5表 駒形遺跡土坑一覧表①

遺構番号	位置	平面形	口径 (cm)		底径 (cm)		深さ (cm)	出土遺物	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
156土	K21	(円形)	56		48		78		34 (35) 住内、63・64・157土と重複
157土	K21	(楕円形)	102		84		71		34 (35) 住内、36・63・64・156土と重複
158土	J 21	(円形)	57		36		28	縄文土器、黒曜石4点 (1点は石鏃) : 5g	159・190土と重複
159土	J 21	(円形)	60		46		11	縄文土器	134・158・190土と重複
160土	J 21	円形	50	48	28	27	40	縄文土器、黒曜石5点:11.4g、160・171土黒曜石2点:2.7g	
161土	J 21	(円形)	26		22		8		125土と重複
162土	J 20	楕円形	107	55	88	40	9		長軸方向N-20°-W
163土	J 20	円形	24	22	14	12	15		
164土	K21	楕円形	56	48	38	32	44		J・179土と重複
165土	J 20	楕円形	35	31	23	16	9		
166土	J 20	円形	65	64	53	48	22	黒曜石2点:2.2g	
167土	J 21	円形	40	38	26	26	14	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:1.2g	168土と重複
168土	J 21	(円形)	65		54		8	縄文土器	167・171土と重複
169土	J 21	(隅丸長方形)	137		117		29	黒曜石9点:13.3g	長軸方向N-56°-E、170・171土と重複
170土	J 21	(隅丸長方形)	116		100		23	縄文後期中葉土器黒曜石6点 (1点は石鏃):4.7g	長軸方向N-64°-E、169土と重複
171土	J 21	(隅丸長方形)	140		124		28	縄文後期前葉土器、黒曜石3点 (1点は石鏃未製品):3g	長軸方向N-60°-E、168・169土と重複
172土	J 21	隅丸長方形	138	126	110	52	35	縄文後期前葉土器、黒曜石12点:13.65g	長軸方向N-55°-E
173土	J 21	(円形)	32		20		20	縄文後期前葉土器、黒曜石1点:1.9g	174土と重複
174土	J 21	(円形)	74		52		50	縄文土器、黒曜石1点:0.3g	173土と重複
175土	J 20	隅丸長方形	220	183	198	153	28	縄文後期土器、黒曜石3点:16.3g	128土と重複する可能性あり
176土	K20						20		
177土	K21	楕円形	41	33	34	25	49	黒曜石3点:13.8g	34 (35) 住内、154土と重複
178土	J 21	円形	41	36	28	26	30		
179土	K21	(円形)	44		26		28		164土と重複
180土	J 20		30		22		7		
181土	J 20	円形	33	32	22	13	20	黒曜石1点:0.5g	
182土	J 20	楕円形	28	20	20	11	8		
183土	J 21		42	36	33	26	17	縄文土器	
184土	J 21	(円形)	28		16		19		188土と重複
185土	K21	円形	32	30	20	18	43		
186土	K21	円形	26	28	18	16	57		34 (35) 住内
187土	J 21	楕円形	41	30	27	16	25		
188土	J 21	(円形)	30		20		21		184土と重複
189土	J 21	(楕円形)		128		108	22		
190土	J 21	(円形)	58		36		31		158・159土と重複
191土	K21	円形	44	40	25	25	76	縄文後期土器	34 (35) 住内、104土と重複する可能性あり
192土	J 21	楕円形	46	39	32	28	21		
193土									欠番
194土	K20	円形	47	41	34	28	21	黒曜石1点:1.1g	
195土	K21	円形	30	29	19	19	49		34 (35) 住内
196土									欠番
197土	I 13		31		25		8	黒曜石1点:1.4g	
198土	I 13	円形	44	43	31	25	46	黒曜石2点:1.55g	
199土	I 12	円形	67	64	53	44	30	黒曜石1点:3g	
200土	I 12	楕円形	83	57	46	44	50		
201土	I 12	(円形)	26		12		11		
202土	J 21	楕円形	124	62	102	40	12	黒曜石4986点:339.55g	

第6表 駒形遺跡グリッド別

		I		J		K		L		M			
	#	点取	重量g	点取	重量g	点取	重量g	点取	重量g	点取	重量g		
		e	a	b	c	d	e						
22	3	40.1~											
		35.1~40											
		30.1~35											
		25.1~30											
		20.1~25											
		15.1~20											
		10.1~15											
		5.1~10											
		1.1~5											
	~1												
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	2	40.1~											
		35.1~40											
		30.1~35											
		25.1~30											
		20.1~25											
		15.1~20											
		10.1~15											
5.1~10					1	6.9							
1.1~5					1	4.1							
~1				1	0.1								
計	0	0	0	3	11.1	0	0	0	0	0			
1	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15												
	5.1~10												
	1.1~5												
~1													
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
21	5	40.1~											
		35.1~40											
		30.1~35									1	30.8	
		25.1~30											
		20.1~25											
		15.1~20					1	15.8					
		10.1~15					1	10.7					
		5.1~10					2	21.2			2	4.6	
		1.1~5		2	3.5	10	10	8.2					
	~1		1	0.7	15								
	計	0	0	3	4.2	27	55.9	0	0	0	3	35.4	
	4	40.1~											
		35.1~40											
		30.1~35											
		25.1~30											
		20.1~25											
		15.1~20											
		10.1~15											
5.1~10											2	12	
1.1~5						7	17.4				6	8.1	
~1					10	5.2				3	1.6		
計	0	0	0	0	17	22.6	0	0	0	0	11	21.7	
3	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20					4	66.6	1	15.8				
	10.1~15					3	40.9	6	72.3		2	25.5	
	5.1~10					7	47.2	4	26.9		10	3	24.5
	1.1~5		1	4	59	122.8	47	96.4	17	35.1	18	38.3	
~1		2	1	98	40	4,852	165.56	6	3.2	26	13.65		
計	0	0	3	5	171	317.7	4,910	376.96	24	48.3	49	101.95	
2	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20							1	21.6	11	236.1		
	10.1~15							3	50.9	29	506.7	1	19.4
	5.1~10					1	11.6	8	106.3	71	886.1	3	34
	1.1~5					1	8.1	6	52.5	31	260.7	4	31.4
~1					4	7.5	27	52.3	34	81.4	12	21.7	
計	0	0	0	0	5	2.15	28	14.8	30	17.4	23	13.15	
計	0	0	0	0	11	29.35	73	288.4	210	2106.9	43	119.65	

黒曜石重量一覧表①

K										L					
a		b		c		d		e		a		b		c	
点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	5.6			1	10.2			1	10.3						
15	29.1			6	14.5			5	12						
4	1.7			1	1	1	0.9	7	3.95						
20	36.4	0	0	8	25.7	1	0.9	13	26.25	0	0	0	0	0	0
1	5.6			1	10.2			1	12						
15	29.1			6	14.5			1	3						
4	1.7			1	1	1	0.9	4	2.3						
20	36.4	0	0	8	25.7	1	0.9	6	17.3	0	0	0	0	0	0

第6表 駒形遺跡グリッド別

	g	I											
		a		b		c		d		e			
		点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g		
1	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25							1	20.4	1	25.4		
	15.1~20									7	127.9	4	73.2
	10.1~15					3	35.1	2	23.9	10	121.2	6	75.6
	5.1~10					5	35.6	9	66.1	13	99.5	6	39.5
	1.1~5					43	88.9	30	68.4	33	62.4	16	26.8
	~1					130	44.75	32	15.1	25	12.1	18	10.5
	計	0	0	0	0	181	204.35	74	194.9	90	468.6	50	225.6
5	40.1~							1	42.2				
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15					2	20.8	3	36.6	6	79.5		
	5.1~10					2	11.6	5	34.9	6	41.5		
	1.1~5					39	83.8	61	140.1	39	91.1		
	~1					54	27.8	84	46.1	46	23.05		
	計	0	0	0	0	97	144	154	299.9	97	225.15	0	0
4	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15									1	12.6	1	11.5
	5.1~10									2	3.4	4	9.7
	1.1~5							1	0.3	1	0.9	1	1
	~1									4	16.9	6	22.2
	計	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3	4	16.9	6
3	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15												
	5.1~10												
	1.1~5												
	~1												
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15												
	5.1~10												
	1.1~5												
	~1												
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	40.1~												
	35.1~40												
	30.1~35												
	25.1~30												
	20.1~25												
	15.1~20												
	10.1~15												
	5.1~10												
	1.1~5												
	~1												
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※グリッド毎に取り上げた黒曜石を重量別に示している。グリッドに属することが可能な遺構（土坑・配石など）から出土した黒曜石も含んでいる。グリッドに属せない遺構（住

黒曜石重量一覧表②

K										L					
a		b		c		d		e		a		b		c	
点数	重量 g														
1	23.4	1	34.6			1	26.9								
		1	12.9			2	12.8								
17	33.1	1	5.6			6	14.9								
8	4	9	18.3			6	4.2								
		1	0.9					1	0.7						
26	60.5	13	73.3	0	0	15	58.8	1	0.7	0	0	0	0	0	0
1	1.3	15	31.8	3	8.8	2	3.2	5	12						
1	0.4	7	5.9	2	1.6										
2	1.7	22	37.7	5	10.4	2	3.2	5	12	0	0	0	0	0	0
8	15.6	1	9.5	1	14.1	7	15.6								
4	2.2			1	8.9	19	48.5								
12	17.8			15	19.7	1	0.5								
		1	9.5	36	82.2	8	15.1	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	2	12.9			1	6.1								
		10	22.2			2	3.3								
4	3	5	3.6												
		18	38.7	0	0	3	9.4	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	5.4			3	4.7								
		1	0.5	10	4.4	2	1.3								
0	0	2	5.9	10	4.4	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

解法・ロームマウンド) は第7表に示している。

第7表 駒形遺跡遺構・地点別黒曜石重量一覧表

34・35号住居址: J21-e4 (a)・(b)・e5 (b), K21-a3-5, b3-5, c3 (a)・(c)・(d), c4-5, K22-a1 (b)			36号住居址			1号ロームマウンド: J20-d4 (a)・d5 (a)・(b), c4 (d), e5 (b)・(c)・(d)			3号ロームマウンド: K20-3 (a)・(b), c3, d3 (a)・(b), c4 (b)		
g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g
40.1~			40.1~			40.1~			40.1~		
35.1~40			35.1~40			35.1~40			35.1~40		
30.1~35	1	33.4	30.1~35			30.1~35			30.1~35		
25.1~30	1	27.6	25.1~30			25.1~30	1	25.7	25.1~30		
20.1~25	1	22.8	20.1~25			20.1~25			20.1~25		
15.1~20	9	149.9	15.1~20			15.1~20	2	30.8	15.1~20		
10.1~15	17	215.4	10.1~15			10.1~15	3	34.2	10.1~15		
5.1~10	28	189.9	5.1~10	1	5.5	5.1~10	22	154.1	5.1~10	4	23.8
1.1~5	161	348.6	1.1~5	9	19.6	1.1~5	112	260.6	1.1~5	11	26
~1	133	81.5	~1	12	5	~1	83	56.2	~1	15	10.3
計	351	1069.1	計	22	30.1	計	223	561.6	計	30	60.1
第1調査区覆乱			第2調査区			I12-a5			I13-b1		
g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g
40.1~			40.1~			40.1~			40.1~		
35.1~40			35.1~40			35.1~40			35.1~40		
30.1~35			30.1~35			30.1~35			30.1~35		
25.1~30	1	27.8	25.1~30			25.1~30			25.1~30		
20.1~25	3	65.2	20.1~25			20.1~25			20.1~25		
15.1~20	3	53.6	15.1~20			15.1~20			15.1~20		
10.1~15	12	142.8	10.1~15			10.1~15			10.1~15		
5.1~10	20	138.5	5.1~10	3	22	5.1~10			5.1~10		
1.1~5	97	224.4	1.1~5	8	17.3	1.1~5			1.1~5	1	1.5
~1	48	34.7	~1	13	9.5	~1	1	3	~1	1	0.05
計	184	667	計	24	48.8	計	1	3	計	2	1.55
I13-b2			K18-C3			K18-C4			K18-C5		
g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g
40.1~			40.1~			40.1~			40.1~	1	43.4
35.1~40			35.1~40			35.1~40			35.1~40		
30.1~35			30.1~35			30.1~35			30.1~35		
25.1~30			25.1~30			25.1~30			25.1~30		
20.1~25			20.1~25			20.1~25			20.1~25	1	22.1
15.1~20			15.1~20			15.1~20			15.1~20		
10.1~15			10.1~15			10.1~15			10.1~15	1	13.5
5.1~10			5.1~10			5.1~10			5.1~10		
1.1~5			1.1~5	1	2	1.1~5	1	2	1.1~5	4	8.2
~1	1	1.4	~1			~1			~1	2	1.2
計	1	1.4	計	1	2	計	1	2	計	9	88.4
1トレンチ			2トレンチ			3トレンチ					
g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g	g	点数	重量 g
40.1~			40.1~			40.1~			40.1~		
35.1~40			35.1~40			35.1~40			35.1~40		
30.1~35			30.1~35			30.1~35			30.1~35		
25.1~30			25.1~30			25.1~30			25.1~30		
20.1~25	1	23.7	20.1~25			20.1~25			20.1~25		
15.1~20	1	16.2	15.1~20			15.1~20			15.1~20		
10.1~15			10.1~15			10.1~15			10.1~15		
5.1~10	9	55	5.1~10			5.1~10			5.1~10		
1.1~5	26	84.9	1.1~5	3	9.1	1.1~5			1.1~5		
~1	17	9.1	~1	2	1.4	~1	2	1.8	~1		
計	55	202.6	計	5	10.5	計	2	1.8			

第8表 駒形遺跡黒曜石集中地点出土黒曜石塊計測表①

グリット	法 量 (最大値)				種 別	No
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
J21-d2(b)	32.6	29.7	18.6	14.1	原石	兼中1
J21-d2(b)	27.2	16.2	15.1	5	石片	2
J21-d2(b)	30.8	24.4	19.6	13.5	原石	3
J21-d2(b)	37.4	20.6	13.1	18.1	原石	4
J21-d2(b)	35.7	23.7	11.7	10.3	原石	5
J21-d2(b)	34.1	17	16.9	12.6	原石	6
J21-d2(b)	31.8	24.8	15.7	16.1	原石	7
J21-d2(b)	35.3	13.3	12.7	9.1	原石	8
J21-d2(b)	37	22.7	11.3	8.5	原石	9
J21-d2(b)	34	22.5	8.3	7.4	原石	10
J21-d2(b)	42.2	26.2	10.9	10.3	原石	11
J21-d2(b)	38	21.9	14.4	14	原石	12
J21-d2(b)	36.2	24	20.1	16.5	原石	13
J21-d2(b)	40.9	19.4	13.7	13.5	原石	14
J21-d2(b)	30.6	20.8	12.6	8.2	原石	15
J21-d2(b)	38.4	22.3	14.2	13.3	原石	16
J21-d2(b)	30.7	23.7	21.2	14	原石	17
J21-d2(b)	43.7	33.5	14	16.7	原石?	18
J21-d2(b)	46.6	17.3	11.5	9.5	原石	19
J21-d2(b)	34.7	33.4	18.7	12.7	原石	20
J21-d2(b)	30.5	19.4	16.6	10.5	原石	21
J21-d2(b)	29.3	25.2	10.5	9.2	原石	22
J21-d2(b)	31.9	20.6	13.1	9.8	原石	23
J21-d2(b)	40.9	19.2	17.9	12.2	原石	24
J21-d2(b)	29.5	20.7	17.6	11.6	原石	25
J21-d2(b)	51.7	36.5	22.7	36.2	原石	26
J21-d2(b)	36.8	22.5	17.6	13.7	原石	27
J21-d2(b)	40.8	35	11.2	14.3	石核	28
J21-d2(b)	33	26.2	20.2	18.5	原石	29
J21-d2(b)	39.2	27.6	9	7.5	原石	30
J21-d2(b)	34.4	25.2	15	16.7	原石	31
J21-d2(b)	45.5	21.2	13.4	12.7	原石?	32
J21-d2(b)	34.2	28.5	10.9	10.9	原石	33
J21-d2(b)	32.1	21.3	20.7	15	原石	34
J21-d2(b)	34.1	24.8	18	18.3	原石	35
J21-d2(b)	33.1	25.9	19.7	14.1	原石	36
J21-d2(b)	29.9	18.6	15.6	13.5	原石	37
J21-d2(b)	28.6	21.2	9	5	原石?	38
J21-d2(b)	22.3	15.3	9.9	4.4	原石?	39
J21-d2(b)	41.6	26.6	21.6	24.8	原石	40
J21-d2(b)			6.1		原石 39と同一個体で6分割	41
J21-d2(b)	42.8	28.7	18.2	19.4	石核	42
J21-e2(c)	29.4	24.2	13.3	8.5	原石	43
J21-e2(c)	30.8	19	14.2	7.4	原石	44
J21-e2(c)	31.9	28	18.7	13.7	原石	45
J21-d2(b)	36.4	23.4	12.7	11.3	原石	46
J21-d2(b)			3.4		5点を47で取り上げ、4点は石片、1点は器種不明石器破損品	47
J21-c2(c)	33.4	23.5	18.3	13.6	原石	48
J21-c2(c)	29.3	23.9	21.9	16.5	原石	49
J21-c2(c)	35.7	29.9	16.5	15.7	原石	50
J21-c2(c)	41.2	25.9	12.1	12.8	原石	51
J21-d2(d)	32.6	19.4	4.5	2.8	原石?	52
J21-d2(d)	39.7	19.4	11	10.4	原石	53
J21-d2(d)	45.4	19.7	11	9.9	原石	54
J21-d2(d)	36	26.1	13.5	15.9	原石	55
J21-d2(d)	34.9	27.1	25.6	22.1	原石	56
J21-d2(d)	39	24	12	10.5	原石	57
J21-d2(d)	35.5	25.7	16.1	13.6	原石	58
J21-d2(d)	28.1	24.5	17.5	15.8	原石	59
J21-d2(d)	31.8	27	23.3	19.8	原石	60
J21-d2(d)	26.8	20.1	17.3	12.2	原石	61

第8表 胸形遺跡黒曜石集中地点出土黒曜石塊計測表②

グリット	法 量 (最大値)				種 別	No
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
J21-d2(d)	18.3	8.7	5.8	0.7	石片	62
J21-d2(d)	35.7	25.2	11.6	11.1	原石	63
J21-d2(d)	37.8	21	20	12.9	原石	64
J21-d2(d)	52.9	13.4	12.8	10.7	原石	65
J21-d2(d)	38.3	17.9	9.9	11	原石	66
J21-d2(d)	32.5	22.4	22	19.3	原石	67
J21-d2(b)	21.1	16.6	6.8	2.3	石片	68
J21-d2(b)	74.6	31.8	11.1	27.7	原石	69
J21-d2(b)	49.2	22.6	14.1	18.8	原石	70
J21-d2(b)	43.3	24.3	20.8	21	原石	71
J21-d2(b)	37	30.5	18.5	15.1	原石	72
J21-d2(b)	37	25.5	18.1	18.2	原石	73
J21-d2(b)	33.2	28.2	8.9	8.3	石片	74
J21-d1(a)	38.4	28.2	17.5	20.1	原石	75
J21-d1(d)	43.1	28.9	13.5	15.6	原石	76
J21-d2(d)				1.2	3点の石片を77で取り上げ	77
J21-d2(d)	40.6	19.2	12.9	13.5	原石	78
J21-d2(d)	38.5	30.8	11.6	11.8	石核	79
J21-d2(d)	34.6	23	13.2	11	原石	80
J21-d1(a)	31.2	28	21.2	21.5	原石	81
J21-c2(b)	41.7	29	26	30.6	原石	82
J21-d2(b)	28.6	22.4	22	15.6	原石	83
J21-d2(b)	32.1	22.1	14.4	12.8	原石	84
J21-d2(b)	39.1	19.8	14.8	10	原石	85
J21-d2(b)	35.6	20.6	13.7	12.3	原石	86
J21-d2(b)	31.7	20.8	20.8	13.5	原石	87
J21-d2(b)	40.1	19.8	19.5	19.2	原石	88
J21-d2(b)	31.6	23.2	20.6	15.9	原石	89
J21-d2(b)	42.3	16.6	9.3	11.4	原石	90
J21-d2(b)	46	25.3	23.1	23.7	原石	91
J21-d2(b)	55	22	14.7	20.1	原石	92
J21-d2(b)	34.7	25	14.8	11.9	原石	93
J21-d2(b)	29.9	18.6	18.3	10.9	石核?	94
J21-d2(b)	33.6	26.2	18.5	12.3	原石	95
J21-d2(b)	37.8	33.4	12.9	12.4	原石	96
J21-d2(b)	34.2	18.9	12.3	8.3	原石	97
J21-d2(b)	35.9	15.6	14.8	8.9	原石	98
J21-d2(d)	69.1	21.2	10.2	20.5	原石	99
J21-d2(b)	31.9	23	8.5	8.3	原石?	100
J21-d2(b)	44.1	33.8	17.3	26	原石	101
J21-d2(b)	35.5	23.4	11.4	8.3	原石	102
J21-d2(b)	37.5	20.1	19.6	11.6	原石	103
J20-d5(a)	28.2	21.3	14.3	10	原石	
J20-d5(a)	29.3	22.3	21.9	14.6	原石	
J20-d5(a)	31.6	18.6	11	6.1	原石	
J20-d5(a)	30.4	11.4	6.9	5.9	原石	
J20-d5(a)	34.9	19.8	7.3	4.7	原石	
J20-d5(a)	31.5	10.2	9.6	3.6	石核?	
J20-d5(a)	27.6	16.5	10	7.8	原石?	
J20-d5(b)	32.8	31.8	16	13.9	原石	
J20-d5(c)	25.5	22.8	9.4	5.7	石核?	
J20-d5(c)	23.1	21.5	12.5	4.8	石核?	
J20-d5(d)	50.7	24.4	14.7	11.7	原石	
J20-d5(d)	28.3	18.3	6.3	4.8	原石	
J20-d5(d)	36.3	18.4	5.6	3.2	原石	
J20-d5(d)	33.7	22.3	15.6	14.3	原石?石核?	
J20-d5(d)	33.9	19.7	21.8	10.7	原石?石核?	
J20-d5(d)	28.3	24.3	24	14.2	石核?	
J20-d5(d)	26.2	18.6	11.9	6	石核?	
J20-c5(a)	22.9	18.8	11.4	4.7	石核?	
J20-c5(a)	33.7	14.1	9.7	5.2	石核?	

第8表 駒形遺跡黒曜石集中地点出土黒曜石塊計測表③

グリット	法 量 (最大値)				種 別	No
	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
J20-c5(c)	37.5	20.4	17.4	11.2	黒石	
J20-c5(c)	31.4	20.9	13.9	6.6	石核?	
J20-c5(d)	65.8	27.7	24.3	42.2	黒石	
J20-c5(d)	27.3	25.5	9.4	7.3	黒石	
J20-c5(d)	37.4	22.5	18	10.9	黒石?	
J20-c5(d)	30.1	24.9	12.3	8	黒石?	
J20-c5(d)	22.4	21.8	14.6	7.7	石核?	
J21-b1(a)	51.3	29.3	16.9	19.1	黒石	
J21-b1(a)	23.6	21.9	11.1	4.8	石核?	
J21-b1	32.6	32	13.7	12.5	黒石	
J21-b1	38.9	18.5	18	11	黒石	
J21-b1	37.1	17.7	10.8	6.9	黒石	
J21-b1	37.1	28.1	8.7	9	黒石	
J21-b1	35.7	20.8	16	10.7	黒石?	
J21-c1(b)	55.4	19	17.5	20.4	黒石	
J21-c1(b)	32.2	26.6	16.1	13.4	黒石	
J21-c1(b)	35.5	22.7	11	8.4	石核?	
J21-c1(b)	29.7	22.2	7	4.3	石核?	
J21-c1(c)	28.3	21.6	16	9	黒石	
J21-c1(c)	30.7	23.1	13.7	7.6	黒石	
J21-c1(c)	45.5	19.3	15.9	10.5	黒石?	
J21-c1(d)	30.3	21.1	11.9	5.8	黒石	
J21-c1(d)	27.2	16.4	14.2	5.9	黒石	
J21-c1(d)	33.7	17.9	16.6	9.2	石核?	
J21-c1(d)	24.2	21	12.4	5.6	黒石	
J21-d1(a)	44.8	22.4	15.8	13.2	黒石	
J21-d1(a)	31.7	18.7	18.4	14.5	黒石	
J21-d1(a)	29.7	22.9	12.1	6.6	黒石	
J21-d1(b)	31	27.2	24.3	17.8	黒石	
J21-d1(b)	55.4	22.1	13.1	12.8	黒石	
J21-d1(b)	30.8	16.2	15.9	13.4	黒石	
J21-d1(b)	22.4	20.1	5.4	2.7	黒石	
J21-d1(b)	27.7	25.8	19.5	17.5	黒石	
J21-d1(b)	30.7	27.2	27	18.5	黒石	
J21-d1(b)	43.1	28.6	15.6	18.1	黒石	
J21-d1(b)	36.4	23.5	16.4	10.6	黒石	
J21-d1(b)	32.2	18.8	16.8	11.5	黒石	
J21-d1(b)	26	19.7	18.7	10.1	黒石	
J21-d1(b)	36.2	21.7	14.9	9.4	黒石	
J21-d1(b)	29.8	21.3	8.1	4.3	黒石	
J21-d1(b)	33	19	9	4.4	黒石	
J21-d1(b)	35.8	25.8	16.7	14.1	黒石	
J21-d1(b)	32.5	16.5	16.9	9.9	黒石	
J21-d1(b)	34.5	25.2	14.3	9.1	黒石	
J21-d1(b)	28.9	24.3	14.8	9	石核?	
J21-d1(b)	21.2	20.8	12	6.4	石核?	
J21-d1(b)	38.8	20.8	12.5	10.1	石核?	
J21-d1(b)	34.4	31.4	21.2	17.6	石核	
J21-d1(b)	33.2	24.3	11.2	6.6	石核	
J21-d1(b)	29.3	23.8	13	8.1	黒石?	
J21-d1(c)	36	23.3	19.3	19.6	黒石	
J21-d1(c)	26.6	18.2	14.6	6.5	石核?	
J21-d1(d)	37.8	30.5	26.6	25.4	黒石	
J21-d1(d)	38.8	25.2	16.9	14	黒石	
J21-d1(d)	37.2	20.9	11.6	7.5	黒石	
J21-e1(a)	32.7	25.2	13.6	9.7	石核?	
J21-e1(b)	29.1	28	22.1	18.6	黒石	
J21-e1(b)	36.9	25.3	20.6	18.1	黒石	
J21-e1(b)	57.1	13.8	10.5	12.2	黒石	
J21-e1(b)	31.4	23.1	9	5.2	石核?	
J21-e1(b)	32.2	30.4	21	18.2	石核?	

第8表 駒形遺跡黒曜石集中地点出土黒曜石塊計測表④

グリット	法 量 (最大値)				機 別	No
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
J21-e1(c)	30.6	26	18.1	12.6	黒石	
J21-e1(c)	33.2	21.3	15.5	11.8	黒石	
J21-e1(c)	41.7	20.3	17.1	13.7	黒石	
J21-e1(c)	32	21.9	9.9	5.5	石核	
J21-e1(c)	28.1	23.2	11	7.5	石核?	
J21-e1(d)	32.1	30.9	16.8	12.4	黒石	
J21-e1(d)	36.2	21.9	16.4	12.9	黒石?	
J21-e1(d)	35	24.4	20.8	18.1	石核?	
J21-c2(a)	42.7	20.9	19.9	19.1	黒石	
J21-c2(a)	49	24.5	16.9	15.3	黒石	
J21-c2(a)	41.3	26.2	12.9	11.2	黒石	
J21-c2(a)	27.8	17.7	13.3	8.4	黒石	
J21-c2(b)	32.8	22.1	18.4	14.6	黒石	
J21-c2(b)	31.7	24	19.5	14.1	黒石	
J21-c2(b)	31.4	24.2	21	14.1	黒石	
J21-c2(b)	31.4	18.5	16.8	9.3	黒石	
J21-c2(b)	24.6	22	9.1	4.5	石核?	
J21-c2(c)	27	25.2	17	13.4	黒石	
J21-c2(c)	35.2	14.8	12.9	8.6	黒石	
J21-c2(c)	30.5	18.5	10.3	8.8	黒石?	
J21-c2(d)	55.4	35.2	13.7	21.6	黒石	
J21-c2(d)	36.5	20.3	16.1	11.9	黒石	
J21-c2(d)	36.4	20	8.5	7.9	黒石	
J21-c2(d)	29.2	18.7	15	8.5	黒石	
J21-c2(d)	32	26.7	19.5	9.6	石核	
J21-d2(a)	41	26.4	17.5	20.1	黒石	
J21-d2(a)	32.9	24.7	23.2	17	黒石	
J21-d2(a)	38.9	21.1	16.5	12.4	黒石	
J21-d2(a)	30.2	18.7	8.7	5.3	黒石	
J21-d2(a)	38.2	28.3	8.5	10.9	石核?	
J21-d2(b)	44.3	29.9	18.7	20.5	黒石	
J21-d2(b)	42.1	26.2	20	18.3	黒石	
J21-d2(b)	37.7	26.6	21.1	19.2	黒石	
J21-d2(b)	32	26	24.5	17.9	黒石	
J21-d2(b)	39.9	28.7	18.3	17.3	黒石	
J21-d2(b)	35.1	23.9	20.3	17.5	黒石	
J21-d2(b)	33.7	28.7	21.9	19.2	黒石	
J21-d2(b)	34.7	29.9	15.7	12.4	黒石	
J21-d2(b)	39.1	22.4	14.3	12.6	黒石	
J21-d2(b)	36	26.2	15.7	13.4	黒石	
J21-d2(b)	47.2	25.1	16.6	18.2	黒石	
J21-d2(b)	31.6	22.8	18.2	15	黒石	
J21-d2(b)	32.3	25.7	17.7	13.4	黒石	
J21-d2(b)	31.8	19	17.5	14.1	黒石	
J21-d2(b)	36.6	19.3	16.5	11.9	黒石	
J21-d2(b)	34.9	22	24.5	11.4	黒石	
J21-d2(b)	41.8	25.3	8.2	9.2	黒石	
J21-d2(b)	45.7	24.2	10	9	黒石	
J21-d2(b)	29.9	23.7	12.9	9.6	黒石	
J21-d2(b)	28.3	17.7	13.3	8.9	黒石	
J21-d2(b)	30.1	21	11.3	8.2	黒石	
J21-d2(b)	25.9	22.6	14.1	6.7	黒石	
J21-d2(b)	28.8	21.7	10.4	7.3	黒石	
J21-d2(b)	28.3	21.9	15	7.3	黒石	
J21-d2(b)	46.2	25.5	18	20.1	黒石	
J21-d2(b)	37.5	26.7	22.8	18.6	黒石	
J21-d2(c)	34	26	18.9	15.2	黒石	
J21-d2(c)	28.8	22.5	13.8	10.6	黒石	
J21-d2(d)	36.4	24.5	18.4	14	黒石	
J21-d2(d)	29.9	20.3	15.8	14.5	黒石	
J21-d2(d)	30.5	23.3	19.4	15	黒石	

第8表 駒形遺跡黒曜石集中地点出土黒曜石塊計測表⑤

グリット	法 量 (最大値)				種 別	No
	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
J21-d 2 (d)	34	22.8	16.9	11.7	原石	
J21-d 2 (d)	32	18.7	18	10.3	原石	
J21-d 2 (d)	36.5	28.5	21.9	22.4	原石	
J21-d 2 (d)	36.4	28.4	22.3	20.7	原石	
J21-d 2 (d)	34.9	27.4	13.6	11	原石	
J21-d 2 (d)	33.4	29.1	13.8	13.8	原石	
J21-d 2 (d)	34.8	23.8	13.9	10.8	原石	
J21-d 2 (d)	42.2	19.5	10.2	8.3	原石	
J21-d 2 (d)	53.3	14.5	8.9	8.2	原石	
J21-d 2 (d)	27.7	16.3	17	13.1	原石	
J21-d 2 (d)	34.9	19.2	18.3	13	原石	
J21-d 2 (d)	34.5	24.6	13.8	10.5	原石	
J21-d 2 (d)	38.5	24.6	11.3	9.7	原石	
J21-d 2 (d)	44.3	21.4	12.8	12.6	原石	
J21-d 2 (d)	29	28.1	13.1	12.7	原石	
J21-d 2 (d)	43.5	18.6	13	8.8	原石	
J21-d 2 (d)	27.9	20.6	16.3	9.1	原石	
J21-d 2 (d)	36.5	21.8	5.7	5.1	原石	
J21-d 2 (d)	32.1	22	15.4	10.1	原石	
J21-d 2 (d)	32	20	18.5	13.1	原石?	
J21-d 2 (d)	39.5	19.9	17.1	14	石核?	
J21-d 2 (d)	29.6	26.1	20.1	16.9	石核?	
J21-d 2 (d)	31.6	20.2	18.2	13.4	石核?	
J21-d 2 (d)	30	11.8	13.1	5.9	石核?	
J21-b 3 (a)	31.4	30.4	11.4	7.7	石核?	
J21-b 3 (b)	34.2	28.1	14	16.8	原石	
J21-b 3 (b)	34.3	24.1	19	17.7	原石	
J21-b 3 (b)	44.3	29.5	12.4	14.6	原石	
J21-b 3 (b)	42.6	30.4	14.8	17.2	原石	
J21-b 3 (b)	39.2	28.7	12.2	14.6	原石	
J21-b 3 (b)	32.9	30.5	11	11.7	原石	
J21-b 3 (b)	44.4	38	11.8	15.3	原石	
J21-b 3 (b)	28.1	22.8	14.9	8.3	石核	
J21-b 3 (b)	31.7	19	12.2	8.8	石核	
J21-c 3	23.7	16.8	8.7	4	石核?	
J21-c 3 (b)	32.6	21.5	20.2	14.3	原石	
J21-c 3 (b)	33.6	22.6	20.6	15.8	原石	
J21-c 3 (b)	23.6	21.8	19.3	12.2	原石	
J21-c 3 (b)	31.6	22.2	13.7	9.2	原石	
J21-c 3 (c)	28.9	22.6	18.2	10.1	原石	
J21-c 3 (c)	25.8	20.9	16.7	11.8	原石	
J21-c 3 (c)	26.7	22.5	15	11.6	原石	
J21-c 3 (c)	31.3	28.8	15.6	12.4	石核?	

第V章 まとめ

第1節 大六殿遺跡

本節では(1)遺跡の変遷(2)土坑(3)土器の遺構間接合について概観し、大六殿遺跡のまとめとしたい。

(1) 遺跡の変遷

大六殿遺跡の初現は縄文早期前半で、住居址1軒(8号住居址)と土坑1基(31号土坑)から押型文土器が検出されている。住居には炉や柱穴がないが、これは市域における同時期の住居の発見例において、一般的な特徴といえる。縄文早期前半の押型文期は市域での活動が活発となる縄文時代最初の画期であり、遺構・遺物の発見量が増加するが、遺跡の位置する霧ヶ峰南麓は特にこの分布密度の高い地域として注目される。

縄文前期前半は土坑3基(29・31・147号土坑)から繊維土器が出土しているのみで痕跡は希薄である。29土と31土は坑底中央部に小ピットのあるタイプの土坑で、147土は陥し穴に分類される土坑である。

縄文前期末葉は台地の利用が最も活発な時期である。住居址3軒(1号・4号・5号住居址)、竪穴状遺構1基(2号竪穴状遺構)、土坑37基より同時期の土器が出土している。住居址の炉はいずれも地床炉であるが、規模は1号の長軸が5mであるのに対し、4号は2.4m・5号3.2mと大きく異なる。また黒曜石の出土量についても1号の1601.5gに対し4号68g、5号12.6gと大きい様相の異なりをみせる。この時期の土坑については後述するが、土器の出土のないものも含めると全体の3/4、120基以上がこの時期に構築されたものと推測される。これら縄文前期末葉の遺構が集中するのは、遺跡中央部の台地が最も平坦となるエリアで、特にV38・V39・W38・W39グリッド周辺の分布は極めて高い。

縄文中期初頭は、竪穴状遺構1基(1号竪穴状遺構)と土坑2基(144・145土坑)から同期の土器が出土している。144土は陥し穴に分類される土坑である。

縄文後期前葉は前期前葉と同様に出土量が多く、大六殿遺跡を特徴づける時期である。1号配石址の築かれた谷状の地形を囲むように4軒の住居址(7・9・11・12号住居址)が築かれている。今回発掘された11号住居址の埋燵炉は、この時期の土器研究の優良な資料となろう。その他、同時期の土器が出土している焼土2基(2・3号焼土址)も配石の脇に位置する。土坑は5基(12・43・59・115・157号)から後期前葉土器が出土しているのみで数は少なく、分布も散発的である。

縄文時代以降は、生成時期のはっきりしない溝址を除くと、平安時代に2軒の住居址(2・6号住居址)が築かれた後、近現代とみられる野留めが築かれるまで遺構は検出されていない。

(2) 土坑

①縄文前期末葉の土坑について

縄文前期末葉土器が出土している土坑は37基(22・28・46・47・48・51・58・60・61・63・65・68・72・73・74・77・78・82・83・84・85・87・90・91・92・94・95・96・100・101・117・120・122・126・129・134・142号土坑)である。出土土器を構築時期のものと評価すると、大六殿遺跡の土坑全体159基の内の約23%となる。また土坑159基のうち時期を推定できる土器のないものは111基で、全体の約70%を占めている。

単純にこの70%を按分し23%に加えると、全体の約77%が縄文前期末葉に構築されたものと推測され、数にすると120基を超える。

これらの土坑は遺跡中央部の台地が最も平坦となるエリアに集中し、隣接あるいは重複する傾向にある。この理由として i 近視関係にあるものなどを近くに葬った結果、ii 耐久年数を越えたものを近くに再構築した、などが浮かぶが想像の域をでるものではない。この時期の特徴的な土坑には、次に述べる「墓塚とみられるもの」「袋状の坑底ピットのある土坑」などが含まれている。

②「墓塚とみられるもの」について

47号土坑からは袂状耳飾りと共に縄文前期末葉土器が出土している。土器は半完形となるものが3固体ある。この時期の土坑の数は多いが、副葬品を伴う埋葬の様相を示すと考えられるものは少なく、特異な存在である。尚、出土土器うち5号住居址の土器と接合したものがあ。両者の距離は3m程度である。

③「袋状の坑底ピットのある土坑」について

坑底の端から袋状のピットの掘り込まれたものが4基(44・45・84・143号土坑)ある。44土・45土・143土の袋状ピットは1つ、84土は2つある。それぞれ坑底の端から斜めに袋状のピットが掘り込まれている点に特徴がある。このうち44土から縄文土器、84土の袋状ピットからまとまった量の縄文前期末葉土器が出土している。これと同様な形状を示す遺構は、茅野市内では北山菖蒲沢A遺跡・馬捨場遺跡で確認されている。北山菖蒲沢A遺跡からは縄文前期末葉土器が出土し、馬捨場遺跡では覆土出土炭化物(ケヤキ)の放射性炭素年代測定で縄文前期末頃に比定される年代が測定されたと報告されている。縄文時代前期末葉にみられる土坑の一形態として認識されるが、前述のように大六殿遺跡の土坑のうち、前期末葉の土坑は全体の77%(120基以上)に達すると考えられ、その構築の割合は多くない。この傾向は縄文前期末葉の遺構が数多く検出されている北山菖蒲沢A遺跡においても同様である。

④「陥し穴」について

形態から陥し穴とみられる土坑は14基(6・23・27・34・36・40・130・131・139・144・146・147・148・157号土坑)である。これらは台地上に重複することなく、広い範囲に分布している。このうち147土から縄文前期前半・144土から縄文中期初頭・157土から縄文後期前葉が出土して他、34土・40土から縄文土器が出土しているが時期の詳細はわからない。

坑底ピットについては埋設方法の異なる2タイプの存在が報告(板井1998、2000)され、それぞれに異なる時代の形成を指摘している。すなわち「埋めこみ方法」は縄文時代、「打ち込み方法」は中世の構築方法とされている。大六殿遺跡の場合、157土に「打ち込み方法」の可能性があり、それを除く13基が「埋めこみ方法」によるものとみられた。「埋めこみ」に用いられる土は、主として掘り下げたローム土と観察された。いずれも坑底ピットの断り切り調査の結果ではなく、発掘者の感觸を頼りにしたものであるため厳密さに欠けるが、先に述べた出土土器を陥し穴の形成に近い時期の流れ込みと積極的に評価すると、13基の陥し穴の形成時期として縄文前期前半と中期初頭の2時期が候補として上げられる。157土については、縄文後期前葉の土器が出土しているものの、後期前葉の12号住居址と重複し混入の可能性が高い。またこの時期は居住空間として利用が盛んであることを考えると、形成は別の時期とみたほうがよいかもしれない。

⑤「小ピットをもつもの」について

陥し穴に分類される上記の14基を除き、坑底の中央部に小ピットを1つ有するものが8基(8・10・13・19・24・29・30・31号土坑)ある。このうち29土から縄文前期前半土器が、31土から縄文早期前半と全期前半土器が出土している。これらの8基も陥し穴の可能性を残すものであるが、以下の相違点を指摘できる。

i 平面形状が円形である。ii 坑底ピットの深さが陥し穴のものに比べ総じて浅い。iii 坑底ピットの覆土が黒褐色土で明瞭に検出される（陥し穴の坑底ピット覆土は掘り下げたローム土で、掘り込み範囲が不鮮明）。iv 分布が集中している（8・10・13・19・24土の5基がU33グリッド周辺に近接し、29・30・31土の3基がV36グリッド周辺に近接）。

以上の点から、陥し穴と断定するにはいたっていない。中央部に1つだけピットを有する点においては、1・3号竪穴状遺構と同様であるが、規模は大きく異なる。用途を推測させるような遺物の出土はないが、19土・29土より凹石が出土していることは注意される。

(3) 土器の遺構間接合

遺構間での土器の接合が2例認められた。1つは5号住居址と47号土坑である。両者の距離は約3mである。47号土坑は前述のとおり「墓坑」とみられるものであり、住居と墓所の位置関係を彷彿させ興味深い。

もう1つは、60号土坑・51号土坑・91号土坑である。60号土坑-51号土坑は約2.5m・51号土坑-91号土坑は約4.5mあり、ほぼ一直線に配列している。2例ともV39グリッド近辺にあり、何れの遺構からも縄文前期末葉の土器が出土している。遺構間は比較的接近しているが、場所はほとんど平坦な地であり流れ込みによるものではなく、人為的なものであると思う。

第2節 駒形遺跡

(1) 発掘調査で得られた2つの成果

この度の発掘調査は調査面積こそ狭小であるが、得られた成果は多大である。成果は以下の2点にまとめられる。

一つは国指定史跡範囲の西側に生活領域が確認されたことである。遺構の種類は敷石住居址・土坑(墓坑)・埋設土器・配石・土器集中地点・黒曜石集中地点・焼土址と多岐にわたり、後期の集落を一箇所に凝縮したかの状態である。遺構に伴う土器と検出面から出土した土器は、縄文時代後期前葉から中葉には限定される。各遺構は当該期の短い間に構築された遺構と判断される。遺構の時期が特定されたことで、居住域と墓域から黒曜石製の石器製作に関わる場（貯蔵場、加工場、選別場または廃棄場など）へと移り変わる様が見えられた。

もう一つは史跡指定要因である「黒曜石の集積、製作、搬出に関与していた集落跡と推定」を裏付ける遺構（黒曜石集中地点）が、考古学的な手法により検出されたことである。時期は後期中葉と特定され、黒曜石採掘址との関係を考える上でも良好な資料となろう。

(2) 黒曜石の集中出土について

黒曜石集中地点では原石とみられる黒曜石塊が多量に出土した。採取先と採取方法は不明であるが、何らかの目的で当遺跡に搬入されたことは明白である。問題はこれらの黒曜石塊が石器の素材となり得るものなのか否か、さらに石器の素材であるのか否かである。その評価は黒曜石集中地点がどのような場であるのかを考える上で重要な点となる。具体的に言えば、①石器の素材となり得る黒曜石塊を貯蔵した場で、いわゆる「集積」遺構、②石器を製作した場で、製作前または製作中を示す遺構、③石器の素材を選別した場で、利用価値のない黒曜石塊が置き去りにされた、または廃棄されたことを示す遺構（注1）などの解釈が可能である。

①～③を考える好例は、当遺跡の西方約2.5kmに所在する棚畑遺跡第108号住居址の黒曜石集積遺構である。時期は中期中葉藤内Ⅰ式で、主柱穴を埋める土の中と（No1集積）、床面を掘り窪めた2箇所の小ピットに（No2・3集積）、黒曜石の原石と石核が集積されていた。重量をみると、No1・No3集積の黒曜石は10～20gの範囲に集中し、No2集積は20～40gの範囲に集中することが見て取れる。このことは重量別に黒曜石が貯蔵されたことを示し、重量を基準とする黒曜石の選別がなされたことを示唆している（註2）。当遺跡の原石の重量はNo1・3集積と同様10～20gに集中し、その他の法量も酷似している。当遺跡の黒曜石塊は選別されたものと考えられる。

続いて、住居址内に黒曜石を貯蔵した目的である。報告書には「多くが原石で占められ、大ききのバラつきが少ないことから、原石を選択していることがわかる」と記され（註3）、両極打法により得られた多量の剥片と石核の大きさ・多さから、両極打法で素材剥片を作出し石鏃生産に関わっていた可能性を指摘している。そうであるならば、貯蔵された黒曜石は石器の素材であり、貯蔵目的は石器製作のための貯蔵、または集落外へ搬出するための貯蔵となる。先に記したとおり、重量別に選別された黒曜石が小ピットに貯蔵される点からみれば、石器の素材と考えることが自然であると思われる。現代人の感覚では「小粒」と思ってしまう10～20gの黒曜石も、石器となり得る十分な大きさを備えた、利用価値のある黒曜石であったと思われる。

棚畑遺跡の黒曜石集積遺構から当遺跡出土の黒曜石塊を評価するならば、選別を経た石器の素材となり得る黒曜石塊であると考えられる。このことが当遺跡に残された黒曜石塊の存在理由を的確に示すものであれば、黒曜石集中地点とは①または②により解釈される。さらに、3号配石の北西脇にある202号土坑の存在は、①または②の解釈を補強するものである。しかしながら、黒曜石塊とともに出土した他の黒曜石（剥片・裂片・砕片・石器・石器未製品など）の詳細な観察と分析を抜きにして、集中地点の場の性格を特定することはできないであろうし、選別・貯蔵・加工・廃棄が同一地点で行われたことも考慮する必要がある。

現段階において、黒曜石集中地点がどのような場であるかの特定は時期尚早である。しかし、考古学的手法により黒曜石が多量に出土することが面的に確認され、原産地から多量の黒曜石塊が搬入された遺跡であると確認されたことは当遺跡において大きな意義がある。

近年、鷹山遺跡群の星貴峠の調査において、縄文時代草創期と後期に黒曜石の採掘活動が活発化したことが明らかにされた。第1号採掘址では後期中葉（加曾利B1式）の土器が出土し、採掘時期も当該期と推測されている。また、各地に供給された黒曜石の原産地分析の結果によると、後期・晩期に信州系黒曜石の供給が増加すると考えられている。現状では当遺跡の黒曜石塊の採取先・採取方法、ならびに各地に供給された黒曜石との関係は不明である。今後、原産地分析と詳細な観察による分析がなされれば、後期中葉段階における黒曜石の採取から消費までの実態を究明する一資料となるであろう。

(3) 胸形遺跡の調査を終えて

平成6・8年の県教育委員会の詳細分布調査では、国史跡範囲の西側を面す農道から検沢川までの間に試掘トレンチが入れられていない。遺物が濃密に採集された場所を試掘する計画であり、遺物の採集が期待できない水田は当初から試掘の対象となり得ない場所であった。また、検沢川に面する傾斜地に当たり、水田造成に伴う地形の改変が随所に見られるため、地形的・経験的な見地から遺構検出の可能性は低く見られていたのではないかと想像される。試掘から外れ、国史跡の指定候補地ともなり得なかったことは残念である。しかし、過去の調査および詳細分布調査で判然としなかった後期の人々の生活の痕跡が面的に捉えられ、お

およその土地利用の変化が捉えられたことは、今後史跡を活用していく上で貴重な資料となるであろう。

今回の調査範囲約600㎡はほ場整備事業により消滅したが、史跡から検沢川までの間は同事業に係る盛り土により遺構が保存されている。史跡範囲と同様に、駒形遺跡を語る上で重要な場所であることを認識し、この場所が現状のまま保存されるよう関係者と調整を図っていきたい。

(註1) 黒曜石の一部を実見された河原喜重子氏の指摘による。

(註2) 諏訪考古学研究会の例会で田中総氏が指摘している。重量を基準とした黒曜石の選別の原因として、

A：原産地で個別に原石採取を行った結果、大粒（小粒）の原石だけが集まり、そのまま集落内に集積しておいた。

B：原産地では大小取り混ぜで一括採取し、集落に戻ってから原石の粒ぞろえを行い、それぞれサイズ別に集積された。

と予面されている。

(註3) 剥離作業が行われていない原石は5×4cmのものが多く、拳大のものは1点である点、2×2cmの小粒なものもある点から、「黒曜石原産地より原石を選択して搬入したとは思えず、原産地の所謂ズリ部より粒状のものを掻き集めてきた状況が窺える」と記されている。

第3節 結 語

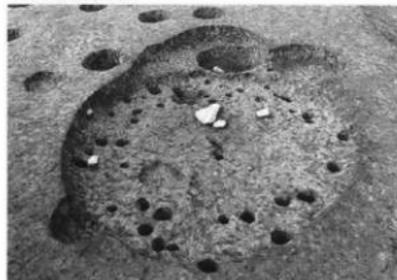
大六殿遺跡は平成11年度に、駒形遺跡は平成11・12年度に発掘調査を行い、ここに報告書を刊行することができた。しかしながら、今回の報告は遺物の分析・資料化が不十分のまま刊行したものである。今後ともこの不足を補い考察を進め、多くの方のご尽力によって国史跡に指定され、後世に伝えられていくこととなった駒形遺跡の活用のための資料としていきたい。多くの課題を残し本稿を閉じるが、順次解明していきたいと思う。多くのご鞭撻をお願いしたい。

引用・参考文献

- 茅野市教育委員会1974年 『丸山遺跡』
茅野市教育委員会1995年 『上の平遺跡』
茅野市教育委員会1978年 『よせの台遺跡』
茅野市教育委員会1986年 『高風呂遺跡』
茅野市教育委員会1998年 『八幡坂遺跡』
茅野市教育委員会1990年 『棚畑』
茅野市教育委員会1999年 『向林遺跡』
茅野市教育委員会2000年 『買地遺跡』
茅野市教育委員会2001年 『大桜遺跡』
茅野市教育委員会2001年 『大田苺遺跡』
茅野市教育委員会2001年 『一ノ瀬・芝ノ木遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2002年 『馬捨場遺跡』
米沢考古学クラブ 1973 『古道』
宮坂虎次 1983年 『駒形遺跡』『長野県史 考古資料編 全1巻(1)主要遺跡(南信)』
宮坂虎次 1986年 『駒形遺跡』『茅野市史 上巻』
長野県教育委員会1997年 『大規模開発事業地内遺跡—遺跡詳細分布調査報告書』



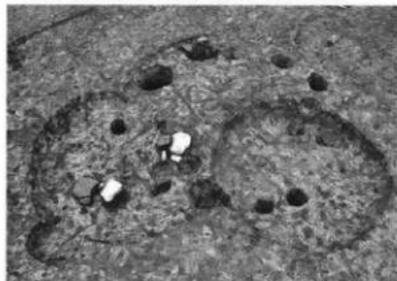
大六殿遺跡全景



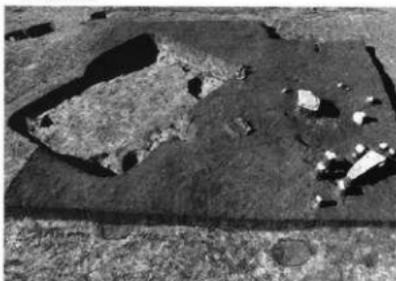
1号住居址・奥に1号堅穴状遺構・55土・56土



1号住居址

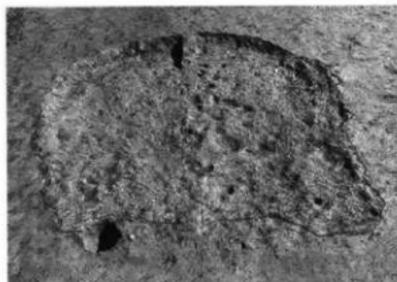


左より4号住居址・5号住居址・2号堅穴状遺構

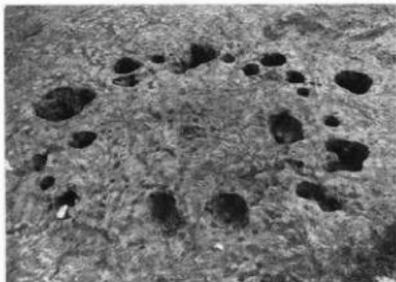


左に6号住居址・右に7号住居址

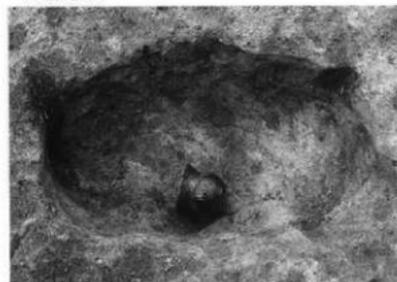
大六殿 2



8号住居址



9号住居址



9号住居址遺物出土狀況



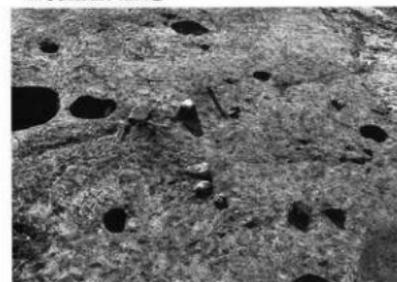
11号住居址



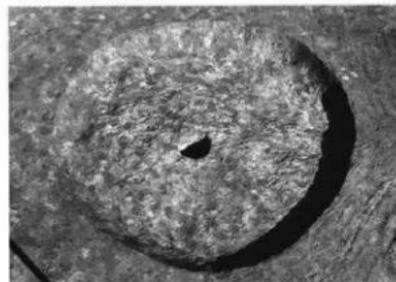
11号住居址炉断面①



11号住居址炉断面②



12号住居址



3号壁穴状遺構



1号配石址①



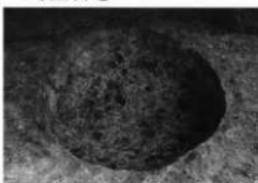
1号配石址②



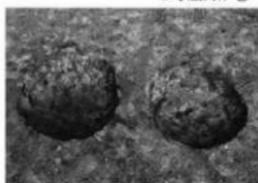
1号屋外炉①



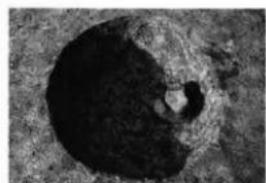
1号屋外炉②



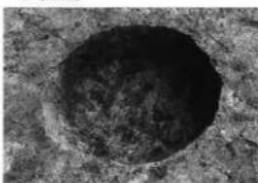
1号土坑



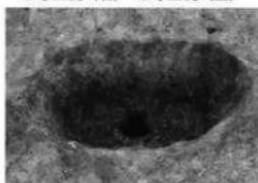
2号土坑 (右) · 3号土坑 (左)



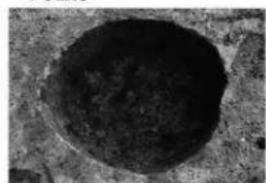
4号土坑



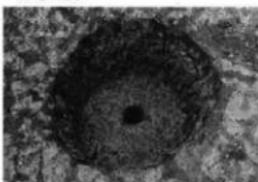
5号土坑



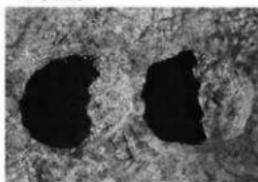
6号土坑



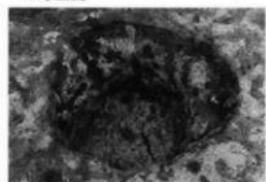
7号土坑



8号土坑

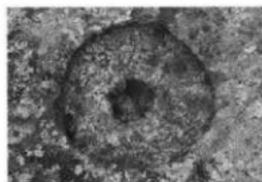


9号土坑 (左) · 10号土坑 (右)

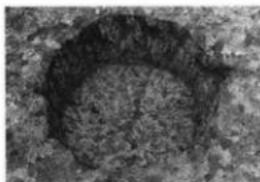


12号土坑

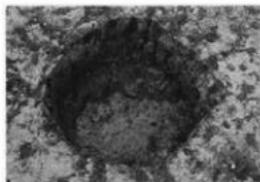
大六殿 4



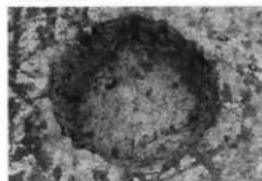
13号土坑



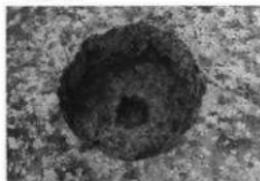
14号土坑



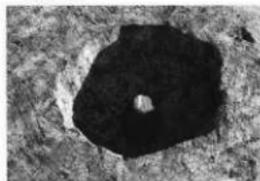
16号土坑



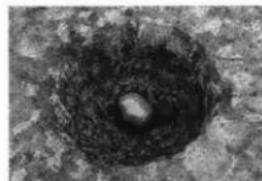
18号土坑



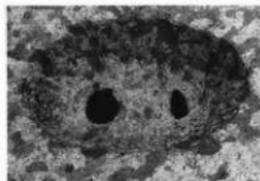
19号土坑



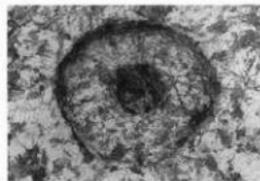
21号土坑



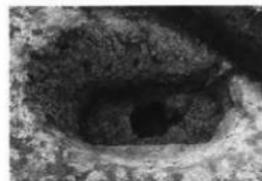
22号土坑



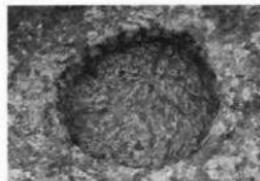
23号土坑



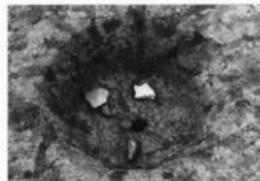
24号土坑



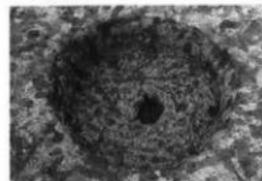
27号土坑



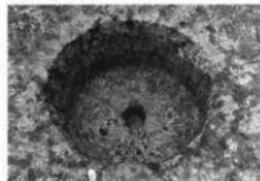
28号土坑



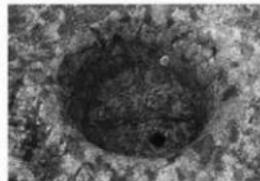
29号土坑



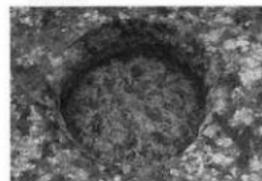
30号土坑



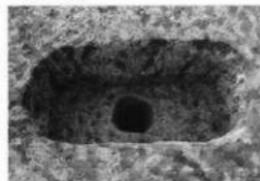
31号土坑



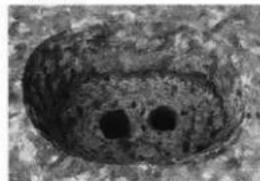
32号土坑



33号土坑



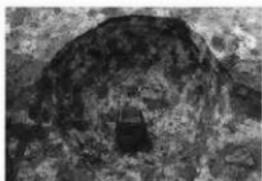
34号土坑



36号土坑



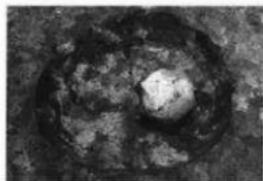
37号土坑



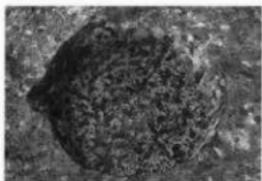
39号土坑



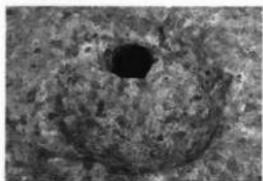
40号土坑



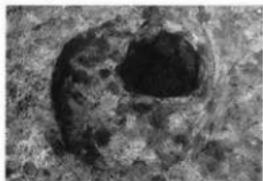
41号土坑



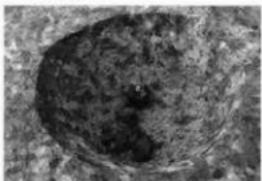
43号土坑



44号土坑



45号土坑



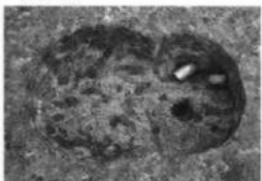
47号土坑



47号土坑遺物出土狀況①



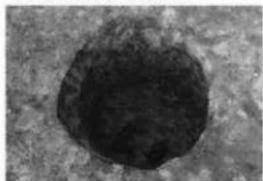
47号土坑遺物出土狀況②



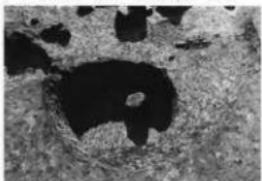
48号土坑 (右) · 58号土坑 (左)



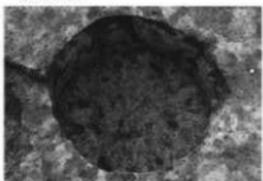
50号土坑



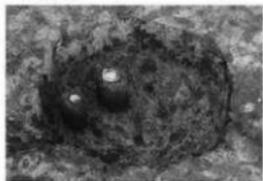
53号土坑



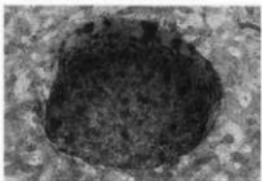
56号土坑 · 1号壑穴状遺構



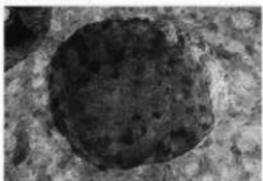
60号土坑



61号土坑 (右) · 62号土坑 (左)

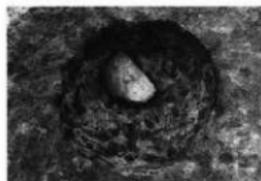


63号土坑

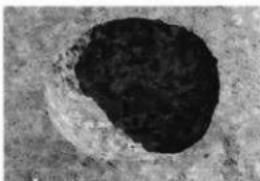


64号土坑

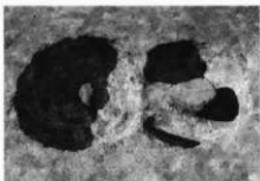
大六殿 6



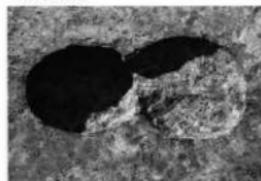
68号土坑



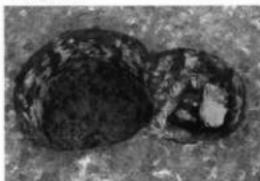
69号土坑



77号土坑(右)·78号土坑(左)



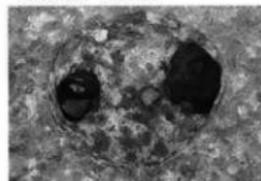
79号土坑·80号土坑



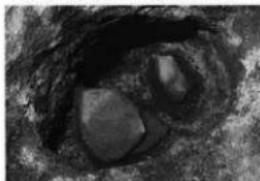
82号土坑(左)·83号土坑(右)



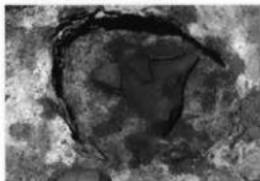
83号土坑遺物出土狀況



84号土坑



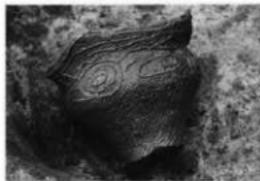
84号土坑遺物出土狀況①



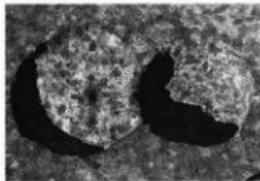
84号土坑遺物出土狀況②



85号土坑



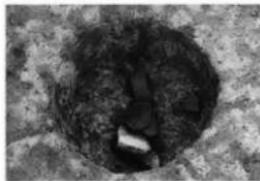
85号土坑遺物出土狀況



88号土坑(右)·89号土坑(左)



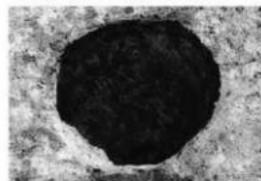
91号土坑·1号溝土层断面



101号土坑



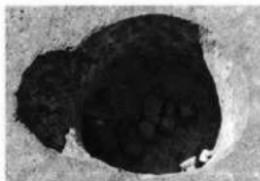
106号土坑



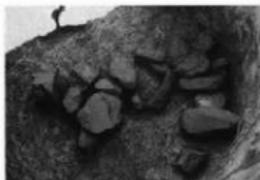
111号土坑



117号土坑



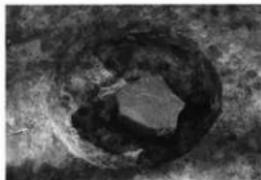
110号土坑(左)·120号土坑(右)



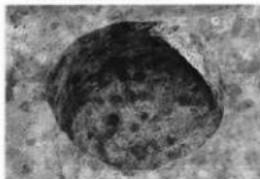
120号土坑出土状况



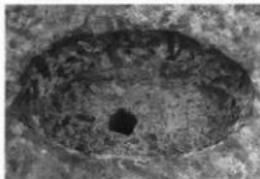
123号土坑 (右) · 124号土坑 (左)



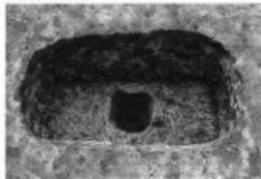
125号土坑



126号土坑



130号土坑



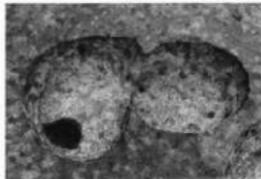
131号土坑



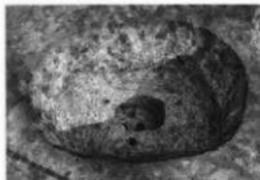
139号土坑



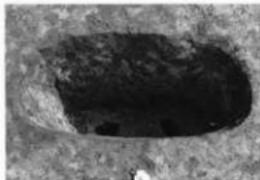
141号土坑



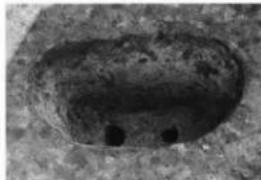
142号土坑 (右) · 143号土坑 (左)



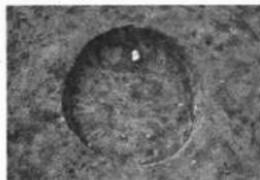
144号土坑



147号土坑



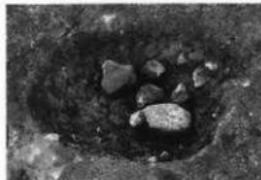
148号土坑



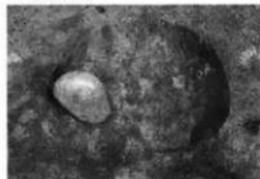
151号土坑



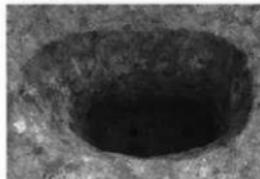
152号土坑



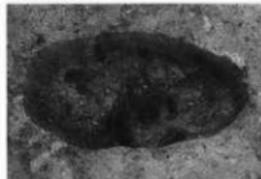
153号土坑



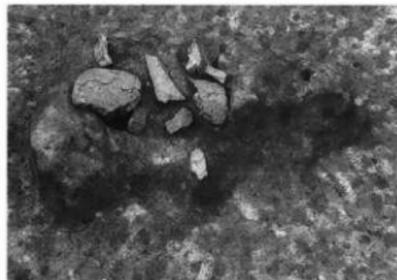
155号土坑



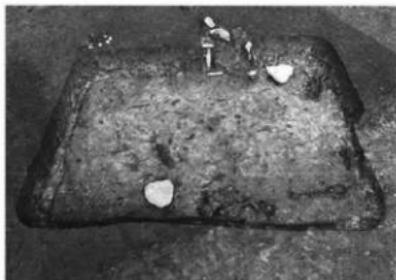
157号土坑



158号土坑



2号住居址(平安)カマド



6号住居址(平安)



6号住居址(平安)カマド断面



1号溝址・2号溝址



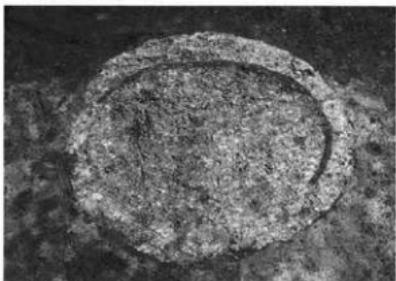
1号溝Cセクション



1号溝Dセクション



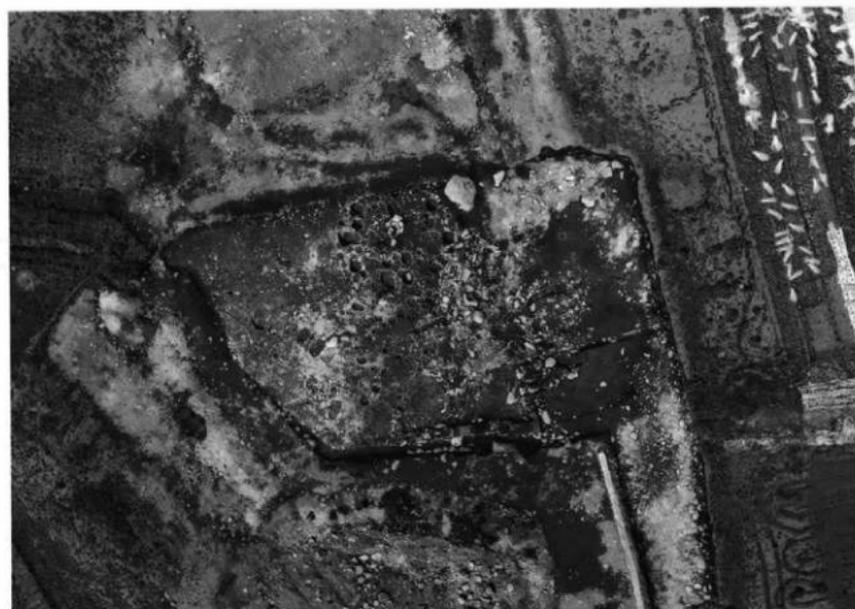
2号溝Fセクション



1号野溜め・1号溝



駒形道跡発掘調査区 (上空・北から)



駒形道跡第1調査区 (上空から)

駒形2



第1調査区 (南西から)



第2調査区 (南西から)



試掘1トレンチ (東から)



試掘2トレンチ (東から)



試掘3トレンチ (東から)

駒形 3



34・35号住居址敷石検出
状態（南西から）



34・35号住居址（南西か
ら）



36号住居址検出状態（北
から）

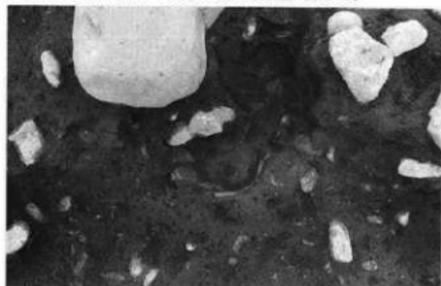
駒形 4



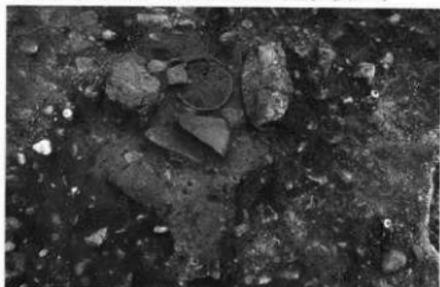
34・35号住居址内 105号土坑出土状態 (東から)



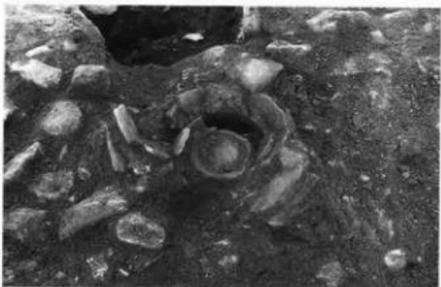
34・35号住居址内 177号土坑土器出土状態 (西から)



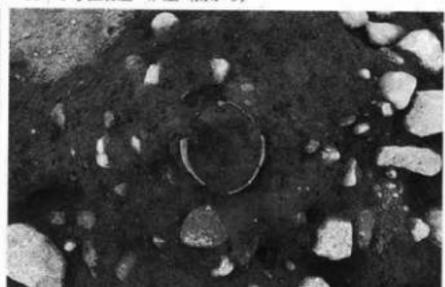
34-a号住居址 炉址 (南西から)



34-b号住居址 炉址 (南から)



34-c号住居址 炉址 (南西から)



35号住居址 炉址 (南西から)



1号埋設土器 (北東から)



2号埋設土器 (北東から)



墓坑群（西から）



墓坑群（東から）

駒形6



2号配石・3号ロームマウンド (南から)



3号配石 (南西から)



土器集中 (南東から)



土器集中 (東から)



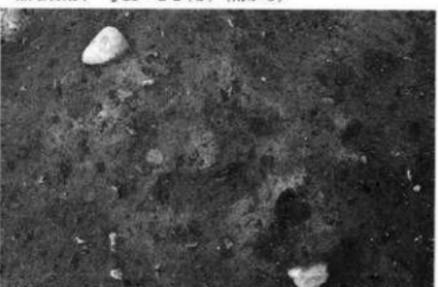
黒曜石集中・3号配石 (南西から)



黒曜石集中 J21-d2(b) (南から)



黒曜石集中 J21-d2(d) (東から)



1号焼土址 (南から)

報告書抄録

ふりがな	だいろくでんいせき こまがたいせき							
書名	大六殿遺跡 駒形遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業米沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小池岳史 小林健治							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塚原2丁目6番地1号 Ⅸ.0266-72-2101							
発行年月日	西暦2002年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
大六殿	茅野市 米沢 北大塚	20214	33	36° 02′ 17″	138° 11′ 33″	1999. 9. 9 ～ 1999. 12. 28	6,000m ²	県営ほ場整備 事業
駒形	茅野市 米沢 北大塚	20214	34	36° 02′ 12″	138° 11′ 29″	2000. 3. 1 ～ 2000. 7. 24	600m ²	県営ほ場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大六殿	集落址	縄文	住居址8（早期前半1・前期末業3・後期前業4） 整穴状遺構3・配石1・土坑158・焼土址5・屋外炉1	土器（早期前半・前期前半・前期末業・中期初頭・後期前業） 石器（丸石・台石・石皿・磨石・門石・敷石・定角式磨製石斧・打製石斧・横刃型石器・スクレイパー・石匙・石鏃・石錐・ピース・エスキュー、剥片・石核・原石・珠状耳飾り） 土師器・灰釉陶器・須恵器・砥石			駒形遺跡と連続する縄文と平安の集落址	
		平安	住居址2	中世陶器片				
		近現代 不明	野溜め1 溝址2					
駒形	集落址	縄文	住居址3 土坑200 配石2 埋設土器2 土器集中地点 黒曜石集中地点 焼土址1	縄文後期土器 黒曜石				

大六殿遺跡・駒形遺跡

——原宮ほ場整備事業米沢地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書——

平成14年3月17日 印刷

平成14年3月20日 発行

編 集 行 茅野市教育委員会
長野県茅野市塚原2丁目6番地1号
☎ (0266) 72-2101 (代)

印 刷 水明社印刷所
長野県茅野市塚原2丁目12番30号
